

## 民俗事例の窓(2) —自治体は民俗をどのように描いてきたのか—

齋藤修平

### はじめに

本稿は、前号に続いて近年の市町村史ブームのなかで、民俗調査が調査団という、気の合った仲間間で実施され、編纂された『民俗編』ないしは民俗の調査報告書といった類の章立てをいわば「民俗」資料として提示したものである。県内で調査され、記述された「民俗」というものが本稿では網羅的（実はそれほどでもない）に示されているから、インデックスとして重宝だというコメントも何人からかいただいたが、今回の「章立て」資料の追加提示で、その重宝性は増してくるだろうと思う。もちろんそうした目論見もあったわけだが、本来は民俗調査という名で実施されてきた、私たちのスタイルの反省材料としての意味も忘れてはならない、と思うのである。

さて、県内の市町村において、民俗調査の実施と成果としての民俗資料の刊行の動機は区々だと思うが、市町村史編纂の一環として、『近代編』や『近世編』や『中世編』と伍して行くために、独立した『民俗編』をまとめていく過程で事前にいわば小手調べ的に、どのようなテーマが潜んでいるのかを探り込みするために、ある地域を調査対象として選び、民俗調査を実施し、報告書を『民俗編』の前触れ的に刊行していくスタイルである。いわばその報告書群の成果に依拠しながら、最終的に集大成としての『民俗編』に活用していくために刊行されていく事例である。もちろん、『民俗編』として、限りあるページであるから、民俗報告書は積み残しをしないための補完的機能も有しているのが特色である。いずれにしても、事前の報告書の刊行は、『民俗編』というものが完成品だという位置づけを強化する役割を担って刊行されていたものである。次にあるのが、『民俗編』が刊行された後に、補遺編として報告書を刊行するスタイルである。これは、完成品としての『民俗編』が刊行された後だけに、なかなかこのスタイルは一般的ではないが、ひとつの動機としては存在しているのである。また、相当古い時代に、市町村史が編纂された自治体では、その中に収録された民俗資料が少なかったり、あまり本格的に扱われていなかったりした場合にあらためて、民俗資料を刊行していく、というケースである。さらに、重くて、厚くて、場所をとって、文字ばかりが多くて、読む気がしない（実際に読まれていない）『民俗編』から脱却していこうという趣旨で、分冊スタイルでビジュアル情報を多くした民俗資料を刊行していこうというケースもある。また、市町村史刊行のなかで、『市町村史研究』といったいわば、市町村史編纂室が発行する紀要的な資料にも民俗資料が紹介され、すこしばかり研究的な視点から述べられているのが特色である。

いわば、こういったケースで市町村では民俗資料が刊行されているのが目立つ。ただし、結果的には幅広い読者からの需要を期待はしているものの、ほとんど読者がいないまま、刊行されているのが現状だといえよう。それは恐ろしいほどにステレオタイプ化した章立ての繰り返しでもわかるように、調査者が章立てマニュアルにそって調査を実施し、それぞれの分担した調査項目をこなしていく、という作業の存在と無縁ではない、と思うのである。

## 埼玉県内民俗編等刊行状況

年代	市史	町史	村史
1968年(昭和43年)	『川越市史』 民俗編		
1969年(昭和44年)	『大宮市史』 第五巻民俗文化財編		
1980年(昭和55年)	『浦和市史』 民俗編 『川口市史』 民俗編 『与野市史』 民俗編		
1981年(昭和56年)	『入間市史』 民俗・文化財編		
1983年(昭和58年)	『戸田市史』 民俗編 『東松山市史』 民俗編 『和光市史』 民俗編		
1984年(昭和59年)	『岩槻市史』 民俗資料編Ⅱ		『滑川村史』 民俗編
1985年(昭和60年)	『狭山市史』 民俗史料編 『志木市史』 民俗資料編Ⅰ 『八潮市史』 民俗編	『大井町史』 民俗編 『騎西町史』 民俗編	
1986年(昭和61年)	『新座市史』 第四巻 民俗編	『皆野町誌』 資料編五民俗	
1987年(昭和62年)	『草加市史』 民俗編		
1988年(昭和63年)	『桶川市史』 第六巻民俗編 『鳩ヶ谷市史』 民俗編		
1989年(平成1年)	『北本市史』 第六巻民俗編 『所沢市史』 民俗 『富士見市史』 資料編7民俗	『日高町史』 民俗編	
1990年(平成2年)		『白岡町史』 民俗編	
1991年(平成3年)	『久喜市史』 民俗編 『三郷市史』 第九巻民俗編	『長瀨町史』 民俗編Ⅱ野の石造物 『鶴ヶ島町史』 民俗社会編	
1992年(平成4年)			
1994年(平成6年)	『蕨市史』 民俗編		
1995年(平成7年)	『朝霞市史』 民俗編 『鴻巣市史』 民俗編	『児玉町史』 民俗編	
1996年(平成8年)		『江南町史』 資料編五民俗	
1997年(平成9年)	『幸手市史』 民俗編		

## 報告書等

年代	市史	町史	村史
1982年(昭和57年)		『寄居町の民俗』 町史編纂調査報告書第八集	
1983年(昭和58年)	『坂戸市史』 民俗史料編Ⅱ 『飯能市史』 資料編Ⅵ		
1985年(昭和60年)	『坂戸市史』 民俗史料編Ⅰ		
1986年(昭和61年)			『年中行事』 りょうがみ双書1
1988年(昭和63年)			『祭りと芸能』 " 2
1989年(平成1年)	『上尾の民俗Ⅰ』 『半田の民俗』 三郷市史調査報告書3集	『毛呂山の民俗誌』 Vol.1	
1990年(平成2年)	『高須の民俗』 " 6集	『毛呂山の民俗誌』 Vol.2	『両神山』 りょうがみ双書3
1991年(平成3年)	『坂戸の民俗一』 横沼の民俗 坂戸市民俗調査報告書		『昔がたり』 " 4
1993年(平成5年)	『坂戸の民俗二』 赤尾の民俗 坂戸市民俗調査報告書	『毛呂山の民俗誌』 Vol.3	『玉川の民俗』
1994年(平成6年)		『毛呂山の民俗誌』 Vol.4	
1996年(平成8年)	『坂戸の民俗三』 坂戸宿の民俗 坂戸市民俗調査報告書	『毛呂山の民俗誌』 Vol.5	『かわさとの民俗』 第一巻 村史調査報告書第五集

## 通史編等より抜粋

年代	市史	町史	村史
1961年(昭和36年)	『行田市史』 下巻 第十六章民俗		
1977年(昭和52年)		『妻沼町史』 第十一章民俗	
1982年(昭和56年)	『加須市史』 第六編		
1982年(昭和57年)		『吉田町史』 三 民俗	
1983年(昭和58年)			『荒川村誌』 第七編民俗
1984年(昭和59年)	『熊谷市史』 第三章民俗		
1989年(平成1年)		『川本町史』 第六編民俗	

040 『人間市史』 民俗・文化財編

昭和56年11月

目次

第一章 人間市の概観…………… 3

第一節 自然環境…………… 4

位置と面積 地勢 気象概況

第二節 人間市への道…………… 4

(1) 歴史的な沿革…………… 10

原始 古代・中世 近世 近代 連合戸長役場制度

(2) 行政の変遷…………… 17

(3) 戸数と人口動態…………… 18

人口分布と男女別構成 世帯当りの人口の推移  
(世帯の変遷)

第三節 交通と生産活動…………… 30

(一) 交通…………… 21

1 道路…………… 21

日光裏街道 川越道と青梅道 成木道の開さく  
霞橋の架設

2 鉄道とバス…………… 27

(二) 生産活動…………… 30

茶 織物 養豚

第二章 町と村の暮し…………… 37

第一節 村落社会の自治組織…………… 38

(一) 上藤沢の事例…………… 39

1 村の変遷…………… 39

2 区の機構と行事…………… 39

各区の役員 村仕事 区費 共有地

3 近隣組織—班とクミアイ—…………… 40

第二節 村の社会生活の具体相…………… 42

(一) 木蓮寺の社会生活…………… 43

1 概観…………… 43

2 村の社会組織…………… 43

クミ クミイリ クミアイ

3 村の運営組織…………… 45

ムラヤク 大字総会 字費 ムラヅキアイ  
村仕事 地区対抗運動会

4 村の交際…………… 47

クミヅキアイ クミアイツキアイ キンジョツ  
キアイ タチアイ チルイ付合い

5 村の諸集団…………… 51

木蓮寺囃子の会 青年団 消防団 甚六会 若  
葉会 葉桜会 婦人会 大正会 霞会 長寿会  
笹子俳句会 同年会

(二) 坊の社会生活…………… 58

1 概観…………… 58

2 村の社会組織…………… 59

ハン ムライリ クミアイ

3 村の運営組織…………… 62

村の役場 総会 区費 共有地

4 村の交際…………… 63

ムラヅキアイ クミアイツキアイ ソトクミア  
イツキアイ シンルイツキアイ

(三) ゼンワン・ゼンワンクミアイ…………… 66

1 成立時期とその理由…………… 69

2 膳・椀類を共有する単位…………… 69

3 保管場所と規約…………… 71

4 使用する機会…………… 72

5 使用状況と将来の展望…………… 72

6 膳・椀組合の事例…………… 73

坊の事例 黒須の事例 小谷田の事例

第三節 衣・食・住…………… 74

(一) 衣生活…………… 74

1 普段着—下着—…………… 74

2 仕事着…………… 76

野良着 職人 雨具

3 晴れ着…………… 78

婚礼 子供の着物

4 喪服…………… 82

5 衣類の管理…………… 83

(二) 食生活…………… 83

1 日常の食事…………… 83

主食 粉食 穀箱 小麦粉 副食 タクアン漬  
梅干し 切り干し 干柿 コンニャク 肉・魚・

海産物

2 代用食・その他…………… 87

サツマダンゴ タラシモチ 乾燥芋 モロコシ  
酒

3 調味料…………… 88

味噌 醤油 その他

4 食器類…………… 90

箱膳 カブト鉢 ハンギリ オタマジャクシ  
タケジャクシ 弁当箱

5 ハレの日の食事…………… 92

結婚式の食事 葬式の食事

6 行事と食事…………… 93

ケンチン汁 赤飯 あずき飯 団子 マンジュ  
ウ 大福 キガラチャ ポタモチ

(三) 住生活…………… 94

1 民家の間取り…………… 99

2 商家の間取り…………… 105

3 民家の特色…………… 108

ジョウグチ カゼヨケ 便所 井戸 イロリ  
トボグチとセド アガリハナ カマド 屋根

4 建築儀礼…………… 114

ヂマツリ ドウヅキ 大工の仕事始め タテマ  
エ トウリョウオクリ ヤウツリ イエミ

第四節 町の諸職…………… 119

(一) 酒造業…………… 119

酒造 トウジ 酒の出荷 信仰 禁忌

(二) 味噌屋…………… 123

(三) 箱屋…………… 124

職人 桐タンス 茶箱

(四) 機屋…………… 126

機屋 女工と奉公人 男衆 女中 サクアイ  
原料 デハタ ハタ

(五) 製糸工場…………… 131

製糸 工女 作業工程 糸引き

(六) 紺屋…………… 134

紺屋 職人 小僧時代 染料 染色法

(七) 桶屋…………… 136

桶屋 桶職 製品

(八) 市・問屋・旅館・茶屋…………… 139

穀市・穀問屋 繭市・繭問屋 青物市・青物問  
屋 茶問屋 旅籠 茶や 飯屋 馬方

第三章 生産・生業…………… 151

第一節 茶業…………… 152

(一) 狭山茶の概観…………… 152

(二) 狭山茶の歴史…………… 152

(三) 戦中戦後の動向…………… 158

(四) 狭山茶の課題…………… 162

第二節 稲作と畑作…………… 164

(一) 稲作…………… 164

1 ツミタ…………… 164

タウナイ タネフリ タマワリ ミボシ タノ  
クサトリ 肥料 オトシミズ タカリ 脱穀  
モミスリ

2 ウエタ…………… 169

タウナイ ネエマ タネフリ クロツケ・タカ  
キ ナエトリ タウエ

3 ドブツタ…………… 171

4 陸稲…………… 171

種まき 草取り ソウゴ ヒエヌキ 刈り入れ  
脱穀

(二) 畑作…………… 172

1 麦作…………… 172

畑うない (ジョゴシラエ) ナワズリ 堆肥  
トッチャアナゲ 麦まき 土かけ 麦踏み ウ  
ネタテ 土入れ サクリヨセ (サンバンザク・  
サンバンゴ) 麦刈り 脱穀 カラヌキ 麦作  
りの祝い

2 甘藷…………… 180

サツマ床 フセコミ 発芽 苗さし トッチャ  
アナゲ ツルカエシ サツマ掘り 貯蔵

(三) 肥料…………… 186

灰 下肥 堆肥 金肥

第三節 養蚕…………… 186

(一) 養蚕の時期	1 8 9	スハラライ 餅つき カマジメ 年神棚 門松
(二) 桑	1 9 0	立て シメ飾り ミソカップライ オオミソカ
(三) 蚕 室	1 9 2	2 一 月
(四) 養蚕具	1 9 3	正月 初詣で 年男 アサダテ 若水くみ 新
コノメ 蚕綱 タケジ マブシ 種紙		年会 オオバン 仕事始め タナサガシ オタ
(五) 蚕の飼育	1 9 7	キアゲ 七草 山の日 倉開き 小正月 マユ
掃き立て(催醒) 上蔭		ダマ アボヒボ 女の正月 ウママチ ナリキ
(六) 繭買い一座繰り	2 0 2	ゼメ 山の神 エビス講
(七) 蚕の病気	2 0 3	3 二 月
軟化病 硬化病 白キョウ病 微粒子病 リョッ		節分 稲荷講 オシラ講
キョウサン カビによる病気 ダニによる病気		4 三 月
(八) 養蚕信仰	2 0 4	女の節供 春彼岸
第四節 野鍛冶		5 四 月
(一) 弟子入りから独立まで	2 0 6	お釈迦様
(二) 鍛冶屋のモノビの日	2 0 8	6 五 月
(三) 西 行	2 0 9	端午の節供
(四) 得意先		7 七 月
(五) 製作品	2 1 0	土用餅 テンノウサマ 七夕
(六) 鍛冶屋の仕事場	2 1 5	8 八 月
ふいご ホド 金敷		七夕 盆 観音様
(七) 鍛冶屋の取り引き業者		9 九 月
1 金物屋		ハッサク 二百十日 彼岸 十五夜
2 炭焼き		10 十 月
3 棒屋	2 1 6	十三夜 オカマ様
4 下駄屋	2 1 7	11 十一月
(八) 鍛冶屋組合	2 1 7	トーカンヤ
(九) 転 業	2 1 8	12 十二月
第五節 カゴ屋		カナヤマ様 冬至
(一) カゴ屋とカゴ売り	2 1 8	第五章 信仰生活
(二) カゴ屋職人	2 1 9	第一節 神社と祭礼
年季奉公 一年のスケジュール		(一) 神職の生活
(三) カゴ作り	2 2 1	(二) 助祭関係
カゴの材料 カゴ作りの工程		(三) 神葬祭
(四) カゴ屋の製品		(四) 神社の祭礼
1 大 物	2 2 8	1 八坂神社祭礼(東金子地区新久)
茶摘みザル ショイカゴザル 運搬カゴザル		2 テンノウサマ 祭りの準備 ヨミヤ ムラマワ
ヒラカゴ クワカゴ コノメダナ クズハキカ		3 神明神社祭礼(藤沢地区上藤沢)
ゴ コイツミザル クマデ 豚カゴ カケナガ		4 氷川神社祭礼(豊岡地区高倉)
シ ヨコビツ ハシゴ ゴミクズカゴ カクカゴ		5 稲荷神社祭礼(金子地区根岸)
2 小 物	2 2 9	6 春日神社祭礼(豊岡地区黒須)
マカイ ショウギ カブセ スイノウ ワンザ		7 愛宕神社祭礼(豊岡地区扇町屋)
ル ブツタイ ウケ ビク		(一) 寺院の活動
(五) 竹製品組合	2 3 0	(二) 住 職-普山式 無住寺
第六節 川 漁		(三) 寺院の活動
(一) 入間川・霞川の概況	2 3 3	(四) 寺と寺のつながり
(二) 川の利用	2 3 4	第三節 民間信仰
(三) 漁 撈		(一) 遠隔地信仰の諸相
1 入間漁業組合	2 3 6	榛名講 伊勢講 御嶽講 三峰講 大山講 戸
2 魚の種類	2 4 0	隠講 平心講 秋葉講 富士講 古峰講 七石
瀬にいる魚 淀にいる魚		講 成田講
3 漁 法	2 4 0	(二) 講と生活
4 仕掛けによる方法	2 4 0	1 オヒマチ講(野田の事例)
オキバリ イシグラ ウケ ヤナ ブッチャキ		2 オシラ講
瀬干し ドク流し クキヨセ ブツタイ コト		野田の事例 黒須の事例 花ノ木の事例 上谷
カキ ヨトボシ カジッカ突き		ヶ貫の事例 縄竹の事例 木蓮寺の事例
5 竿釣り	2 4 4	
友釣り ドブ釣り アンマ釣り ボッカン釣り		
カバリ釣り カゴ釣り 脈釣り タタキ トビ		
ッキ サシコミ コロガン		
6 網 漁	2 4 6	
投網 カスミ網 モジ 地引網		
第七節 柚 師		
(一) 山仕事	2 4 9	
薪づくり 伐採の方法 石高 ネカス位置 ネ		
ガワ剥ぎ サメツケ クチをキル ヤをハル		
オイマサカリ サルクチをオトス トメキ		
(二) 山の信仰	2 5 7	
第四章 年中行事	2 5 9	
第一節 年中行事の概況	2 6 0	
1 曆		
2 節日の総称	2 6 5	
第二節 年中行事		
1 正月準備	2 6 6	

3	ビシャ講 (高倉の事例) ……………	3 4 6	クチガタメ ユイノウ
4	エビス講 (野田の事例) ……………	3 4 6	(三) 婚 礼……………
5	阿弥陀講……………	3 4 6	ヨメモカエ 嫁入り道中 デムカエザケ トボ
	的場 南矢萩・萩原の事例		サカズキ シュウゲン 嫁のカオミセ サトガ
6	百万遍講 (狭山の事例) ……………	3 4 7	エリ 再婚 リエン
7	念仏講……………	3 4 7	第三節 葬 送
	坊の事例 南中野の事例 花ノ木の事例		(一) 臨 終……………
8	産泰講 (縄竹の事例) ……………	3 4 8	死の予兆 魂呼び 死の直後
9	塩釜講 (下藤沢の事例) ……………	3 4 8	(二) 葬式の準備……………
10	稲荷講……………	3 4 8	手伝い 死亡通知 通夜 団子づくり ニワバ
	狭山東組の事例 上藤沢石田組の事例 寺竹の		(三) トムライ……………
	事例 花ノ木の事例 南矢萩の事例 野村イッ		アナバ 湯灌 死装束 出棺と野辺送り 葬列
	ケの事例 西三ッ木の事例 野田の事例 新久		埋葬とネンブツダンゴ
	の山中組 (十一区) の事例 子どもの稲荷講		(四) 死後の供養……………
	上谷ヶ貫西組の事例 中神の事例 下谷ヶ貫の		初七日と忌明け 年忌供養
	高山イッケの事例 根岸の事例		第七章 言語伝承……………
(三)	家をめぐる神々		第一節 言語伝承の概況……………
1	屋敷神の信仰……………	3 5 9	第二節 昔 話……………
	稲荷様 金比羅様 金山様 水天宮		猿蟹合戦 カチカチ山 つばめ孝行 ネズミ浄土
2	日常生活のなかの神……………	3 6 1	雀こじよろ ベニ皿・かけ皿
	荒神様 大神宮様 エビス様 井戸神様		第三節 伝 説
(四)	路傍の石仏		1 地名由来……………
1	地藏信仰……………	3 6 2	根通り 金子 黒須 藤沢 水入 木蓮寺 坊
2	子育て地藏……………	3 6 3	善藏新田 宮前町 サルンボ山 ショウザエ
	扇町屋の子育て地藏 根岸の子育て地藏		モン 谷戸 ミタチイリ おます淵 おたけ淵
	藤沢の六地藏		おまん坂
3	北向き地藏……………	3 6 3	2 歴史人物……………
	大森の北向き地藏 上藤沢の北向き地藏		金子十郎とくつつ虫 新田義貞の涙 新田義貞
4	廻り地藏……………	3 6 6	の神社 新田一族と田中姓 宮寺の古戦場 黙
5	稲 荷……………	3 6 8	旨和尚 ジャックイジエモン
	ハタヤの稲荷 カサモリ稲荷		3 木の部……………
6	庚 申……………	3 6 9	高倉の竜頭杉 雨乞い松 高養寺のサザンカ
	二本木の庚申様 根岸の庚申様 野田の庚申様		4 水の部……………
7	馬頭観世音……………	3 7 0	十郎清水 不老川
	藤沢の馬頭様 縄竹の馬頭様		5 諸神諸仏……………
8	塞の神……………	3 7 1	伊勢向地藏 高倉の不動様 長徳寺の薬師様
	新久の塞の神		西久保観音の力石 野田中池の稲荷様 馬場の
9	杓子神……………	3 7 1	稲荷様
	野田のオシャモジ様 根岸のオシャモジ様		6 塚の部……………
第四節	民間医療		木蓮寺の塚
(一)	民間薬……………	3 7 3	7 その他……………
	ジュウヤク ナガネギ トウヤク マツヤニ		野田の開発伝承 コガイトの年取り 飯能戦
	ミョウガ クズコ ゲンノショウコ ユキノシ		板碑
	タムギ クチナシ コメヌカ サツマイモの		第四節 世間話
	煮汁 マムシ ムカデの油 セミの脱げ殻 テ		1 狐に化かされた話……………
	ッポウ虫 馬肉 その他		2 カップの話……………
(二)	神仏の祈願……………	3 7 7	桂川のカップ コハゼ川のカップ
	棘ぬき地藏 イボ地藏 伊勢向き地藏 カサモ		3 諸神諸仏の話……………
	リ稲荷 呑竜様 庚申様 地藏 薬師様の井戸		オカマ様の話 天王様のたたり 御嶽様のた
	塩船観音 お百度参り		り 恵比須様 山の神
第五節	キリスト教		4 円照寺の七不思議の池……………
(一)	入間市の教会……………	3 7 8	5 その他……………
(二)	信徒の生活……………	3 7 9	ヤドウカイ
(三)	集 会……………	3 8 0	第五節 俗 信
(四)	日曜学校		1 天候に関するもの……………
(五)	イースター……………	3 8 3	2 雨乞い……………
(六)	クリスマス……………	3 8 4	新久 木蓮寺 寺竹 野田 上藤沢
第六章	人の人生		3 死の予兆……………
第一節	産 育		4 身体に関するもの……………
(一)	妊 娠……………	3 8 6	妊娠 夜泣き 乳歯 背丈 爪切り 腫れ物・
	妊娠祈願 妊娠 妊娠中の禁忌 安産祈願		ほくろ 足 髪の毛 ヘソの緒
(二)	出 産……………	3 8 9	5 火防せ……………
	出産場所 陣痛 出産の方法 出産の手伝い		女の腰巻 火吹き竹
	ウブユ 後産の処理 ヘその緒の始末 授乳		6 小動物……………
	産後の妊婦 出産祝い		クモ ミミズ 狐の嫁入り
(三)	生児・育児儀礼……………	3 9 3	7 植 物……………
	オンチャ ミヤマイリ オクイゾメ 初正月		七草がゆ やさかがし ナスのカラムシ
	初節供 初誕生 年祝い オビトキ 成人 厄年		マメカラムシ・ゴマをムス
第二節	婚 姻		8 ことわざ……………
(一)	結婚相手の選択……………	4 0 0	9 ケ ガ……………
	結婚の条件 タレアイとヨアソビ ミアイ		10 その他……………
	ヌスットミー ハシカケとオセワニ		生まれかわり 物隠し 虫封じ
(二)	結 納……………	4 0 3	第六節 禁 忌

1	妊娠に関するもの	4 5 4
2	葬式に関するもの	4 5 4
3	日に関するもの	4 5 4
4	方角に関するもの	4 5 5
5	衣食住に関するもの	4 5 5
6	家 霊	4 5 7
	植物に関するもの(ヤツデ イチョウ イチジク ザクロ 孟宗竹 ぶどう ビワ 椿 ナンテン) 作物に関するもの(ウリ キュウリ ヤツガシラ ニンジン)	
第七節	方 言	4 5 8
第八章	遊戯と娯楽	4 9 9
第一節	子どもの遊び	5 0 0
(一)	大正時代の子どもの遊び	
1	遊びの種類	5 0 1
2	遊びの内容	5 0 3
	アシタテンキニナーレ イッチキチ カイセン ジックイ ジッタンバツタン イシケリ ジュウロクムサシ マリツキ スモウ オシクラ マンジュウ コオリスベリ アヤトリ オヒト オハジキ オニンギョウヅクリ オリガミ ナンゾナンゾ コマ タケウマ テンリュウト バシ チャノミデッポー タガマワシ ミコシヅクリ ダンゴヌスミ トーカンヤ オタマジ ヲクシトリ カエルトリ カニトリ セミトリ ドドメトリ	
3	遊びの特色	5 1 2
(二)	現代の子どもの遊び	
1	遊びの種類	
2	伝承の実態	5 1 3
第二節	民俗芸能	
(一)	獅子舞	5 2 0
(二)	祭りばやし	5 2 1
	高倉の祭りばやし 西三ッ木の祭りばやし 仏子の祭りばやし 二本木の祭りばやし 野田の祭りばやし 扇町屋の祭りばやし 南峰の祭りばやし 春日町の祭りばやし	
(三)	万 作	5 3 0
	万作の演目と配役	
第九章	民俗関係文書	5 3 7
はじめに		5 3 8
	組織運営諸記録一般 ゼンワン関係 衣食住関係 寺社関係一般 榛名講関係 御嶽講関係 地蔵・観音講関係 古峰講関係 平心講関係 国富講関係 大山講関係 根本山関係 光明真言講関係 丸山講関係 稲荷講関係 戸隠講関係 庚申講関係 その他 川漁関係 諸職関係 婚礼・葬祭関係 娯楽関係	
	入間市史編さん計画概要について	7 9 3
	入間市史編さん関係者名簿	
	あとがき	
	昭和56年11月1日発行	
	入間市	

041『幸手市史』民俗編

平成9年3月

目 次

幸手市の概要	1	
第一編 村の民俗		
第一章 住まいと暮らし		
第一節 村の景観と農家の造り		
1 集村の集落	1 8	
(1) 自然堤防じょうの集落	1 9	
(2) 後背湿地の集落	2 3	
2 散村の集落	2 5	
3 水害と水塚		
(1) 地水と大水	2 8	
(2) 水にかかわる伝説	3 1	
	流されたイチョウの大木/ボカボカドの砂山/安戸の構え堀/将門の首/西沼に沈んだ舟の小判/大鱗山のいわれ	
(3) 昭和22年大水	3 3	
	大水が来る前/大水の流路/大水の様子/対策	

	と避難/大水の間の活動/耕地の被害	
(4) 水 塚		4 0
	概要/分布/呼称/築造時期/屋敷での配置/土盛りと高さ/建物/堀や池/舟/塚の上に乗られる神仏	
4 農家の造り		
(1) 屋敷取り		6 8
	屋敷の向きと形/建物の配置/生垣と屋敷林	
(2) 農家の形		7 5
	屋根の形/間取り/土間と馬屋	
第二節 住まいの使い方		
1 火 所		8 1
	主家と別棟の火所/主屋内部の火所/ガスの普及	
2 照 明		8 5
3 井 戸		8 6
	釣瓶井戸/掘り抜き井戸/井戸の利用/井戸の信仰/水道の普及	
4 付属屋		9 0
	外便所/外風呂/井戸/納屋/藁小屋/木小屋/灰小屋/堆肥小屋/土蔵/味噌部屋/鶏小屋/馬屋/その他の家畜小屋/蚕室/隠居屋/門	
第三節 住まいの造り		
1 職人の生活と技術		
(1) 大工職人		9 7
(2) 屋根葺き職人		9 8
	修繕時代/茅の調達/食事と風呂/屋根葺き作業/グシの装飾/寄り合いと信仰	
2 建築儀礼		1 0 1
	タテマエ/ダイクオクリ	
第二章 衣食と暮らし		
第一節 家族の装い		
1 仕事着		
(1) 男の仕事着		1 0 6
	ジバン/シャツ/股引/前掛け/手甲・ハボキ/防寒着/子供の仕事着/洋装化	
(2) 女の仕事着		1 0 9
	ノラジバン/長着/股引/モンペ/腰巻/ノラオビ/前掛け/田植えの衣装/手甲・脚半/防寒着/洋装化	
2 普段着と外出着		
(1) 普段着		1 1 3
	男の普段着/男の下着/女の普段着/女の下着/おしめ/足袋/子供の普段着/小学生の通学着	
(2) 外出着		1 1 6
	チョックラギ/ヨソイキ	
3 晴れ着		
(1) 子供の着物		1 1 7
	誕生/お七夜/お宮参り/ミツミイワイ/オビトキ	
(2) 婚礼の着物		1 1 9
	花嫁衣装/婚礼後の花嫁衣装/花婿の衣装/列席者の衣装/嫁入りに持っていく衣類	
(3) 年祝いの着物		1 2 1
(4) 葬式の着物		1 2 1
	男性の喪服/女性の喪服	
4 かぶり物・履物・雨具		
(1) かぶり物		1 2 2
	手拭い/帽子/菅笠	
(2) 履 物		1 2 4
	裸足/地下足袋/ゴム足袋/下駄/草履/わらじ	
(3) 雨 具		1 2 6
	蓑/ショイタ・キゴザ/傘	
5 寝 具		1 2 7
	布団/敷布など/枕/寝間着/座布団/カヤ	
6 衣服の制作・管理		
(1) 木綿の機織り		1 2 9
	木綿糸/染色/機織り	
(2) 絹の機織り		1 3 0
	絹糸/機織り/染色	
(3) 裁 縫		1 3 1
	学校での裁縫/お針の先生/裁縫の教材/裁縫所の服装/裁縫所の行事/家の針仕事/裁縫道具	
(4) 衣服の調達・管理		1 3 4

衣服の調達／洗濯／衣服の管理	
7 髪型	
(1) 男の髪型	1 3 6
(2) 女の髪型	1 3 6
少女の髪型／日本髪／ハイカラ／マルメ／木炭パーマ／ミミカクシ	
8 化粧	
(1) 化粧	1 3 9
女の化粧／小間物屋／オハグロ／マユオトシ	
(2) 洗濯	1 4 0
(3) その他(歯磨気／風呂)	1 4 0
第二節 日々の食生活	
1 生業と食事—普段の暮らしと食事	1 4 2
(1) 町場の仕事と食事	
米穀商の食事	1 4 2
工場の勤め人の食事	1 4 8
(2) 村の仕事と食事	
稲作を基調にした農家の食事	1 5 1
2 モノビの食生活名ど—特別な食事	1 6 3
(1) 年中行事と食事	1 6 4
餅搗き	1 6 9
ソバ・うどん打ち	1 7 2
正月の雑煮	1 7 3
イビリダンゴ スミツカレ	1 7 4
エビス講	
冬至	1 7 5
(2) 仕事の節目と食事	
定休日	
田植え	1 7 6
サナブリ	1 7 7
ニクハン	
刈り上げ	1 7 8
コキアゲ(稲) 初摺りの終了	1 7 8
第三章 年中行事	1 8 2
年中行事について／旧暦・新暦と月遅れ／農家の休日と年中行事／記録された年中行事	
第一節 春から夏の行事	
1 正月準備と二月の行事	2 0 3
すず払い／松飾りと注連飾り／餅月／大晦日／年神／年男／若水／正月注の食事／年始回り／節分／七草／鎌入れ／小正月／オンドアマ／繭玉団子／ケズリバナ／小豆粥／嫁御呼び／藪入り／二十日正月	
2 三月の行事	2 1 3
次郎の一日／初午／針供養／ひとつ目玉／春彼岸	
3 四月の行事(雛祭り)	2 1 6
4 五月の行事	2 1 7
お釈迦様の日／木綿坊主	
5 六月の行事(端午の節供)	2 1 7
第二節 秋から冬の行事	
1 八月の行事	2 1 8
釜の口開け／七夕／盆	
2 九月の行事	2 2 5
八朔／十五夜／秋彼岸	
3 十月の行事	2 2 6
オクンチ／十三夜／オカマサマ	
4 十一月の行事	2 2 8
十日夜／お日待ち／恵比須講	
5 十二月の行事	2 2 9
大師粥／冬至	
6 一月の行事	2 3 0
川浸り／ひとつ目玉／出替わり	
第四章 仕事の営み	
第一節 稲作	2 3 7
1 技術伝承	2 3 8
田うない／代掻き／苗代／種巻き／苗取り／田植え／田の草取り／田の管理／稲刈り／乾燥／運搬／脱穀・調整／初摺り／選別／俵詰め／精米	
2 掘り上げ田	2 5 1
3 稲作儀礼	
(1) 予祝儀礼	2 5 4
大正月の儀礼／クワイレ／小正月の儀礼	
(2) 播種儀礼	
(3) 田植え儀礼	2 5 5
(4) 収穫儀礼	
盆行事における儀礼	2 5 8
稲刈り終了後の儀礼	2 5 9
脱穀終了後の儀礼	2 5 9
初摺り終了後の儀礼	2 5 9
十日夜 大師粥 恵比須講	2 6 0
(5) 禁忌	2 6 0
第二節 畑作	
1 麦	2 6 1
耕起／整地／麦巻き／中耕／麦踏み／土入れ／麦刈り／脱穀・調整／俵詰め／精麦	
2 その他の作物	2 6 7
(1) そば	2 6 8
播種／中耕／収穫／脱穀・調整	
(2) 大豆	2 7 0
播種／手入れ／収穫	
(3) 小豆	2 7 1
播種／手入れ／収穫／脱穀	
(4) 粟	2 7 1
播種／手入れ／収穫／精粟	
3 畑作儀礼	
(1) 正月行事における予祝性	2 7 2
(2) 播種儀礼	2 7 3
ムギマキサナブリ／播種の禁忌	
(3) 収穫儀礼 (4) その他の儀礼	2 7 4
第三節 養蚕	
1 養蚕の盛衰	2 7 5
2 蚕の飼育から上簇まで	2 7 6
養蚕の回数／養蚕の場所／養蚕の入手／掃立て／飼育／桑の種類と桑摘み／上簇／簇の種類／繭掻きと出荷／養蚕信仰／ある日から	
第四節 藁細工	
1 副業としての藁細工	2 9 1
冬場の副業／藁について	
2 さまざまな藁細工	2 9 3
縄／俵／筵／テゴ／簇	
第五節 漁撈と狩猟	
1 漁撈	2 9 9
漁撈の位置づけ／魚の販売	
(1) 河川の漁法	3 0 1
漁場と魚種／サシアミ／ハリアミ／ナガンアミ／ジビキアミ／キリコミ／フクロアミ／アジアミ／ヨツデアミ／ヒコーキアミ／ナガナワ／オキバリ／ハネツキ／うなぎの夜釣り／ウナギウケ／ヨコウケ／ダルマウケ／カブセ／タカッポ／タイヤウケ／ウナギカキ／モリ／メソ捕り	
(2) 用水路の漁法	3 1 2
漁場と魚種／ボカンヅリ／オキバリ／ドジョウウケ／タチウケ／ナマズウケ／ヨトボシ／その他の漁法	
(3) 沼の漁法	3 1 5
漁場と魚種／トアミ／タマアミ／ダルマウケ／その他の漁法	
(4) ホリの漁法	3 1 8
漁場と魚種／オйкаケアミ／オキバリ／カイバリ／ウケ／ウナギカキ／その他の漁法	
2 狩猟	3 2 2
狩猟の位置づけ／鴨網／無双網／ナガナバリ／トラバサミ／食用がえる捕り	
第五章 交通と交易	
第一節 道路	
1 古道の復元	
(1) 『武蔵國郡村誌』と『幸手町誌』に見る道路	3 3 2
(2) 日光道中(奥羽街道)の道筋	3 3 7
(3) 日光御成道の道筋	3 3 9
(4) その他の道筋	3 4 2
幸手道／幸手権現堂河岸道／幸手関宿道／幸手宝珠花道／幸手久喜道／幸手鷲宮道／幸手停車場線	
2 道標	
(1) 道しるべに見られる地名	3 4 4

(2) 主な道しるべ	3 4 7	4 成長と儀礼	4 4 1
日光御成道野道しるべ／権現堂河岸道の道しるべ／関宿道しるべ／筑波道の道しるべ		成長祈願／オビトキ／若い衆	
第二節 車の普及と交通機関の発達		第二節 婚姻	
1 車の普及	3 4 9	1 婚約	4 4 3
荷車／ヒキヤク・ウンソー／自転車と自動車／リヤカー		婚姻の条件／縁談と仲人／見合い／ナレアイ／タルイレ／結納／足入れ	
2 交通機関の発達	3 5 2	2 祝儀	4 4 8
人力車／乗合馬車／乗合自動車／バス路線		祝儀と時期／荷送り／クレ祝儀／出家儀礼／入 家儀礼／祝儀の座順／盃事／祝儀の宴席／宮参り	
3 東武鉄道と鉄道敷設計画	3 5 8	3 祝儀後の儀礼	4 5 7
東武鉄道／鉄道敷設計画／幸手鉄道／常武電気 鉄道株式会社／千住馬車鉄道		ナビロメ／ミツメ／ヨメゴヨビ	
第三節 河川交通		第三節 厄年と年祝い	4 5 9
1 河川流路の変遷	3 6 1	第四節 葬送	
利根川の瀬替え／権現堂川の開削／関宿水閘門 の設置		1 死と霊	4 6 0
2 河岸		死の予兆／魂呼び／使者の扱い	
(1) 権現堂河岸	3 6 3	2 葬式の準備	4 6 1
関根回漕店に見る河岸場		早使い・サタ／湯灌／入棺／枕団子／通夜／葬 式組／帳場／六道	
(2) 関宿向河岸	3 6 5	3 葬儀	4 6 5
(3) 船荷	3 6 8	家でのトムライ／出棺／庭弔い／ツジロウ／葬 列／シシテング／埋葬／念仏／本膳	
手数料／イリカタ／運賃／松葉／初荷／石塚回 漕店に見る荷の動き		4 年忌	4 7 1
(4) 船の種類と構造		初七日／三十五日・四十九日／百か日／新盆／ 法事と祭り上げ	
形態による船の種類	3 7 2	第二編 町場の民俗	
ボウチョウ／ベカ／タカセ／和船の設備／ 新造船の進水／新造船の建設実費		第一章 幸手宿の町並み	
船の機能による種類	3 7 5	第一節 表通りと裏通り	
売り船／湯船／肥船／砂利船／成田船／お 諏訪船／早船／曳ボート／六斎船／通運丸 とピンセン		1 大通りと家並み	4 7 6
(5) 操船技術	3 7 8	江戸時代の幸手宿／明治時代の幸手宿／家並	
船の操作／大水の避難／権現堂川船唄		2 裏町の変遷	5 0 3
(6) 船頭の生活と信仰	3 8 0	幸手宿の裏通り／久喜新道の開通／東武日光線 の開通	
船頭の生活／権現堂は口が悪い／飲料水と生活 水／船頭の食事／船頭の服装／大水／船頭の信 仰／フナドロボウ（船泥棒）／船頭と天気		第二節 町家の造り	
3 橋と渡し場		1 屋敷取り	5 0 6
(1) 渡し場	3 8 5	屋敷の向きと形／建物の配置	
六萬河岸の渡し（江戸川）／中島の渡し（江戸 川）／富士見の渡し（江戸川）／権現堂の渡し （権現堂川）		2 町家の形	5 1 0
(2) 橋	3 8 7	屋根／間取り	
関宿橋船橋架橋		第二章 町場の年中行事	
第六章 地域と社会		第一節 春から夏の行事	
第一節 ムラのしくみ		1 一月の行事	5 1 8
1 ムラの構造	3 9 0	新暦元旦／ネロハー・針供養／すす払い／餅つ き／暮市／年男／注連飾り／大晦日／除夜の鐘	
ムラ／ムラから村・町へ／ムラ境		2 二月の行事	
2 ムラの組織と運営	3 9 4	若水／初詣／正月の食事／食べ物以外の家例／ お年玉 仕事初め／初市・初荷／年始まわり／ 節分／初辰／七草／鏡開き／繭玉団子／小正月 ／シャンシャン馬／恵比須講	
ムラの組織／区長／組と班／寄り合い／仲間入 り／共有財産／共同作業		3 三月の行事	5 3 0
3 ムラの諸集団	4 0 3	初午／春の彼岸／社日／雛市	
消防団／夜警団／水防組合／子供組／ワカイシ ュウ会／青年団／女子同窓会／壮年団／主婦た ちの集団／講集団		4 四月の行事	5 3 2
第二節 イエの仕組み		植木市／雛祭り／花見／花まつり／たにし不動	
1 家族生活	4 1 9	5 五月の行事	5 3 4
家族の名称／家族の役割／奉公人／親分・子分 ／屋号／相続／隠居		板倉参り／八十八夜	
2 親族	4 2 3	6 六月の行事	5 3 5
本・分家関係		端午の節供／大杉さま	
第七章 人の人生		7 七月の行事	5 3 8
第一節 誕生と成長		初山／夏祭り	
1 妊娠	4 2 8	第二節 秋から夏の行事	5 4 0
子授祈願／安産祈願／とりあげ婆さんと産婆／ 腹帯祝い／妊娠の見舞い／妊娠中の禁忌		1 八月の行事	5 4 1
2 出産	4 3 2	釜の口開け／七夕／井戸替え／四万六千日／中 元／お盆／施餓鬼	
出産の場所／産湯／お産中の夫の様子／後産の 処理／へその緒の処理／ウブタテ		2 九月の行事	5 4 6
3 育児	4 3 5	厄日／八朔／鎮守の祭り／十五夜／秋の彼岸／ 秋の社日	
三日ぼたもち・力餅／産後の生活と禁忌／お七 夜／セッチン参り／命名／床上げ／お宮参り／ お食い初め／初正月／初節供／初誕生／初山		3 十月の行事	5 4 8
		甘酒祭り／十三夜／お日待ち／オベッカ	
		4 十一月の行事	5 5 0
		オカマサマ（るすんぎょう）／恵比須講	
		5 十二月の行事	5 5 1
		大師粥／フイゴ祭り／西の市／七五三／冬至	
		第三章 町を支える人達	
		第一節 町のしくみ	
		1 町の範囲と区分	5 5 9



幸手宿／宿から町へ／町の道路／マチの名称と境界	
2 町の組織と運営	5 6 3
町の組織／世話人／町内費／世話人と祭礼／仲間入り	
3 現代の町の組織	5 6 8
区の役員／区の組織／区の総会	
4 町の諸集団	
(1) 消防組	5 7 2
(2) 青年団	5 7 3
青年団／少年団	
(3) 婦人会	5 7 5
女子青年団／婦人会	
(4) 講集団	5 7 6
第二節 家のしくみ	
1 家族生活	5 7 7
家族の名称／奉公人／屋号／相続	
2 親 族	5 8 2
本・分家関係／付き合い	
第四章 商人と職人	
第一節 幸手宿の町並みと店商い・行商	
1 幸手宿の町並み	
(1) 幸手宿	5 8 6
宿場と商人／幸手宿	
(2) 幸手宿の町並み	5 8 7
大正五年の町並み／「営業便覧」のみ記載された職種／『幸手町誌』のみ記載された職種	
2 店商い	
(1) S米穀店の創業／白米小売商の仕入れ／東京へ修業／修業を終えて／S米穀店の仕入れ法	
(2) 木綿商	5 9 8
(3) 菓子商	5 9 8
大塚屋菓子店の経営／銘菓	
(4) 荒物商	6 0 2
3 市	6 0 3
暮れ市／正月の二日市／雑市／四月の二日市（植木市）／西の市	
4 行 商	
(1) 村を訪れる商人	6 0 5
(2) 村を訪れる職人	6 0 6
第二節 職人の技	6 0 7
1 瓦 屋	6 0 9
2 野鍛冶	6 1 3
3 籠 屋	6 1 8
4 桶 屋	6 2 2
5 棒 屋	6 2 5
6 絵馬屋	6 2 8
7 鋳 屋	6 3 0
8 唐箕・水車	6 3 4
9 三味線屋	6 3 8
第三編 心の民俗	
第一章 神仏への祈り	
第一節 地域の中の神仏	6 4 6
1 平須賀集落の神仏祭祀	
(1) 村の神仏	6 5 3
香取神社／宝聖寺／馬頭観音	
(2) 株でまつる神仏	
吉岡株	6 5 9
文殊院／浅間神社／観音経／念仏講	
下 株	6 6 1
中 株	6 6 1
不動明王／地藏尊／御嶽山	
上 株	6 6 3
赤木株	6 6 4
外郷内株	6 6 4
香取神社／子育て地藏	
(3) 地域外部の神仏	6 6 6
代参講／村外の神仏への祈願	
(4) 平須賀集落の神仏祭祀の特色	6 7 0
2 惣新田・六軒の神仏祭祀	6 7 1
(1) 稲荷神社	6 7 2
(2) その他の神仏	6 7 7
(3) 六軒の神仏祭祀の特色	6 7 8
第二節 家を守る神仏	6 8 8
1 屋敷神	6 8 9
氏神社／香取神社／稲荷神社	
2 屋内神	
(1) 神棚にまつる上	6 9 2
(2) 屋内上	6 9 3
(3) 各家の事例	6 9 4
上吉羽・沢村家／内国府間・小堀家／平須賀・船川家／平須賀・野中家／惣新田・増田家／惣新田・鈴木家／上宇和田・遠藤家／中・平井家／中・新井家	
(4) おわりに	6 9 8
第三節 水の信仰	
1 水の行事	6 9 9
雨乞い／カピタリ	
2 水神信仰	7 0 3
第四節 絵馬奉納	
1 絵馬の起こり	7 0 7
2 絵馬の変遷	7 0 8
3 幸手の絵馬	7 0 8
4 幸手の絵師	7 1 5
5 絵馬点描	7 1 6
(1) 菓子屋が奉納した絵馬	7 1 7
(2) 一色稲荷に奉納された絵馬	7 1 8
(3) 幸手宿本陣知久家の絵馬	7 1 8
(4) 河岸場で働く人の願いが込められた絵馬	7 1 9
第二章 季節の祭り	
第一節 初 午	7 3 2
行事の概要／下吉羽の事例／内藤内の事例／上吉羽小七の事例	
第二節 辻 縄	7 3 4
行事の概要／下吉羽の事例／平須賀中株の事例／長間蛭子の事例／戸島上戸の事例	
第三節 百万遍と念仏	7 4 2
行事の概要／下吉羽の事例／上吉羽小七の事例	
第四節 初 山	7 4 4
行事の概要／幸手荒宿の初山／西関宿の初山	
第五節 夏祭り	7 4 6
行事の概要	
1 旧幸手町の天王様	7 4 6
祭りの期日／全体の組織／各町内の組織／山車と御輿／お仮屋と会所／祭りの準備／大御輿の遷御／前夜の山車の運行／花山／大御輿の還御	
2 上高野の夏祭り	7 5 3
祭りの期日／祭りの組織／祭りの準備／以前の御輿の渡御／現在の御輿渡御	
3 その他の夏祭り	7 5 6
天神島饗瀬の天王様／高須賀の大杉様	
第六節 お獅子様	7 5 8
行事の概要／権現堂新田の事例／中川崎の事例／惣新田下沢目木の事例／西関宿向下河岸の事例／惣新田高須賀の事例	
第七節 観音経	7 6 2
行事の概要／円藤内の事例／上吉羽小七の事例／上高野の事例	
第八節 甘酒祭り・おびしゃ	7 6 5
行事の概要／長間蛭子の事例／下吉羽の事例／円藤内の事例／上吉羽の事例	
第九節 お取越しと報恩講	7 7 1
行事の概要／上吉羽饗瀬のお取越し／浄誓寺の報恩講	
第三章 伝承される芸能	
第一節 獅子舞	
1 松石のささら獅子舞	7 7 6
由来・伝承／組織／役割と道具／曲目／習いザサラ／祭礼の様子	
2 下千塚のささら獅子舞	7 8 2
組織と当番／道具の保管／シンダシ／ハナカザリ／祭礼の様子	
第二節 大杉囃子	
1 高須賀の大杉囃子	7 8 6
由来・伝承／祭礼の日取り／囃子の構成と練習／組織と運営／祭礼の様子	

2 西関宿向河岸の大杉囃子……………789  
 由来・伝承／囃子の構成と練習／祭礼の様子  
 第三節 盆踊り……………790  
 下川崎の石投げ踊り／石投げ踊り／田の草取り  
 ／流し踊り  
 民俗編執筆者  
 調査協力者・資料提供者（個人・機関）一覧  
 幸手市史編さん関係者名簿  
 あとがき  
 平成9年3月25日発行  
 幸手市教育委員会

042『新座市史』第四巻 民俗編  
 昭和61年12月

目次  
 第一編 土地と生活  
 第一章 地形と土地利用  
 第一節 集落の立地と景観……………3  
 開発と集落 集村と街村 集落とムラ 大字と  
 ムラ ムラの構成物と領域  
 第二節 谷と台地……………19  
 水田と谷と畑の台地 黒目川の谷と土地利用  
 堰と堰普請 湧水とドブツタ 中沢用水 柳瀬  
 川と水田 摘み田とマキ  
 第三節 林と生活……………34  
 ヤマの意味 ヤマと生活 サカイギの民俗  
 第二章 交通と交流  
 第一節 野火止用水……………39  
 野火止用水と市域 用水と生活  
 第二節 川越街道と江戸道……………45  
 曲がる道・直線の道 川越街道 江戸道・清戸  
 道 鎌倉街道と奥州街道 坂と橋  
 第三節 往来と交流……………58  
 買物と市 野菜出荷と下肥汲み取り 信心と往来  
 第二編 社会と集団  
 第一章 家族  
 第一節 屋敷と間取り……………67  
 新座の住居 屋敷の配置 部屋の使われ方 建  
 物の構造 建築儀礼  
 第二節 家族と家……………84  
 家族構成 家族の展開と役割  
 第三節 配偶者の選択 通婚圏 結婚年齢 仲人  
 オヤモトとのつきあい  
 第四節 親族と交際……………101  
 本・分家関係 本家分家集団の名称 親戚関係  
 親族の交際  
 第二章 近隣組織と村  
 第一節 村の組織と運営……………112  
 村の概況 ムラの組織 共有財産 共同労働  
 第二節 近隣組織……………129  
 近隣組織の構成 近隣組織の機能  
 第三節 村の構成員……………140  
 第四節 村の諸集団……………141  
 年齢集団 講集団 氏子組織と檀家組織  
 その他の集団  
 第三章 町  
 第一節 町場の生活—大和田……………152  
 町場の景観 川越街道の宿場町 町場のなりわ  
 い 料理屋と飲食店 米市と米穀商 周辺農村  
 と商業 交通・運輸業の推移 職人の諸相と連  
 帯 町場の発展と農村化 町の運営組織 町の  
 構成と仲間入り 町場の住まい  
 第二節 都市化・住宅地化……………177  
 都市化の概観 転入と転出  
 人々のさまざまな活動  
 第三節 新座の“町並”……………185  
 伝統的な町並の保存 伝統的町並と新しい町並  
 の並存 新しい町並  
 第三編 生産と労働  
 第一章 農業生産  
 第一節 水田と稲作……………193  
 フットビデンチとカタヤマブヨ 田起こしと田  
 植え 稲刈りとウチンゴト

第二節 畑と畑作……………201  
 豊富な畑作物 麦作 オカボ 雑穀 サツマ  
 ゴボウ ニンジン 茶・小豆など自給的作物  
 養蚕  
 第三節 肥料……………210  
 堆肥・下肥から化学肥料へ 堆肥 シモゴイ  
 肥料屋  
 第四節 農耕儀礼……………213  
 マユダマ アズキガユ 代参講 刈上げ ソウ  
 ゴジマイとコナバツ ボンクとハツホ タナバ  
 タ アマゴイ  
 第五節 農具と作業……………215  
 1 農具……………215  
 シロカキマンガ タカキ スキ クロクワ  
 クワ タネバコ タネマキ タネマキカゴ  
 フリコミ タノクサトリ カナコギ モノグ  
 サボウ クルリボウ ミ トウミ マンゴク  
 ジュウゴ オンシギリ  
 2 労働と休息……………222  
 一日の労働と休息 年間の労働と休日  
 第二章 衣と食  
 第一節 衣生活……………224  
 仕事着と普段着 晴着 農民の仕事着 商人の  
 仕事着 粉屋の仕事着 造り酒屋の仕事着  
 第二節 食生活……………233  
 日常の食事 ハレの日の食事（片山） 主食と  
 副食 飲料水と川魚 ハレの日の食事（大和田）  
 第三章 交易と職人  
 第一節 作物の出荷……………245  
 商品生産の伝統 さまざまな商品作物  
 出荷の方法  
 第二節 大和田の商人……………252  
 呉服商 材木商  
 第三節 水車……………259  
 片山 大和田  
 第四節 様々な職人……………263  
 職人の概況 足袋屋 床屋  
 第四編 時間と儀礼  
 第一章 年中行事  
 第一節 正月・春から夏の行事……………273  
 ススハライ モチツキ カキモチ アラレ ジ  
 ザイモチ オソナエ カドマツ チュウレン  
 クレノイチ トシガミサマ オセイボ ミソカ  
 パライ トシコシウドン 大晦日 ジョヤノカ  
 ネ サガニチ 正月のカレイ タナサガシ フ  
 クゾウサマ ハツマイリ シゴトハジメ  
 ハツニ ショウゴク セチ・セテ・オオバン  
 ナナクサ オタキサゲ ヨーカセック・メーカ  
 イ クラビラキ 小正月 ヤブイリ マユダマ  
 ダンゴナゲ アズキガユ オサエニチ  
 ナリキゼメ アポーヘポー ヨメのショウガツ  
 エビスコウ セツブン ハツウマ ヒナサマ  
 彼岸 オシャカサマ 若宮八幡の祭礼 ハン  
 ソウサマ 神明様の祭礼 タンゴノセック  
 ノゲエブシ テンノウサマ ソウゴウジマイ  
 コナバツ ボンク タナバタ  
 第二節 盆・秋から冬への行事……………299  
 盆の墓ソウジ ボンダナヅクリ ボンムカエ  
 ボンチュウ ボンの食事 ニイボン セガキ  
 ボンオクリ ボンの十六日 ウラボン ハッサ  
 ク クンチの節供 ジュウゴヤ  
 ジュウサンヤ ヒガン イノコ コウジンサマ  
 ナカガエリ オカエリ エビスコウ ダイシ  
 ガユ カビタリモチ コトオサメ トウジ ホ  
 シマツリ ユミハマ・ハゴイタ飾り  
 第三節 年中行事と生活時間……………309  
 旧暦から新暦へ モノビ・ハタビ・アソビヒ  
 ハレの日の食事 労働をしない休日 消えゆ  
 く年中行事 復活した年中行事  
 第二章 人生儀礼  
 第一節 誕生・成長……………315  
 人の成長と子供数 妊娠と帯祝い 安産祈願  
 まわり地藏 妊娠中の食事と禁忌 人の誕生

あ と が き  
昭和61年12月15日発行  
埼玉県新座市

043 『日高町史』 民俗編  
平成1月3日

目次

第一章 日高町の概況

第一節 生活の舞台

1 自然環境…………… 3

2 日高町の略沿革…………… 4

(1) 原始・古代…………… 4

(2) 中世・近世…………… 6

(3) 近現代…………… 8

3 町の変遷と都市化

(1) 人口の推移…………… 9

(2) 産 業…………… 11

農業 工業 商業

(3) 交 通…………… 12

(4) 観 光…………… 12

奥武蔵自然公園 高麗神社と聖天院 奥武蔵  
自然歩道

第二節 日高町史民俗編について

1 民俗とは…………… 14

2 「日高町史民俗編」の特色について…………… 15

第二章 年中行事

第一節 年中行事

1 正月行事

(1) 正月準備…………… 23

すず払い オカザリ・注連縄作り 餅つき  
大晦日

(2) 大正月…………… 33

年男 若水くみ 歳神様と歳神棚 門松 正月  
の供え物と家例 仏様の日 初詣で オオバン  
仕事始め 七草粥 タナサガシとオタキアゲ  
歳開きブクの家の正月の過ごし方 正月の俗信・  
禁忌 正月の遊び 正月のことはぎ

(3) 小正月…………… 48

マユダマ団子 アボヒボ カユカキ棒 小豆粥  
成木責め 小豆飯とジオウメン 嫁の里帰り・  
ヤブイリ

(4) その他の正月行事…………… 59

恵比寿講

2 春・夏の行事

(1) 二月の行事…………… 61

次郎の朔日 節分 八日節供 初午 野猿講  
天神講 大遊び オシラ様

(2) 三月の行事…………… 71

女の節供 春の彼岸

(3) 四月の行事…………… 75

花まつり ダイハンニャ

(4) 五月の正月…………… 76

端午の節供

(5) 六月の行事…………… 77

ケツアプリ 農耕儀礼

3 盆行事…………… 81

(1) 釜の口開け…………… 82

(2) 七  
夕…………… 82

準備 当日の行事

(3) 盆…………… 85

盆の準備 盆棚 盆の迎え 盆中の食べ物・供  
え物 過ごし方 盆の送り 盆の十六日

4 秋・冬の行事

(1) 九月の行事…………… 92

八朔の節供 二百十日(嵐よけ) 秋の彼岸  
十五夜

(2) 十月の行事…………… 97

十三夜 オシラ様 オカマサマ クンチ

(3) 十一月の行事…………… 99

亥の子 十日夜 恵比寿講 職人の太子講

(4) 十二月の行事…………… 102

大師粥 八日節供 冬至

産室・トリアゲバーサン 産婆 座室から寢室  
へ 子供と産婦 ナガレカンジョウ 出産後の  
始末 ウブマイ オシチャ・初外出 産の穢  
れと禁忌 オビアゲ・宮参り 食いぞめ・初節  
供 初正月 初誕生・ショイモチ 四二の二つ  
子・拾い親 子守り オビトキ ヒキズリモチ  
オビトキの贈答 現在のオビトキ祝い

第二節 婚 姻…………… 338

出会い 恋愛結婚 通婚圏 つり合い クチキ  
キ・仲人 クチガタメ・結納 アシイレ 婚礼  
デシュウギ・カオミセ 嫁の移動 入家式  
盃事 宴 道具披露 里帰り・アタマアライ  
実家・仲人とのつきあい 嫁の紹介 嫁の生活  
厄年

第三節 死・死後…………… 357

死の儀礼 臨終 死の通知 死の忌 湯灌・納  
棺 通夜 葬儀の準備 葬具 葬式・出棺 野  
辺送り 床取・埋葬 清め・本膳 念仏 妊婦  
・子供の死 墓地 両墓制 両墓制の分布 ハ  
カヒキ 両墓制の変遷 供養・忌明け 死者の  
魂 年忌・弔いあげ

第四節 魂のサイクル・生と死のつながり 儀礼  
の変化 「家」から専門機関へ

第五編 心と信仰

第一章 不安と信心

第一節 個人祈願と信心…………… 389

不安と祈願 神社詣で 路傍の神仏 不安と流行

第二節 俗信・民間療法…………… 394

民間療法 禁忌 禁忌の構造

第二章 家の神と先祖

第一節 屋内神と屋敷神…………… 401

第二節 先祖と仏…………… 412

盆と先祖まつり 彼岸と墓まいり 正月と齋日  
先祖のイメージ

第三節 寺と檀家…………… 417

東福寺 蓮光寺 法台寺 満行寺 浄明寺 平  
林寺 番星寺 普光明寺 龍泉寺 寺とその機  
能 堂

第三章 地域と神々

第一節 村の鎮守・祭礼

1 氏神・鎮守…………… 437

氷川神社(片山) 武野神社 氷川神社(大  
和田) 神明神社 氷川神社(野火止) 若  
宮八幡神社 氷川神社(西堀) 稲荷神社(  
北野) 熊野神社

2 ムラの神…………… 454

須賀神社 八石稲荷 八雲神社 イガシラ稲  
荷・サクラモリ稲荷 稲荷神社(菅沢) 稲  
荷神社(西堀八軒) 稲荷神社(西堀西屋敷)

3 神格・祭礼…………… 461

4 神社合祀…………… 465

駒形権現 駒形稲荷

第二節 芸 能

1 野火止・石山家の神楽…………… 469

石山家神楽の由来 素面の舞 面の舞(神代)  
神楽の奉納

2 中野の獅子舞…………… 480

獅子舞の由来 獅子舞の概要 中野獅子舞の歌

3 大和田囃子…………… 490

大和田囃子の概要 囃子のようす 囃子の譜

第三節 講と代参…………… 498

ムラと講 講の種類とその機能

第四章 伝説と昔話

第一節 野火止と業平伝説…………… 522

業平の東下り 業平伝説の定着 伝説の変化

第二節 場所をめぐる伝説…………… 529

妙音沢の伝説 かしらなし 小僧ヶ淵 強清水  
おばけ田んぼ クセ場所の発想

第三節 伝説としての霊験・縁起…………… 543

滝見の観音 鬼鹿毛さま 野寺の鐘 引導地蔵  
さま 円光院のためき 鯉になった少女

執筆分担一覧  
新座市史編さん関係者名簿

第二節 民俗芸能	
武幡横手神社の獅子舞……………	1 0 5
所在地 獅子舞の概況 獅子舞の所役 獅子舞の組織 獅子舞の練習 祭りの流れ 謡	
諏訪神社の獅子舞……………	1 1 1
所在地 獅子舞の概況 獅子舞の所役 獅子舞の組織 祭りの準備・練習・流れ 謡	
高麗神社の獅子舞……………	1 1 8
所在地 獅子舞の概況 獅子舞の所役 獅子舞の組織 獅子舞の練習 祭りの流れ 謡	
野々宮神社獅子舞……………	1 2 4
所在地 獅子舞の概況 獅子舞の所役 練習・準備 祭りの流れ 謡	
女影の獅子舞……………	1 3 2
所在地 獅子舞の概況 獅子舞の所役 獅子舞の練習 祭りの流れ	
上鹿山囃子……………	1 3 6
所在地 祭り囃子の由来 祭り囃子の復活 囃子連 祭り囃子の機会 練習 祭り囃子の演目・曲目 祭り囃子のジゴト	
高萩囃子……………	1 4 0
所在地 祭り囃子の由来 祭り囃子の組織・練習 囃子の機会 祭り囃子の演目・曲目	
駒寺野新田のモチアソビ……………	1 4 1
所在地 モチアソビの概況 モチアソビの準備 三月十五日 餅つきの技法 謡	
第三章 人の人生	
第一節 人生儀礼	
1 出産……………	1 4 9
妊娠 墮胎 帯祝い 安産祈願 妊娠中の禁忌 男女の見分け 助産 出産 臍の緒 後産 産湯 異常出産 ヤクドシッコなど 相済み アヤカリッコ 申し子伝説 ウブタメシ 産婦のケガレ 産婦の食事 産見舞い・産祝い カナババ 乳	
2 子供の成長……………	1 6 1
ミツメの祝い お七夜 二一日目 ウブゲ剃り マゴダキ 宮参り クイゾメ 初正月 初節供 初誕生 ミツミの祝い・帯とき 子供時代	
3 青春時代……………	1 6 8
十五のハツヤマ 一人前	
4 婚姻……………	1 7 0
縁談 ナレアイケッコン 結婚の条件 仲人 見合い クチガタメ 結納 結婚の時期 嫁入り道具 カタイレ 嫁の支度 クレ祝儀 嫁の行列 モライ祝儀 祝儀の流れ クミアイ座敷 式の翌日 嫁の里帰り 送り雛 婚姻習俗の変遷	
5 嫁の生活……………	1 8 5
嫁の十年泣き 嫁と子供 嫁と舅・姑 嫁の日常生活 嫁の楽しみ 嫁の格好 代がわり	
6 厄年・年祝い……………	1 8 9
厄年 年祝い	
7 葬送……………	1 9 1
葬制 死の予兆 魂呼び・死に水 死後の処置 死の知らせ 通夜 湯灌 納棺 葬儀社 アナバン 団子 野道具 トムライの手順 喪服 念仏講 香典と引出物 キヨメ 翌日 初七日 四十九日 初彼岸・初盆 年忌供養 その他の死	
第二節 人生の軌跡—桜井美与の人生—	
最初の思い出(三歳から六歳頃まで)……………	2 1 2
小学校時代(七歳から一三歳間まで)……………	2 1 4
奉公の時代(一四歳から二七歳まで)……………	2 1 8
募集 大宮館 入間川の繕屋 買食い 夜学 外出 かせぎ・休み 関東大震災 最後の奉公 結婚まで(二八歳から二九歳まで)……………	2 2 6
開拓地の暮らし(二九歳から三一歳まで)……………	2 2 8
近所づきあい 最初の出産 招集と買い上げ 終戦まで(三二歳から四〇歳まで)……………	2 3 4
終戦の日	
第四章 人々の暮らし	
第一節 農民の暮らし	
1 稲作	
(1) ツミタからウエタへ……………	2 3 9
ドブッタとカワキッタ ウエタに変わった時期と理由 用水 苗代 タウエボタモチ ユイシゴト	
(2) ツミタ……………	2 4 2
堰普請 クロツケ タウナイ キッコウシシ ロカキ イナシビオシ タツミ メボシ クサトリ オイゴエ ハナカケミズ オトシミズ イネカリ 脱穀 籾干し・棒打ち 籾摺り・俵づめ	
2 畑作<畑 土壌>……………	2 5 0
(1) 麦作……………	2 5 2
整地 サクキリ 播種 中耕 麦踏み 土入れ 麦刈り 脱穀・調整	
(2) タバコ……………	2 5 7
品種 養蚕とタバコ 育苗 移植 肥料 土寄 摘芯 収穫 乾燥 乾燥後の調整 収納 ビマチ	
(3) そ菜 雑穀……………	2 6 1
ウド……………	2 6 1
タネ 耕起・整地 植付 中耕・施肥 病気 株掘り 伏せ込み 収穫	
大根……………	2 6 4
人参……………	2 6 5
播種 消毒 収穫	
ゴボウ……………	2 6 5
ヒエ……………	2 6 6
アワ……………	2 6 6
ソバ……………	2 6 6
サトイモ……………	2 6 6
サツマイモ……………	2 6 6
苗床 移植 中耕・除草 つる返し 収穫	
3 茶……………	2 6 7
品種 繁殖法 転耕・施肥 剪定 茶摘 製茶	
4 養蚕	
(1) 蚕の生活サイクル……………	2 7 2
(2) 鼠と蛙の被害……………	2 7 6
(3) 蚕の信仰……………	2 7 7
5 肥料	
(1) 灰……………	2 7 9
(2) 下肥について……………	2 7 9
(3) 堆肥……………	2 8 1
第二節 職人の暮らし	
1 竹細工職人……………	2 8 2
(1) 製品……………	2 8 7
大籠 草刈籠 着笊 籠笊 荒笊 蚕籠 オシメ籠 目替 角籠 味噌漉 ショウギ 米揚 笊 ウドン揚 ビク	
(2) 製作と販売……………	2 9 2
(3) 竹製品組合……………	2 9 5
(4) 修業……………	2 9 8
2 屋根葺職人	
(1) 親方取りと修業……………	3 0 6
(2) 寒葺きと夏葺き……………	3 0 8
(3) 屋根屋組……………	3 0 9
3 炭焼き職人……………	3 0 9
黒消しの最初 専業と副業 炭焼きの季節 炭材 白消しと黒消し 窯築き 焼成 炭のでき・ふでき 炭と薪 窯の大きさ 炭焼小屋 カズッピョウ 炭俵 講習会・供出 禁忌	
4 酒造職人……………	3 1 5
生産量 米の購入 水 南部杜氏 役割 分担 麴とモト 麴作りの手順 仕込み 製品になるまで 年間日程 酒造職人の一日 吟醸酒 仕事場 米蔵 道具・帳簿 信仰	
第三節 人と物の流れ	
1 道路……………	3 2 3
鎌倉街道 慈光道 オオ道 日光道 川越道 八王子道 飯能街道 河岸街道 旧一等公益道 大宮郷東京道 坂戸道	
2 道標……………	3 3 1

3	橋	3 3 2
4	村外との往来	3 3 5
	米の販売 ウドの出荷 江戸見物	
5	交 易	
(1)	行 商	3 3 7
	魚売り ヨカヨカ飴屋 ドッケシ売り 富山の薬売り 大和の薬売り コウモリ直し フルイ屋 センセヤッカ	
(2)	市	
	町内の市	3 3 9
	高萩の市 高麗の宿の市	
	近傍の市	3 4 0
	越生の市 吾野の市 飯能の市 坂戸の市 入間川の市 豊岡(扇町屋)の市 川越の市	
第五章	川と生活	
第一節	水車の思い出	3 4 5
第二節	高麗川に見る漁法	
1	高麗川の魚	3 5 2
2	高麗川の漁法	3 5 3
	ハチブセ ヒッカケ クキヨセ イシグラ ガマ釣り シモヨリ オイハネ・ハネオイ オキバリ タタキ ヤス エゴの実 ヤナ トアミ カスミ網 ヒキ網	
第三節	水 害	
1	浸水・冠水	3 5 9
2	橋の流失	3 6 0
第六章	信 仰	
第一節	神社と寺院	
1	村の鎮守	
(1)	村鎮守	3 6 5
(2)	神社整理	3 6 8
(3)	神社の祭礼	3 6 9
(4)	神社の由緒	
	歴史的な由緒の分かるもの	3 6 9
	創建者の分かるもの	3 7 1
	社名の由来の分かるもの	3 7 1
2	寺院と堂庵	
《寺院》		
(1)	寺 院	3 7 1
(2)	寺院の統廃合	3 7 3
(3)	寺院の行事	3 7 3
(4)	寺院の由緒	3 7 5
	歴史的な由緒の分かるもの	3 7 5
	創建者が分かるもの	3 7 5
	行基、慈覚大師作仏像をもって創建されたもの	3 7 6
《堂庵》		
(1)	堂 庵	3 7 7
(2)	堂庵の由緒	
	創建(再建)が分かるもの	3 7 8
	行基作仏像をもって創建されたもの	3 7 8
第二節	家の神々	
1	屋敷神	3 7 9
(1)	呼称について	4 5 7
(2)	祭 神	4 5 8
(3)	修験者(占師)と屋敷神	4 6 0
(4)	集団祭祀	4 6 1
2	屋内神	4 6 2
	屋内の神々 大神宮 歳神様 恵比寿・大黒様 荒神様 便所神様	
第三節	講	
1	日高町の講	
(1)	講の分布	4 6 5
(2)	講の分類	4 7 2
(3)	組織と運営	4 7 6
	結講の範囲 講元 講金 オヒマチ 代参者の選出 ブクの場合	
2	講の実際	
(1)	総参講・代参講	4 7 7
	伊勢講 榛名講 大山講 三峰講 御嶽講 古峰ヶ原講 富士講 戸隠講 秋葉講 宝登山講 与瀬講 成田講 木曾御嶽講	
(2)	村内講	4 9 3

	天神講 観音講 稲荷講 ヤエン(野猿)講	
第四節	民間知識	
1	前兆・予知	4 9 9
(1)	天候・気象の予知	
	自然現象によるもの	5 0 0
	動物などによるもの	5 0 1
	植物によるもの	5 0 3
	諸事によるもの	5 0 3
(2)	吉凶・事変の予知	5 0 4
	天体・気象によるもの	5 0 4
	動物によるもの	5 0 5
	植物によるもの	5 0 5
	暦によるもの	5 0 5
	蚕の豊凶の言い伝え	5 0 6
(3)	人格・運命の予知	5 0 6
2	民間療法	5 0 7
(1)	薬草による療法	5 0 8
	内臓・風邪など	5 0 8
	皮膚病・外傷など	5 0 9
	歯・目など	5 1 0
(2)	動物を薬とする療法	5 1 0
(3)	呪術的療法	5 1 1
	風邪 ものもらい 目にはいったゴミ 目 夜泣き かんの虫 百日咳 麻疹 はしか ほうそう いぼ くさ・できもの てんかん とげ魚の小骨が刺さったとき おねしょ 虫さされ 歯痛	
(4)	祈 願	5 1 3
	夜泣き かんの虫 てんかん 咳 イボ とげ 眼病 足が悪くなったとき 耳の病気 おでき 風邪	
3	禁 忌	5 1 5
(1)	妊娠や出産にかかわる禁忌	5 1 6
(2)	葬送に関するもの	5 1 7
(3)	年中行事、干支、暦にかかわるもの	5 1 7
(4)	衣生活・食生活にかかわるもの	5 1 8
(5)	住生活に関するもの	5 1 9
(6)	植物に関するもの	5 2 0
(7)	その他	5 2 4
第七章	衣・食・住	
第一節	衣生活	
1	日常の衣生活	
(1)	野良着	5 2 9
(2)	頭 巾	5 3 0
(3)	はきもの	5 3 1
	足袋 草履 下駄	
(4)	子供の身なり	5 3 4
2	晴れ着	5 3 6
(1)	誕生からオビトキまで	5 3 6
(2)	婚礼衣装	5 3 6
3	洗 濯	5 3 7
4	寝 具	5 3 8
	わら布団 敷布団 掛布団 かいまき	
5	『郷土調査』から	5 3 8
第二節	食生活	
1	日常の食事	
(1)	食 事	5 4 2
	食事の回数 食事の場所	
(2)	主 食	5 4 3
	ムギメシ すいとん かてめし 焼餅 めん類 小豆飯 稗・粟・モロコシ	
(3)	副 食	5 4 5
	汁物 野菜類 オナメ 肉・魚	
(4)	弁 当	5 4 7
(5)	間 食	5 4 8
2	晴れの日の食事	
(1)	餅	5 4 9
	正月用の餅 ぼた餅 草餅 柏餅 その他の餅	
(2)	団 子	5 5 1
	マユダマ 二月一日の団子 彼岸の団子 十三夜と十五夜 その他の団子	
(3)	まんじゅう	5 5 3
(4)	雑 煮	5 5 4

(5) 麵 類	5 5 4	妖怪の話	6 3 5
うどん そば その他の麵類		天狗 小豆洗い カッパ ケツアブリ その他	
(6) 粥	5 5 5	の妖怪 おくり狼 神隠し ひとだま 足音	
(7) 赤飯	5 5 5	第三節 なぞなぞ	6 4 0
(8) その他の食物	5 5 6	第十章 娯楽と遊び	
第三節 住生活		第一節 子供の遊び	
1 民 家	5 5 6	1 昔の子供の遊びの諸相	
2 日高町の建築儀礼について	5 5 8	(1) 屋内での遊び	6 4 5
第八章 社会生活		つけもの遊び ミカンつり トッコ 人形遊び	
第一節 純農村		キシヤゴ 戦闘遊技 手遊び	
1 ムラのしくみ	5 6 5	(2) 屋外の遊び	6 4 7
(1) ムラの範囲と区分		鬼遊び (カクレンボ・今年のボタンは良いボタン・影踏み・目隠しオニ) 国取り 石蹴り	
ムラの区域	5 6 5	縄跳び メンチ	
ムラグミ (村組)	5 6 6	(3) 手作りの玩具を使った屋外の遊び	6 5 0
(2) ムラの組織と運営		兵隊ごっこ 凧 独楽 竹馬 ゴム管 竹トン	
ムラ役職と機能	5 6 7	ボ 竹鉄砲 (ガス鉄砲・水鉄砲・チョウメデッ	
ムライリ (村入)	5 6 7	ポウ・竹鉄砲)	
ムラの行事	5 6 8	(4) 山野での遊び	6 5 4
共同作業	5 6 8	虫捕り (蛭捕り・セミ捕り) 捕鳥 (バツタン・	
道普請 イドカイ クサカリ ユイシゴト		鳥モチ) 植物採集 (桑の実捕り・チダケ採り)	
共有財産	5 7 0	2 わらべうた	
共有地 膳椀 公会堂		(1) わらべうたの伝承者	6 5 8
(3) ムラの諸集団		(2) 遊戯唄	6 6 0
氏子組織	5 7 2	まりつき唄 お手玉唄 羽根つき唄 おはじき	
楡木区の事例 駒寺区の事例		唄 なわとび唄 凧揚げの唄 ちゃんばらごっ	
年齢集団	5 7 3	この唄 絵かき唄 指遊びの唄 手遊び唄 手	
青年団 子供会		合わせ唄 輪遊び唄 子とろあそびの唄 くぐ	
2 イエのしくみ		り遊び唄 子もらい遊び唄 押し合い遊び唄	
(1) 家族構成		(3) ことばからうたへ	6 6 9
家族数と高齢者	5 8 0	鳴き声 ジャンケン唄 かくれんぼの唄 別れ	
奉公人	5 8 1	唄 呪い唄 悪口唄 ことばあそび唄 占い唄	
ム コ	5 8 2	数え唄 自然の唄 動・植物の唄 行事唄 そ	
(2) 親族のつきあい		他の唄	
分家と隠居	5 8 2	(4) 子守り唄	6 7 5
イッケ	5 8 3	(5) 鳥声と虫の音	6 7 6
屋 号	5 8 3	ほととぎす ほおじろ じょうびたき いかる	
互 助	5 8 4	こじゅけい きじ鳩 めじろ みみずく はと	
不祝儀の互助 祝儀の互助		こおろぎ せみ	
第二節 開拓地		3 現代の子供の遊び	
1 日高町の開拓地	5 8 6	(1) 屋内での遊び	6 8 1
2 開拓の歩みと民俗		あきすとぜねこ 何パーセント こより占い	
(1) 栄新田・高萩新宿地区	5 8 9	ブタ (トリ) の糞 おなべふ 貧乏大尽大尽	
(2) 高麗川新宿地区	5 9 3	花書き 牛乳のフタ遊び えんぴつ 戦争	
(3) 旭ヶ丘地区	5 9 7	(2) 屋外での遊び	6 8 3
(4) 高富地区	5 9 9	將軍大名 どろけい 缶蹴り ポコベン あん	
第九章 伝説と世間話		たがたどこさ グリコ チンチン山道 ゴム段	
第一節 伝説と地名伝承		自転車乗り だんご鬼 どこ行き ベエゴマ	
鹿台地名の由来	6 0 5	(3) 山野での遊び	6 8 7
箕輪山霊岸寺の田植地藏様	6 0 6	虫取り 杉玉鉄砲 草花あそび 思い出	
鍛冶屋原地名の由来	6 0 7	4 子供の生活	
平沢地名今昔	6 0 7	(1) 手伝いと子供	6 8 8
八剣の何ぢゃもんぢゃ	6 0 8	田植えの手伝い 家事の手伝い	
高萩地名の由来	6 0 9	(2) 食べたったもの	6 9 0
馬引沢地名の由来	6 0 9	(3) 恐かったこと	6 9 0
女の影	6 1 0	第二節 昔の娯楽	
女影仙女ヶ池	6 1 3	夜遊びの思い出	6 9 3
池底の白蛇とお諏訪様	6 1 4	ラジオ	6 9 4
元萩の池	6 1 5	旅芸人	6 9 5
その他の地名伝承	6 1 6	第十一章 町の民俗を考える	
炭釜 稲荷下 西勝寺 きんちゃく田 西欠ま		第一節 ムラ社会と講	6 9 9
ぶり坂 膳椀淵 獅子岩橋 おくら淵 清水		第二節 お日待ちの諸相	
坂 鶴巻 御判塚 ひまわり塚 お天狗山 お		1 地域別にみたお日待ち	7 2 8
庚申 乳母坂 馬坂 蟹原 山の神 嘶原 板		2 お日待ちの種類	7 4 2
畠 稲荷 久平橋 しょうじんば 旗塚 殿淵		(1) 二月のお日待ち	7 4 2
おとうか様 蔵屋敷 餅搗き坂 山王塚 アイ		(2) 春のお日待ち	7 4 6
オイマツ 貫井 大字高富宇豊栄 しるたり		(3) 麦の収穫祭	7 5 0
十日窪 旭ヶ丘		(4) オショウジン	7 5 3
第二節 世間話		(5) 二百十日・二百二十日	7 5 6
きつねに化かされた話	6 2 1	(6) オシラ様	7 5 8
オーサキの話	6 2 6	(7) 天神講	7 6 0
むじなの話	6 3 0	(8) 雨乞い日待ち・おしめり祝い	7 6 1
蛇の話	6 3 1	(9) 下向日待ち	7 6 2
猫の話	6 3 3		
つばめの話	6 3 4		

(10) 其他のお日待ち	7 6 5
3 現在のお日待ち	7 6 5
まとめ	7 6 7
あとがき	
執筆者と分担	
話者・資料提供者一覧	
民俗調査員一覧	
日高町史編集調査協力員一覧	
日高町史編さん関係者一覧	

平成元年3月20日発行  
日高町

044『富士見市史』資料編7 民俗

平成11年3月

目次

富士見市の民俗とその概要

第一編 富士見市の民俗

第一章 村と世間

第一節 ムラの生活	9
1 ムラと村	
(一) ムラと村の歴史	9
(二) ムラの空間	1 6
(三) ムラの運営	2 1
(四) ムラの生活倫理	2 4
2 年齢集団	
(一) 若者と祭り	2 7
(二) 老人と信仰	2 9
(三) 子供と年中行事	3 0
第二節 人と物の動き	
1 内と外の交渉	
(一) 陸と川の交通	3 3
(二) 運搬法と運搬具	4 3
2 行商の人たち	
(一) 食べ物を売る人たち	4 6
(二) 生活用品を売る人たち	4 7
(三) 外から訪れる職人たち	4 9
第三節 人の一生とつきあい	
1 人の人生	
(一) 出産と子供の成長	5 2
(二) 結婚	5 7
(三) 葬送と供養	6 3
2 親族と交際	
(一) 本家と分家	6 7
(二) 親戚	7 0
(三) 親族と交際	7 1
第四節 氏神と講	
1 氏神	
(一) 神社とその系譜	7 5
(二) 組織と祭祀	8 3
2 講	
(一) 多様な講集団	9 0
(二) 日待ち講	9 1
(三) 代参講	9 2
第五節 祭りと芸能	
1 祭り	9 7
(一) 平心講の祭り	9 8
(二) 天王様の祭り	1 0 2
2 芸能	
(一) 市内の里神楽	1 0 5
(二) 獅子舞	1 1 2
(三) 市内の囃子	1 1 8
(四) 万作	1 2 6
(五) 面芝居、芝居	1 2 7
3 わらべうたと民謡	1 2 8
(一) 遊びとわらべうた	1 2 9
(二) 行事とわらべうた	1 3 6
(三) からかいと批判のうた	1 3 9
(四) 子守りとうた	1 4 0
(五) その他のわらべうた	1 4 2

(六) 民謡	1 4 4
(七) 祝儀唄	1 4 9
第六節 伝説・世間話の「世界」と俗信	
1 ことばのなかの「風景」	1 5 0
2 微地形のながめ	1 5 3
3 日常性の亀裂から	
(一) 語られる日常風景の亀裂	1 6 5
(二) 「迷途」の経験と「狐」の仕業	1 6 7
(三) 「できごと」の構造化と「風景」	1 7 2
4 俗信	1 7 4
第二章 家の生活	
第一節 家族と家	
1 家と相続原理	1 8 2
2 家族生活の展開	1 8 6
3 擬制的親子関係	1 9 0
第二節 住まいと衣・食	
1 住まい	
(一) 住まいと風土	1 9 1
(二) 屋敷の構成	1 9 7
(三) 母屋の外観と間取	2 0 0
2 昔の着物	
(一) よそゆきと普段着	2 0 9
(二) 頭に被るものと履物	2 1 6
(三) 機織りと裁縫	2 1 9
3 昔の食事	
(一) 御飯とおかず	2 2 2
(二) 調理の道具と食器	2 2 6
第三節 農業と職人	
1 土地の利用と所有	2 2 8
2 稲作とその過程	
(一) 水田と用水	2 3 4
(二) 稲作の過程	2 3 8
(三) ツミダの特徴	2 4 6
3 畑作とその過程	
(一) 畑の諸相と慣行	2 4 9
(二) 作物の種類と栽培過程	2 5 1
4 肥料	
5 労働慣行と農休日	
(一) 労働慣行	2 6 1
(二) 農休日と農耕儀礼	2 6 5
6 諸職	
(一) 諸職の概要	2 6 9
(二) 職人の暮らし	2 7 1
7 川漁	
(一) 市内の川漁	2 8 0
(二) 漁法のいろいろ	2 8 3
第四節 家の中・屋敷神	
1 家の神	2 8 6
2 屋敷神	2 9 0
第五節 寺と墓	
1 寺壇関係	2 9 3
2 墓制	2 9 9
第六節 家の行事	
1 市域の行事概観	3 0 1
2 正月行事	3 0 3
3 春から夏にかけての行事	3 1 2
4 盆行事	3 1 9
5 秋から冬にかけての行事	3 2 2
第七節 昔話	
1 昔話の現状	3 2 5
2 語りの場面一時と場	3 2 8
3 語り手と聞き手	3 3 3
4 昔話の内容と話型	3 3 4
第二編 近代以降の民俗変化	
第一章 村の統合と民俗社会	
第一節 近代化と村の統合	3 4 1
第二節 近代化と若者集団の変貌	3 4 6
第三節 近代化と婦人	3 5 3
第二章 技術革新と民俗社会	
第一節 生産性の向上と民俗	
1 農地の変化	3 5 8
2 各種組合の組織	3 6 5

3	作物の変化	3 6 8
4	技術革新	3 7 3
5	生産性の向上と民俗の変化	3 7 5
第二節 より機能的な衣食住を求めて		
1	生活改善運動のはじまり	3 7 9
2	クラブの活動とその成果	3 8 0
3	住生活の分野における生活改善	3 8 4
4	衣生活の簡素化	3 8 6
5	衣食住における近代化	3 8 7
第三章 神社統合と儀礼の変化		
第一節 神社の変遷		
1	神社分離	3 8 9
2	神社合祀	3 9 5
3	神仏分離と合祀のもたらしもの	4 0 1
第二節 婚姻・葬送儀礼		
1	婚姻儀礼	4 0 2
2	婚姻儀礼の変化	4 0 5
3	葬送儀礼	4 0 6
第四章 歴史と伝説の谷間		
第一節 語られた「事件」		
(一)	語られるものとしての「歴史」	4 1 1
(二)	ぼっこし	4 1 3
(三)	官軍に処刑された彰義隊残党	4 1 6
(四)	明治43年の洪水	4 1 9
第三編 都市化の民俗変化		
第一章 市民とムラ人		
第一節 都市化と村落生活の変貌		
1	ムラの変貌	4 2 5
2	年齢集団・家族生活の変化	4 3 2
第二節 団地・新興住宅の民俗		
第二章 減少する農家と都市生活		
第一節 都市化と農業		
1	都市化と農地の減少	4 4 5
2	都市化と農業	
(一)	都市化と公害	4 4 9
(二)	新しい農業への動き	4 5 2
3	都市化と農業にかかわる民俗の変貌	4 5 7
第二節 衣生活・食生活における都市化		
1	80年代の衣生活	4 5 9
2	80年代の食生活	4 6 2
3	食生活の都市化	4 6 4
第三章 祭り・儀礼の消滅と再生		
第一節 信仰の継続と消滅		
第二節 現代の婚姻儀礼と葬送儀礼		
1	婚姻儀礼の変化	4 7 7
2	葬送儀礼の変化	4 7 8
第三節 祭りと芸能		
1	祭り	4 8 0
2	芸能	4 8 3
参考文献一覧		
執筆分担		
話者・資料提供者・協力者		
富士見市史編さん関係者名簿		
あとがき		

平成元年3月31日発行  
富士見市

045 『三郷市史』第九巻 別編 民俗編

平成3年3月

目次

総説	1	
第一章 三郷市の自然と歴史		
第一節 三郷市の自然条件		
1	はじめに	7
2	三郷市の土地条件	
(1)	三郷の土地と河川	7
(2)	三郷の沖積層と海水準変動	9
3	三郷市の気候条件	
(1)	年平均気温の推移	1 2
(2)	年最高気温の推移	1 2
(3)	年最低気温の推移	1 4
(4)	年降水量の推移	1 4
(5)	年平均湿度の推移	1 4

(6)	変化傾向をめぐって	1 4
(7)	埼玉県内の主要地点との比較	1 6
4 三郷市の自然をめぐらる問題		
(1)	地盤災害—地震による液状化現象—	1 7
(2)	地盤災害—地盤沈下—	1 8
(3)	河川洪水災害	1 8
第二節 三郷市の歴史		
1	原始・古代の三郷	2 0
2	中世の三郷	2 6
下河辺荘と葛西御厨 戸ヶ崎・彦名の河関と彦名・花和田の市 小田原衆所領役帳と匠峯氏 喜連川家料所記と築田氏の定書 本土寺過去帳に記された人々 近世の社会へ		
3	近世の三郷	3 2
開けゆく三郷の村々 二郷半領の支配 検地の実施 鷹場の村 水との闘い 江戸後期の村の様相		
4	近代の三郷	3 7
明治維新期の三郷 大小区制と三新法 明治・大正期の生活		
5	現代の三郷	4 8
第二章 経済と民俗		
第一節 農業と生産技術		
1 土地利用と水利		
(1)	土地利用	5 5
土壌 自然堤防と畑作 後背湿地と稲作 耕地地の分布		
(2)	水利	5 9
沿革 水利慣行		
2	農業の概観	6 5
3 稲作の技術		
(1)	稲の品種	6 6
保村 利根早生 農林一号 品川 愛国 白芒 八州千本 コボレ ハッセキ 実取ラズ 三次郎 郎糯 太郎兵衛糯 埼玉十号 大正糯		
(2)	稲作技術	6 9
田うない 苗代 種粃 播種 下肥 代掻き 苗取り 田植え 田植えの方法 イウイとヒョウトリ 田植えの一日 除草 害虫・病気 稲刈り 稲架 脱穀 粃干し 粃すり 選別		
4	畑作の技術	8 9
クイリョウとセンザイ 麦 粟 きみ とうもろこし もろこし 大豆 小豆 ささげ いんげん えんどう 里芋 じゃが芋 さつま芋 大根 小蕪 ねぎ 漬け菜 畑作の儀礼		
5	農具	1 0 3
稲作農家の所蔵農具		
6 川 漁		
(1)	概観	1 1 6
(2)	魚の種類	1 1 6
鯉 鮒 鰻 鯰 ライギョ		
(3)	漁期と漁法	1 1 7
ウナギカキ タカズッポ オシアミ シカンゴ カリグミ・キリモミ ナマズバコ ドジョウホリ オキバリ ナゲナワ ヨトボシ ヨツデ ケエツケ アジアミ ドウ ビンドウ ヤス漁 ナマズツリ ハネツケ ドジョウカゴ カエボリ オッパシ ガチャアミ トアミ エビトリ シジミトリ カラスガイトリ		
第二節 交 易		
1 農家の副業		1 2 6
出稼ぎ 葉細工		
2	野菜の出荷	1 3 0
出荷準備 運搬方法 出荷先 セリの様子 相場 出荷組合		
3	下肥買	1 3 4
下肥の使用 下肥組合		
4	渡し舟(渡し場)	1 3 8
第三節 職 人		1 4 2
概観		
1	よしず屋	1 4 3
系譜・組織 材料 製作工程 生産暦		
2	井戸屋(上総掘り)	1 4 5



系譜 井戸のいろいろ 仕事の手順 材料		出産場所 産婆・トリアゲバアサン 出産 出	
3 長坂中型(ゆかた染め)にかかわる職人	1 4 8	産後の処理 産後の寝床と食事 出産と出産後	
系譜・組織 製作技術 生産暦 材料 職人の		の禁忌・俗信	
生活 信仰		(3) 誕生と儀礼	2 8 2
4 舟大工	1 5 4	初子の意義 産着 産湯 乳付けと俗信 ミツ	
系譜 製作工程 材料 制作用具 職人の生活		メのボタモチ お七夜 マゴダキ マゴミセと	
休み日・信仰		宮参り 産見舞い 産後の祈願 産婦の忌み明	
5 瓦 屋	1 5 8	けと働き始め 食い初め 初正月 初節供 初	
系譜 製作工程 材料・燃料 生産暦 職人の		誕生 モチショイ	
生活		(4) 育児と俗信	2 8 9
第四節 衣・食・住		三歳・五歳・七歳の祝い 手伝い 育児の俗信	
1 住まい		2 婚 姻	
(1) 屋 敷	1 6 3	(1) 結婚までの過程	2 9 3
家屋配置 屋敷構え 付属建物		見合い結婚 結婚年齢 縁談と仲人 結婚の条	
(2) 母 屋	1 6 7	件 通婚圏 見合 結納 結婚の時期 アシレ	
間取り 部屋の名称と利用 ハレと部屋の使用		恋愛結婚	
法 土間の名称と利用 その他の特殊な部屋		(2) 祝言から里帰りまで	3 0 1
井戸と風呂 照明と燃料 屋根		嫁入り道具と荷送り ムコイリ(嫁迎え) 嫁	
(3) 建築儀礼	1 7 5	入り たいまつと菅笠(入家式) 祝言の客	
ジマツリ・地鎮祭 ジンギョウ・ジツキ タテ		祝言 カミマイリ メダタ ミツメ カミアラ	
マエ・上棟式 トウリョウオクリ・ダイクオク		イ・ハツマリ	
リ イミネンブツ 新築祝い		3 葬 送	3 1 0
2 食べもの	1 7 9	(1) 臨 終	3 1 1
食制 主食と副食 味噌・醤油 晴れの食事		葬式組 葬儀委員長とクミの仕事 シニツカイ	
3 衣 服	1 9 1	オクリダンゴ 湯灌 死装束 北枕と魔除け	
概観 野良着と普段着・晴れ着 裁縫と衣服の		神棚・仏壇 シホウガタメ 葬具作り 通夜と	
管理		香奠 納棺と副葬品	
4 消費生活	1 9 9	(2) 野辺送り	3 1 8
自給自足の生活 購入する品々		出棺と棺の出入口 ロクドウ 野辺送り たい	
第三章 社会と民俗		まつ ドラとカネ 埋葬 念仏 忌中バライ	
第一節 ムラの歴史とその姿		マクラダシ	
1 新田開発のムラ	2 0 7	(3) 供養と年忌	3 2 2
三つの村 ムラの成り立ち 小名と新田村 ム		墓 墓参り 初七日 七本塔婆 四十九日 ハ	
ラのすがた(彦成地区上口)(早稲田地区丹後・		カナラシ 年忌供養	
半田)(東和地区高須) ムラのしくみ 集会		(4) 異常死と俗信	3 2 6
場 ムラとムラのつきあい		異常死 水子・無縁仏の供養 葬儀に関する俗信	
2 江戸・東京と三郷のムラ	2 2 1	第四章 祭りと芸能	
近郊農村としての三郷 ヒョウトリと出稼ぎ		第一節 村の祭り(概観)	3 3 1
ムラの中の商店 行商と市 休み日と遊び		1 祭祀組織	3 3 3
第二節 ムラの秩序と人々の構成		半田・高須・茂田井地区の祭祀組織 谷中・寄	
1 地主と奉公	2 2 9	巻地区の祭祀組織 大戸戸・彦糸・上口・彦倉	
早稲田地区 彦成地区 東和地区 地主の生活		地区の祭祀組織 花和田・戸ヶ崎地区の祭祀組織	
小作人の生活 奉公人の生活 ムラの階層構成		2 祭りの諸相	3 3 8
と村柄		(1) オビシャなどの新年を迎えて行われる祭り	
2 近隣組織と相互扶助	2 3 5	弓を射るオビシャ 蛇を射るオビシャ 蛇と弓	
町会と組 氏子組織と組 新住民と班編成 ム		を作るオビシャ	
ラの共同労働・共有財産 ムラのなかの互助組		(2) 二月初稲荷神社の祭り	3 4 9
織葬式組と互助 婚礼・出産と組の付き合い		(3) 夏の祭り	3 5 6
家屋の普請と手伝い合い 農作業の手伝い合い		御輿の出る祭り 百万遍 ダイハンニャ 獅子	
リнка付き合い		(4) 秋の祭り	3 6 6
3 ムラの諸集団	2 4 5	3 芸 能	3 6 9
ワカシュ講の伝統 念仏講から老人へ 戸主の		(1) 戸ヶ崎の獅子舞	3 7 0
集まり ムラの行事と子供の役割		由来 組織 獅子舞の用具 祭りまでの経過	
第三節 家族と親族		ヨイミヤ(宵宮) 演目	
1 家 族		(2) 幸房・岩野木の獅子舞	3 8 1
(1) 家族の地位と役割	2 5 3	由来 組織 獅子舞の用具 祭りまでの経過	
家族の呼称と名称 屋号(アダナ)家柄 家長		ヨミヤ(宵宮) 祭り当日 日待勘定 演目	
・主婦の役割 アトトリの役割 嫁の役割 子		(3) 囃子(神楽を含む)	3 8 6
供の役割 年寄りの役割 奉公人 食事の座位		系譜および流派 組織 楽器および曲目 練習	
置 家族の寝場所		囃子を行う場所	
(2) 家族の継承と相続	2 6 2	(4) 万 作	3 9 0
相続の形態 財産の分配 相続の時期 養子		第二節 家の祭り	
2 親 族	2 6 5	1 暦と休み日	
(1) イットウ・イッケとホンケ・イモチ	2 6 6	(1) 休み日	3 9 7
本家による統制 イットウ・イッケの付き合い		(2) 暦	3 9 9
イットウ・イッケ間での婚姻 分家の事例		2 正月行事	4 0 0
(2) 親戚関係	2 7 1	(1) 正月の準備	4 0 1
第四節 人の人生		ススハライ 暮れの市 破魔弓・羽子板 餅搗	
1 産 育		き お飾り付け 門松 お礼とヘイシン ミソ	
(1) 妊 娠	2 7 6	カップライ(晦日祓い) オミタマサマの飯	
妊娠中の食事 妊娠中の禁忌・俗信 安産祈願		ミソカソバ(晦日そば) オタキアゲ 除夜の鐘	
腹帯・帯祝い		(2) 正月の行事	4 0 5
(2) 出 産	2 7 8	初詣 若水汲み ヨシダナ(葎棚) 正月三が	

日の供えもの・食事 元旦祭 寺への年始と住職の年始 仕事始め クスリダシ(薬出し) 初荷 初湯 オオパン 新年会 タナサガシ ナナクサ(七草) 蔵開き・鏡開き 神社の祭礼 (3) 小正月の行事…………… 4 1 4  
マユダマ ケヅリカケとヤナギバシ アズキガユ お飾り納め ヤブイリ ハツカコガシ 恵比寿講 初天神 高須のツジキリ(辻切り)

3 春から夏の行事…………… 4 1 9  
節分 初午 八日節供 針供養 三月の節供 春の彼岸 種まき 正月 谷口の不動様 お釈迦様 真間の手児奈さん 彦倉の虚空蔵様 五月の節供 荒神苗 サナブリとサナブリ正月 カミ正月 浅間参り 戸ヶ崎の浅間神社・香取神社の祭り と獅子舞 長戸呂のツジキリ 半田の虫追い 百万遍 大般若 ミヤナギ(宮籬) 天王様・山王様 上口の香取神社祭礼 花和田の厄神様の祭り 土用干し 雨乞い

4 盆の行事…………… 4 3 5  
カモノクチ トウロウタテ(灯籠立て) 新盆の供養 七夕 墓石洗い ガラガラ・コシカケ 盆棚作り ホトケのお迎え 墓の灯籠 盆の供えもの 盆礼 墓参り ホトケ遊ばせ 高野の施餓鬼 棚経 棚念仏 盆踊り 盆の送り ヤブイリとエンマサマの日 施餓鬼会 ウラボン

5 秋から冬の行事…………… 4 5 3  
バカモコセック(馬鹿婿節供) 十五夜 秋の彼岸 十三夜 オヒマチ(お日待) オカサマ 収穫の儀礼 デイシゲユ(大師粥) トウカンヤ オビトキ・七五三・オトリサマ 恵比須講 八日節供 冬至

第五章 神と仏

第一節 村の神と家の神

1 村の神社

(1) 神社の分布と伝承…………… 4 6 1  
香取神社と稲荷神社 女体神社・上口香取神社ご神体と境内社

(2) 神社合祀と信仰…………… 4 6 7  
(3) 氏子組織…………… 4 7 0  
彦成の氏子会 戸ヶ崎の氏子会 長戸呂の氏子親睦会 高須の氏子組織 幸房・岩野木の氏子組織 大広戸の氏子組織 半田の氏子組織 采女新田の氏子組織 横堀の祭礼と氏子組織 そのほかの地区の氏子組織

2 小地区で祀る神

(1) 組で祀る神…………… 4 7 7  
彦成の組の神 仁蔵の組の上 茂田井の鎮守 上口の組の神 戸ヶ崎の稲荷と吹上天神社

(2) 数軒で祀る神…………… 4 8 0  
幸房の稲荷祭祀 イットウや本分家で祀る神 水神・弁天 高須の第六天社

(3) 路傍の神仏…………… 4 8 2  
地藏 長戸呂の照暗地藏 久兵衛の阿弥陀様 普門品供養塔 庚申塔

3 屋敷神

(1) 上口の屋敷神…………… 4 8 7  
(2) 長戸呂の屋敷神…………… 4 9 1  
(3) そのほかの屋敷神信仰…………… 4 9 5

4 屋内に祀られる神

(1) 神 棚…………… 5 0 0  
(2) 荒 神…………… 5 0 2  
(3) 恵比須・大黒…………… 5 0 3  
(4) 仏 壇…………… 5 0 3  
(5) 井戸神・水神…………… 5 0 4  
(6) そのほかの屋内神…………… 5 0 4

第二節 寺と堂

1 寺院の行事と檀家

(1) 三郷市域の寺院と宗派…………… 5 0 6  
真言宗 曹洞宗 日蓮宗 天台宗 浄土宗 寺院の本尊

(2) 寺院と檀家…………… 5 0 9  
上口の寺と檀家 彦成の寺と檀家 長戸呂の寺と檀家 半田の寺と檀家 采女新田の檀家 戸

ヶ崎の寺と檀家 横堀の寺と檀家 高須の宝蓮寺と半檀家 彦糸の安養院と大いちょう

(3) 真言宗醍醐派寺院の信徒と行事…………… 5 1 7  
谷口の成就院 高須の大師様と先達

(4) 日蓮宗の信仰と行事…………… 5 2 2  
久兵衛の本隆寺と十二日講 大広戸の高応寺と鬼子母神講 彦沢の日蓮宗様

2 堂と寮

(1) 堂・寮と信仰…………… 5 2 9  
(2) 薬師堂とお釈迦様行事…………… 5 3 1  
(3) 彦倉の虚空蔵堂と行事…………… 5 3 3

3 巡りの信仰

(1) 武蔵(新西国)三十三ヶ所観音礼所…………… 5 3 6  
十番彦糸実相院 十一番彦富兵左衛門屋敷 十二番彦成西福寺 十三番匠免迎撰院 十四番戸ヶ崎常楽寺 花和田の観音堂 境木の観音堂 そのほかの観音 札所巡り

(2) 大師札所巡りと送り大師…………… 5 5 0  
新四国四ヶ領八十八ヶ所大師札所 二十一大師 江戸川八十八ヶ所 新田組二十一ヶ所 大正記念大師講(送り大師)

第三節 講と信仰

1 在地講

念仏講 観音経(普門品講) 不動講 勢至講 大師講 庚申講 天神講 稲荷講

2 参拝講

大山講 御嶽講 三峰講 富士講 木曾御嶽講 成田講 雷神講 川崎大師講 戸隠講 道了講 筑波講 牛馬講 榛名講 山倉講

第六章 暮らしと物語

第一節 他の土地とを結ぶ物語…………… 6 0 7

品川から苗を貰いにくる由来(一)(二)(三) 番匠免の地名の件 町屋のテンノウサマ 町屋のテンノウサマ 半田稲荷

第二節 暮らしを支える物語…………… 6 1 4

獅子舞の由来 大刀の由来 大隅守信利の鰐口 水戸黄門と権現松 近藤勇と丹後村の人々 巡礼塚の由来 高札場の由来 千人首塚 背槍の山 小合溜の水神様 地藏の石と足の痛み サンコウダイシ 虚空蔵と鱈の禁忌 稲の起源 十二支の由来(一)(二)(三) 猫が祟る訳

第三節 暮らしの中の物語…………… 6 2 6

浅間神社の蛇 小合溜の蛇 卵と蛇 ムジナにばやかされる(一) ムジナに鯨を見せられる ムジナにばやかされる(二) ムジナのアブク 提灯化け物 狐に化かされる 稲荷に迷わされる 稲荷に化かされる 狐憑き 火まわりが怖かった オートバイに襲われる 人魂(一) 人魂(二) 埋められた地藏

第四節 暮らしの物語…………… 6 3 4

おいはぎの話 関東大震災 昔の小遣い 浅草の思い出 婚姻のこと 戦争・戦地で 戦争・空襲 戦争・復員 食糧難 二十二年の洪水 (一) 二十二年の洪水 (二)

第七章 水害をめぐる民俗

丹後地区の水害をめぐる…………… 6 4 5  
南蓮沼地区の水害をめぐる…………… 6 5 4  
彦糸地区の水害をめぐる…………… 6 6 5  
高須地区の水害をめぐる…………… 6 7 5  
花和田地区の水害をめぐる…………… 6 8 4

索引 あとがき

平成3年3月30日 発行

三郷市

『半田の民俗』

目次

村 制…………… 1  
生産・生業…………… 1 7  
年中行事…………… 3 0  
民間信仰…………… 5 6

半田地区話者一覧

民俗部会活動経過

平成元年3月30日発行

『高須の民俗』

目次

生産・生業…………… 1

年中行事…………… 1 5

民間信仰…………… 4 1

口承文芸…………… 7 4

高須地区話者一覧

民俗部会活動経過

平成2年3月30日発行  
三郷市企画財政部広報広聴課

046『皆野町誌』資料編五 民俗

昭和61年3月

目次

第一章 皆野町の概観…………… 1

1 皆野町の自然環境…………… 2

2 農林業…………… 4

3 町の変遷…………… 8

第二章 腰の民俗…………… 1 3

第一節 腰の概観…………… 1 4

第二節 むらと家

1 ム ラ…………… 1 6

(1) ムラの区分 (5) つきあい

(2) 諸 役 (6) 諸集団

(3) 寄合い (7) 共有財産

(4) 共同作業

2 イ エ…………… 2 3

第三節 交通と交易

1 交 通…………… 2 4

2 運 輸…………… 2 5

3 通 信…………… 2 6

4 交 易…………… 2 6

第四節 生産と生業

1 稲 作…………… 2 7

2 麦 作…………… 3 2

3 皆野地区の役牛…………… 3 6

4 養 蚕…………… 3 8

第五節 一年の行事

1 正月の行事…………… 4 5

2 春から夏の行事…………… 4 9

3 盆の行事…………… 5 0

4 秋から冬の行事…………… 5 3

第六節 衣と食

1 衣…………… 5 4

2 食…………… 5 6

第七節 人の人生

1 子育て…………… 6 0

2 成 人…………… 6 3

3 婚 姻…………… 6 4

4 厄年・年祝い…………… 6 8

5 葬 喪…………… 6 8

第八節 信 仰

1 イエでまつる神仏…………… 7 3

(1) 屋内神

(2) 屋敷神

2 コーチでまつる神仏…………… 7 4

3 ムラでまつる神仏…………… 7 6

4 講…………… 7 7

第三章 下田野の民俗

第一節 下田野の概観…………… 8 0

第二節 むらと家

1 ム ラ…………… 8 2

(1) ムラの区分 (4) つきあい

(2) 諸 役 (5) 諸集団

(3) 共同作業 (6) 共有財産

2 イ エ…………… 9 1

(1) 家 族

(3) 分家・隠居

(2) 相 続

(4) 親類のつきあい

第三節 交通と交易

1 交 通…………… 9 3

(1) ムラの交通

(2) 来村者

2 運 輸…………… 9 5

3 通 信…………… 9 6

4 交 易…………… 9 6

第四節 生産と生業

1 農 業…………… 9 6

(1) 稲 作 (4) 農耕儀礼

(2) 畑 作 (5) 労働慣行

(3) 養 蚕

2 山仕事…………… 1 1 3

(1) 薪炭づくり

(2) こびき

3 川漁と水車…………… 1 1 5

(1) 魚とり

(2) 水 車

4 諸 職…………… 1 2 3

第五節 一年の行事

1 正月の行事…………… 1 2 5

2 春から夏の行事…………… 1 3 2

3 盆の行事…………… 1 3 6

4 秋から冬の行事…………… 1 4 1

第六節 衣・食・住

1 衣…………… 1 4 3

2 食…………… 1 4 8

3 住…………… 1 5 3

第七節 人の人生

1 子育て…………… 1 5 6

2 成 人…………… 1 6 1

3 婚 姻…………… 1 6 1

4 厄年・年祝い…………… 1 6 6

5 葬 喪…………… 1 6 6

第八節 信 仰

1 イエでまつる神仏…………… 1 7 2

(1) 屋内神

(2) 屋敷神

2 コーチでまつる神仏…………… 1 7 5

(1) 組や同族でまつる神

(2) 路傍にまつられた神仏

3 ムラでまつる神仏…………… 1 7 9

(1) 赤城大神社

(3) その他の社寺

(2) 西福寺

4 講…………… 1 8 3

(1) 日待ち

(3) 一人講

(2) 代参講

第四章 谷草の民俗

第一節 谷草の概観…………… 1 9 0

第二節 むらの家…………… 1 9 2

1 コーチ…………… 1 9 2

2 イ エ…………… 1 9 9

第三節 交易と交易

1 交 通…………… 2 0 0

2 運 輸…………… 2 0 4

3 通 信…………… 2 0 5

4 交 易…………… 2 0 6

第四節 生産と生業

1 農 業…………… 2 0 7

(1) 畑 作

(3) 稲 作

(2) 養 蚕

(4) 農耕儀礼

2 林 業…………… 2 2 1

(1) 白炭がま

(2) 黒炭がま

第五節 一年の行事

1 正月の行事…………… 2 3 4

2 春から夏の行事…………… 2 4 2

3 盆の行事…………… 2 4 5

4 秋から冬の行事…………… 2 4 8

第六節 衣と食

1 衣…………… 2 5 0

2	食	252	第七節 人の人生
1	子育て	260	
2	婚姻	264	
3	厄年・年祝い	268	
4	葬 喪	269	
第八節 信 仰			
1	イエでまつる神仏	274	
	(1) 屋内神		
	(2) 屋外神		
2	コーチでまつる神仏	277	
	(1) コーチにまつられた神仏		
	(2) 共同祈願		
3	講	279	第九節 ことわざ
1	予 兆	282	
2	禁 忌	283	
3	民間療法	283	
4	その他	284	
第五章 国神の民俗			
第一節 国神の概観			
第二節 むらと家			
1	ム ラ	288	
2	イ エ	295	
第三節 交通と交易			
1	交 通	296	
2	運 輸	299	
3	通 信	300	
4	交 易	301	
	(1) 村内の交易		
	(2) 行 商		
第四節 生産と生業			
1	農 業	303	
	(1) 畑 作		
	(2) 養 蚕		
2	林 業	317	
3	機 業	319	
第五節 一年の行事			
1	正月の行事	321	
2	春から夏の行事	327	
3	盆の行事	330	
4	秋から冬の行事	331	
第六節 衣と食			
1	衣	332	
2	食	335	
第七節 人の人生			
1	子育て	342	
2	成 人	350	
3	婚 姻	351	
4	厄年・年祝い	361	
	(1) 厄 年		
	(2) 年祝い		
5	葬 喪	361	
第八節 信 仰			
1	イエでまつる神仏	370	
	(1) 屋内神		
	(2) 屋敷神		
2	コーチでまつる神仏	371	
	(1) 組や同族でまつる神仏		
	(2) 路傍にまつられた神仏		
3	ムラでまつる神仏	373	
	(1) 国神神社		
	(2) 長言寺		
第九節 ことわざ			
1	予 兆	377	
2	禁 忌	378	
3	民間療法	379	
第六章 門平の民俗			
第一節 門平の概観			
第二節 むらと家			
第三節 交通と交易			
1	交 通	389	
2	運 輸	392	
3	通 信	392	
4	交 易	393	

第四節 生産と生業			
1	こんにゃく栽培	397	
2	養 蚕	400	
3	林 業	403	
第五節 一年の行事			
1	正月の行事	410	
2	春から夏の行事	418	
3	盆の行事	420	
4	秋から冬の行事	425	
第六節 衣と食			
1	衣	427	
2	食	428	
第七節 人の人生			
1	子育て	432	
2	成 人	435	
3	婚 姻	437	
4	厄年・年祝い	440	
5	葬 喪	441	
第八節 信 仰			
1	イエでまつる神仏	446	
2	コーチでまつる神仏	447	
3	組などでまつる神仏	450	
4	共同祈願	452	
第九節 ことわざ			
第七章 上三沢の民俗			
第一節 上三沢の概観			
第二節 むらと家			
1	ム ラ	460	
2	イ エ	465	
第三節 交通と交易			
1	交 通	467	
2	運 輸	470	
3	通 信	471	
4	交 易	471	
第四節 生産と生業			
1	麦作り	473	
2	薪作り	476	
3	機 業	478	
	(1) 年季 (Aさんの場合)		
	(2) 年季 (Bさんの場合)		
	(3) 年季 (Cさんの場合)		
	(4) 工場主としてのTさん		
	(5) 捺染加工屋		
第五節 一年の行事			
1	正月の行事	495	
2	春から夏の行事	501	
3	盆の行事	503	
4	秋から冬の行事	507	
第六節 衣と食			
第七節 人の人生			
1	子育て	514	
2	婚 姻	520	
3	厄年・年祝い	524	
4	葬 喪	525	
第八節 信 仰			
1	イエでまつる神仏	530	
2	コーチでまつる神仏	532	
3	ムラでまつる神仏	534	
4	講	537	
第九節 ことわざ			
1	予 兆	538	
2	禁 忌	538	
3	まじない	540	
4	民間療法	541	
第八章 平草の民俗			
第一節 平草の概観			
第二節 むらと家			
1	コ ー チ	546	
2	イ エ	557	
第三節 交通と交易			
1	交 通	560	
2	運 輸	562	
3	通 信	563	

4 交 易	5 6 3
(1) 行商	(3) その他の来村者
(2) 職人の来	(4) 市
第四節 生産と生業	
1 農 業	5 6 6
(1) 麦作り	(3) 農耕儀礼と禁忌
(2) 稲 作	(4) 労働慣行
2 山仕事	5 8 1
(1) クロキ山	
(2) アサキ山	
第五節 一年の行事	
1 正月の行事	5 9 3
2 春から夏の行事	6 0 4
3 盆の行事	6 0 7
4 秋から冬の行事	6 1 1
第六節 衣と食	
1 衣	6 1 3
2 食	6 1 4
第七節 人の人生	
1 子育て	6 1 9
2 婚 姻	6 2 4
3 厄年・年祝い	6 2 9
(1) 厄年	
(2) 年祝い	
4 葬 喪	6 3 0
第八節 信 仰	
1 イエでまつる神仏	6 3 7
(1) 屋内神	
(2) 屋外神	
2 コーチでまつる神仏	6 3 8
(1) 組や同族でまつる神仏	
(2) 路傍にまつられた神仏	
(3) 丸山神社	
(4) 虚空蔵堂	
(6) 講	
(5) 共同祈願	
(7) 日待	
第九章 金沢の民俗	
第一節 金沢の概観	6 4 6
第二節 むらと家	
1 概 要	6 4 8
2 村落生活	6 5 1
3 家族生活	6 5 9
第三節 生産と生業	
1 農 業	6 6 1
2 養 蚕	6 6 7
3 林 業	6 6 9
第四節 一年の行	
一 月	6 7 5
二 月	6 8 2
三 月・四 月	6 8 4
五 月・六 月	6 8 5
七 月・八 月	6 8 6
九 月・十 月	6 8 9
十一月・十二月	6 9 0
第五節 衣と住	
1 衣(着物)	6 9 2
2 住(民家)	6 9 7
第六節 人の人生	
1 誕 生	7 0 5
2 誕生後	7 0 8
3 育 児	7 1 0
4 成 人	7 1 1
5 婚 姻	7 1 1
6 厄 年	7 1 4
7 葬 式	7 1 6
8 葬 制	7 1 7
第七節 信 仰	
1 「村」の神々	7 1 8
2 「ムラ(耕地)」の神々	7 2 0
3 「イエ」の神々	7 2 1
4 代参講	7 2 4
5 その他の信仰	7 2 5

第八節 芸能・娯楽・遊戯	
1 民俗芸能	7 2 7
2 娯楽・童戯	7 2 8
第九節 口頭伝承・民俗知識	
1 伝説・昔話	7 3 0
2 民 謡	7 3 7
3 民俗知識	7 3 8
皆野町の住居と職人	
坪井英彦	7 4 3
第一節 住居と生活	
1 概 観	7 4 4
2 屋敷取り	7 4 6
(1) 平地の民家	
(2) 山地の民家	
3 民家の形式	7 5 3
(1) 新井家住宅	
(2) 皆野の民家	
イ 民家の概要	
ロ 間取りと架構の復元	
(イ) 平家住宅	(ニ) 霜田家住宅
(ロ) 若林家住宅	(ホ) 飯野家住宅
(ハ) 田島家住宅	(ヘ) 金室家住宅
4 生業と住宅	7 6 8
(1) 生産暦	
イ 霜田氏宅	
ロ 田島氏宅	
(2) 養蚕と住宅	
イ セガイ造り	
ロ 蚕 室	
ハ 蚕の成長と空間	
5 住生活とその変遷	7 7 8
(1) 間取りの変遷	
イ 第一段階	
ロ 第二段階	
ハ 第三段階	
(2) 住生活の変化	
イ 霜田氏宅	
ロ 飯野氏宅	
(3) 住まい方としきたり	
(4) 住居と信仰	
6 生業と生産用具	8 0 1
(1) 住居と生産用具	
(2) 生産用具の種類と用途	
イ 竹 籠	
ロ 野道具	
第二節 諸 職	
1 概 観	8 1 1
(1) 江戸時代の職人	
(2) 明治以降の職人	
2 籠 屋	8 1 5
(1) 仕事場	(3) 仕事と道具
(2) 製品の種類	(4) 仕事の変化
3 鍛冶屋	8 3 2
(1) 仕事場	(3) 仕事の変化
(2) 仕事と製品	(4) 修 業
4 桶 屋	8 4 5
(1) 仕事場	(4) 仕事の変化
(2) 製品の種類	(5) 修 業
(3) 仕事の様子と道具	(6) 信 仰
5 屋根屋	8 6 2
(1) 仕 事	
(2) 道 具	
(3) 修 業	
6 大 工	8 6 8
(1) 仕 事	(3) 仕事の変化
(2) 建 前	(4) しきたりと慣習
資料一 公認埼玉県竹工製品組合联合会定款	8 7 4
資料二 秩父桶工組合の価格表	9 1 2
あとがき	9 1 6
皆野町の伝説	
山口槌男	9 1 7
下田野の伝説	9 1 8
国神の伝説	9 2 0

金沢の伝説……………9 2 3  
 皆野町の民俗芸能  
 ー棕神社の獅子舞ー 関根幸一……………1 0 3 8  
 あとがき……………1 0 3 9  
 昭和61年3月31日発行  
 皆野町

047 『妻沼町誌』

昭和52年3月  
 目次(抜粋)  
 第十一章 民俗・信仰  
 第一節 年中行事……………6 9 9  
 第二節 婚礼・葬儀……………7 1 1  
 第三節 方言・訛語……………7 1 5  
 第四節 神社と祭神……………7 1 9  
 第五節 寺院と本尊仏……………7 3 7  
 第六節 修験道……………7 5 9  
 第七節 民間信仰……………7 6 2  
 第八節 伝 節……………7 8 5  
 聖天様は松が嫌い・雉子は聖天様の眷族・葛和田  
 の大杉様・大龍寺の草創・島田道竿の大蛇退治・  
 河童と兵衛・福川の由来・七夕様の迎え馬  
 妻沼町の歴史年表……………8 6 1  
 妻沼町誌編纂委員会の構成……………8 8 0  
 昭和52年3月30日発行  
 妻沼町役場

048 『毛呂山民俗誌』 Vol.1

平成2年3月  
 目次  
 1 不思議なはなし  
 1 怖い場所 河童のはなし 小豆洗いのはなし 天狗  
 のはなし 狸・むじなのはなし 狐・オトカのは  
 なし 送り狼のはなし オーサキのはなし  
 2 唱えごととお呪ない……………2 2  
 歯が抜けた モノモライができた イボができた  
 やけどをした コウデを病んだ 犬に吠えられた  
 悪い夢を見た 雷が鳴った 地震だ・大変だ 子ど  
 もが転んで泣いた 暮れの茄子・豆・菊の殻燃やし  
 大晦日のミソカッパライ 七草粥の料理 成木責  
 め 節分の豆を煎る 鬼は外の作法 トーカンヤ  
 3 年中行事覚え書……………3 7  
 歳神様 正月の食事 若水くみ 仕事初め 山入り  
 お焚き上げ 蔵びらき 小豆粥 藪入り 次郎のつ  
 いたち 八日節供 初午 苗びらき 馬鋤洗い 野  
 あがり けつあぶり 生姜節供 二百十日 おくん  
 ち 川浸り  
 4 蕨の恩を忘れたかー蛇の伝承ー……………4 8  
 5 水車の音……………5 2  
 6 雨乞い獅子の活躍……………5 6  
 7 お天気占い……………5 9  
 8 世間話のあれこれー顔かたちー……………6 3  
 ほくろ つむじ みみたぶ 足の親指 鼻の形と大  
 きさ 手の大きさ その他  
 9 囲炉裏のはなし……………6 9  
 いろいろの現状 いろいろの灰 自在鉤となくしもの  
 鉤と豆とお金 火傷除け 荒神様とおむすび いろ  
 りの燃料 いろいろの座席  
 10 出産と育児をめぐる伝承……………8 2  
 (1) 安産祈願ー妊婦と食事 赤ちゃんとアザ 安  
 産の神様 難産と流産 お産のカチマケ 後産の  
 処理  
 (2) 子育ての苦心ー赤ちゃんのセッテンマイリ  
 ヤクドシッコのお呪い 丈夫に育てたい 腰に吊  
 るした白南天 夜泣きのお呪い かんの虫を治し  
 たい はしかのお呪い 百日咳の治しかた てん  
 かんの発作 子どもの寝小使  
 11 家例の諸相……………1 0 1  
 12 記憶される災害……………1 0 4  
 関東大震災 大水 落雷 カンバツの被害 ひょう  
 の被害  
 [コラム]  
 豊作の予想 チンピラの不思議 木曾の御嶽様

次号の特集内容 昔のまりの作り方 産湯は  
 どこに捨てるのか オキノサマ  
 ◎指導・協力ならびに伝承資料の提供者一覧……………1 2 4  
 あとがき……………1 2 5  
 平成2年3月31日発行  
 毛呂山町教育委員会

『毛呂山民俗誌』 Vol.2

平成3年8月  
 目次  
 1 行商人の消息……………1  
 ぐず彌買い 石屋・臼の目立て いかけ屋 研屋・  
 棒屋 油屋 呉服屋 下駄屋 ぞうり屋 豆腐屋  
 魚屋 アOPP買い 鮎屋 目立て屋 薬屋 たま  
 ご買い 桶屋 かご屋 箕づくり  
 2 20歳の風景……………2 4  
 3 町の講組織……………4 0  
 前久保の講 沢田の講 大師1区の講 滝ノ入の講  
 阿諏訪の講 大谷木の講 長瀬1区の講 長瀬3区  
 の講 葛貫の講 川角の講 西大久保の講 西戸の  
 講 第三団地の講 岩井(沢田)の講 岩井(平山)  
 の講 大類の講  
 4 世間話 ー町のフォークとヒーローたちー……………5 1  
 5 年中行事覚え書 ー2ー……………5 9  
 失われた正月気分・オクンチ・盆行事・年中行事の  
 資料  
 6 毛呂山町のうた……………9 6  
 7 夜遊びの伝説……………1 1 9  
 [コラム]  
 蟬の抜け殻 眼が悪くなったら 夜泣きの対処法  
 足が悪くならないように 異母取りの方法  
 ◎指導・協力者一覧……………1 2 9  
 あとがき……………1 3 0  
 平成3年8月1日発行  
 毛呂山町教育委員会

『毛呂山民俗誌』 Vol.3

平成5年3月  
 目次  
 1 魚とりのはなし……………1  
 2 夏休みの体験……………1 5  
 3 なぞなぞ……………2 3  
 4 戦後のできごと……………2 6  
 買い出し 八高線の大事故 民俗の戦後  
 5 農家の薬仕事ー消えてしまった薬ー……………5 8  
 6 食の伝承……………6 4  
 救荒食物のこと 食糧難の経験 食事の作法 大根  
 の食べ方  
 7 農家の暮らしと経済ー農地解放以前ー……………9 2  
 8 履物の変化……………9 9  
 9 葬送儀礼ノオト ー1ー……………1 0 5  
 死の予兆 よみがえり  
 10 農家の時間割  
 ーアサツクリからヨナベまでー……………1 0 9  
 11 風呂のはなし……………1 1 8  
 12 楽になった農作業ー機械化される農業ー……………1 2 5  
 13 出荷という仕事ー換金までの苦労ー……………1 3 6 [コ  
 ラム]  
 てんかんの発作の処置法 オシラ講 日高市上鹿  
 山のAさんのはなし セブリの消息 厄年の伝承  
 むかで油 金婚式カップル訪問ー1ー 厄介なト  
 ゲ 大久保耕地のオトウカ 山口満さんのことば  
 薬草の知識 チトりの話 オキノサン お百度  
 参り 馬車引きの金さん ジザイモチの味 父の  
 口癖 町のフォークヒーロー 箱根駅伝 オイテ  
 ケ・オイテケ  
 ◎指導・協力者一覧……………1 4 1  
 あとがき……………1 4 2  
 平成5年3月1日発行  
 毛呂山町教育委員会

『毛呂山民俗誌』 Vol.4

平成6年3月

目次

1 食の伝承…………… 1  
赤飯をつくる日 小豆粥 七草粥 お粥—産婦の食  
事— サツメシ カテメシ だしを使った料理  
山野で採集した食べ物  
補遺 山野で採集した食べ物 子どもが食べた野  
山の果

2 暮らしと燃料…………… 3 3  
マキとソダ 炭の消費

3 馬と牛の記憶…………… 5 1

4 土への関心…………… 7 3

5 少し前の酒事情…………… 8 6

6 下肥のはなし…………… 9 5  
下肥の購入 下肥の施肥方法 外便所の思い出

7 筵と生活…………… 1 0 3

8 旅芸人の消息…………… 1 1 5

9 農民の敵…………… 1 1 9

10 町の職人  
—平野さんは籠屋さんであった—…………… 1 2 3

11 町の動物記…………… 1 3 6

12 青年の経験…………… 1 5 1

[コラム]  
爪切りの伝承 雨だれの伝承 トリウチボウシと  
ナカオレ 写真の噂 ヒトダマその1 ぜんこさ  
ん 阿諏訪のフォークヒーロー・鉄雄さん 葛貫  
の蛭 五円湖の由来 よみがえり 痘瘡神様 日  
高市上鹿山のAさんの経験談 薬布団 小便とミ  
ミズ 泥棒の噂 麦藁帽子 ヒトダマその2 裁  
縫をめぐる禁忌 朝の蜘蛛と夜の蜘蛛 箒と掃除  
初物の収穫 妻の苦勞 柿渋 井戸の話題 猫  
を飼う 犬を飼いたい ホッカブリとハチマキ

◎指導・協力者の一覧表…………… 1 5 7  
あとがき…………… 1 5 8

平成6年3月1日発行  
呂山町歴史民俗資料館

『毛呂山民俗誌』vol.5

平成8年3月

目次

1 婚姻儀礼の覚え書…………… 1  
縁談を持ってきた人質 恋愛結婚の評価 見合いの  
様子 仲人口という技術 仲人のプロ 口固めの様  
子 結納の様子 御袴代(結納返し) 結納儀礼の  
様子 嫁迎え 嫁入りは歩きだった 嫁入り道具の  
なかも 祝儀の手伝い 花嫁さんが婚家に入る 祝  
儀進行のプログラム 嫁入り道具を拝見 髪洗いと  
いう名の里帰り 嫁さんの顔見せ

2 ああ寒かったね…………… 3 6

3 暗闇の記憶…………… 4 6

4 町の住生活—屋根の変化—…………… 5 7

5 ゾーヤマ(雑山)への関心…………… 6 9

6 産育の伝承—夫の出産体験—…………… 7 9

7 伝承された治療法…………… 9 0  
ほくろ(黒子)の取り方 痔の悩み 赤ちゃんのア  
セモ クサヤトビヒの治療法 漆でかぶれたときの  
処置 ひび・あかぎれ・しもやけの治し方 歯が痛  
い できものの処置 赤ちゃんのアザ 釘を踏んだ  
カクランの処置法 耳が悪くなったら しゃっく  
りを止める 暑気当たりの処置法 止血の処置法  
マムシに咬まれたときの処置法

8 家伝という名の医療…………… 1 0 6

9 達者な人たち—長寿の称号—…………… 1 1 2

10 「筆おろし」という体験…………… 1 2 3

11 少し昔の子どもたち…………… 1 2 9  
家事手伝い 稲作の手伝い 麦作りの手伝い 蚕の  
手伝い 畑仕事と山仕事の手伝い 小遣いの記憶  
子ども部屋の誕生

[コラム]  
針が見つからない ダイジンの伝承—平山ダイジ  
ン— 流鏑馬の今昔—福田三—さんの思い出 夜  
の蝶 死に欲が出る、ということ 盆月には亡く  
ならないで欲しい 味噌の話題 神前と仏前 死  
に欲が出る、ということ(その2) 庭木への関

心 後生楽という語彙 またぐな、踏むな、腰か  
けるな ダイジンの伝承—矢倉ダイジン— して  
はいけない—覧 カイブシ(蚊燻し) 井戸とボ  
ウフラ 大沢幸平さんが20歳のころ ダイジン  
の伝承—向ダイジン— 西戸の名人 蚊との交流  
後生がいい、ということ 消えた病—脚気—の消息  
—健康優良児 観音の夢 長男の損得

◎指導・協力者一覧表…………… 1 6 4  
毛呂山町文化財保護審議委員会名簿  
毛呂山町民俗調査員名簿  
毛呂山町民俗調査事務局名簿  
あとがき…………… 1 6 5

平成8年3月1日発行  
毛呂山町歴史民俗資料館

049『八潮市史』民俗編

昭和60年9月

目次

第一章 社会生活  
第一節 ムラのしくみ  
概説…………… 2  
1 ムラの構造…………… 7  
(1) ムラの起源…………… 7  
ムラ ムラの起源 中川沿いのムラ起源 綾瀬  
川沿いのムラ起源 川に面しない他のムラ起源  
ムラ境 辻切り  
(2) ムラの仕組み…………… 1 6  
組と講 五人組・部落会・町会 ムラ組 ムラ  
役 言継ぎと定使い 寄り合いと常会  
(3) ムラ入りと宮入り…………… 3 3  
仲間入り ムラ入り 嫁・婿のムラ入り 宮入  
りと若衆入り  
(4) 相互扶助と共同作業…………… 3 6  
合力 生業に関わる相互扶助 安全・衛生に関  
わる相互扶助 生活に関わる相互扶助  
(5) 年齢集団…………… 3 9  
年齢の階梯 若い衆講と青年会 戸主会 主婦  
たちの集団 老人集団

2 家と同族…………… 4 7  
(1) 家族の生活…………… 4 7  
家族構成 高木の家族構成例 家族の地位と呼  
称 部屋の利用 奉公人 下男・下女 家族の  
仕事分担 家柄  
(2) 相続と隠居…………… 5 9  
相続 隠居相続 身上渡し 隠居後の生活  
(3) 同族慣行…………… 6 2  
本家と分家 隠居分家 所帯持ち 徴兵忌避の  
分家 地分け 先祖分け イッケと身内 通婚圏  
(4) 擬制的親子…………… 7 0  
仮の親子 幼児期の仮親 成年期の仮親

第二節 水と生活  
概説…………… 7 3  
1 恵みをもたらす水…………… 7 5  
(1) 水と儀礼…………… 7 5  
儀礼 産湯 赤い椀 食初めの河原石 髪洗い  
水天宮の札 死水 湯灌 流れ灌頂 土左衛門  
(2) 水と年中行事…………… 8 5  
年中行事 初水 洗顔と今日様 七草水 菖蒲  
湯 天王様 初生り胡瓜 雨乞い 垢離とり  
釜の口開け 七夕 盆河童 盆莫蔭 迎え火の  
風呂 迎え火 仏の足洗い水 川施餓鬼 精霊  
流し 砂取り お礼流し  
(3) 水と信仰…………… 1 0 0  
水の祭祀 水神 井戸神 弁財天・巖島社 水  
口の祭祀 流物祭祀 水中出現仏 川流し

2 便益をもたらす水…………… 1 1 0  
(1) 飲料水…………… 1 1 0  
飲み水 川の水 川棚 天水 井戸水 水脈  
井戸掘り 井戸替え 井戸釣瓶 瀘し水 水甕  
貫い水 井戸講  
(2) 風呂…………… 1 1 7  
風呂 風呂水 風呂桶 湯殿・風呂場 貫い風  
呂 入浴の回数 入浴順 水浴 落とし湯 俗信

(3) 用排水路と水利慣行	1 2 2
水路の名称 用水 井堀 手樋 落とし堀 組織	
水利慣行 用排水の施設 その他	
(4) 河 川	1 3 6
川の名称 水利組合 流れに関わる名称 堤川	
洲 流作業 川に関わる俗信	
(5) 川魚漁	1 4 0
川魚 漁法 漁場と漁法	
3 災害をもたらす水	
(1) 水 害	1 4 7
水害 明治43年の水 昭和22年の水 地水	
(2) 災害を避ける努力	1 5 5
水防と水の備え 備蓄 水防団 水塚 水害	
予備船 水防に関わる伝承	

### 第三節 人の人生

概 説	1 6 4
1 産 育	
(1) 妊娠と帯祝い	1 6 6
妊娠 帯祝い 産神 胎児 妊婦	
(2) 出産と里からの見舞い	1 7 5
産室 産褥 出産 後産 産湯 異常分娩 里	
からの見舞い 産婦	
(3) 子供の成長と祝い	1 8 7
七夜 出産見舞い 宮参り 食い初め 初正月	
初節供 育児と俗信 子守り 初誕生 三・五	
・七歳の祝い 髪型 初潮 一人前	
2 婚 姻	
(1) 見合いと結納	2 0 2
縁談 通婚圏 結婚年齢 女回り 見合い 仲	
人 結納	
(2) 嫁迎えと祝言	2 1 1
祝言の時期 嫁迎え 出家式 嫁の荷物 入家	
式 盃事 無礼講 立ち茶	
(3) 後座敷と里帰り	2 1 9
後座敷 里帰り 仲人札 鉄漿 嫁の地位	
3 年 祝 い	
(1) 厄年と長寿の祝い	2 2 4
4 葬 送	
(1) 臨終と野辺送り	2 2 6
死 葬制 臨終 団子と飯 葬式組 弔いの沙	
汰 湯灌 通夜 野道具 香奠 焼香 穴掘り	
野辺送り 埋葬 忘中祓い	
(2) 忌明けと年回忌	2 4 7
死の穢れ 初七日 四十九日 新盆 年回忌	

## 第二章 経済生活

### 第一節 生業生産と労働慣行

概 説	2 5 8
1 農 業	
(1) 地主と小作	2 6 0
地主 小作人 小作契約 小作料	
(2) 土地利用	2 6 4
(3) 生産暦と農耕儀礼	2 6 5
(4) 稲作とその儀礼	2 6 5
蔵開き 鋤入れ 小豆粥 芝焼き 田勸 苗間	
作り 種籾 播種 苗間の管理 水口祭り 苗	
間の上肥 稲の品種 品種の作付割合 田植え	
前の施肥 田植えの準備 畔道づくり 水汲み	
田植えの代掻き 田植え 苗取り 苗回し イ	
ウイとウエッコ 稲の一株 植え方 マザキ苗	
田植えの食事 早苗振り 田の草取り 田植え	
後の追肥 稲刈り 稲の刈り束 カマッパライ	
ノロシかけ 田舟 稲掻き コキッパライ ボ	
ッチ 籾乾し カラスビキ カラスッパライ	
選別 俵詰め ムシロッパライ 貯蔵 精米	
種籾の保存	
(5) 畑 作	3 0 3
畑作物の変遷 麦作 雑穀 芋類 野菜類 工	
芸作物	
(6) 農閑作業	3 2 4
ヨナベ 藁製品作り 出稼ぎ	
(7) 農 具	3 2 8
農具 耕起具 除草具 土浚い 運搬具と牛馬	
揚排水用具 脱穀調整具	

(8) 肥 料	3 3 7
肥料 下肥 堆肥	
2 諸 職	
(1) 市の伝統的諸職	3 4 1
職人 低湿地の諸職 各地区の諸職 現在の諸職	
(2) 染色業	3 5 8
市域の染色業 長坂中型 注染 形場と染場	
形付師の生活 注染の形付職人の生活 還元建	
糸紺屋 紺屋町	
(3) 菓子製造業	3 8 1
菓子製造業 煎餅生地職 和菓子職 白玉業	
(4) その他の諸職	3 8 8
浮世絵版画師 竹細工職 理髪師 畳床職 今	
戸焼 焼瓦職	
(5) 職人の信仰と組合	3 9 7
講 太子講 愛染講	

### 第二節 交通と交易

概 説	4 0 5
1 交 通	
(1) 道 路	4 0 6
路 鎌倉街道 中世の古道 近世の道 公道	
道の俗称	
(2) 宿	4 1 4
宿 八條の宿 大原の宿	
(3) 橋	4 2 2
橋 架橋 板橋 石橋 橋に纏わる伝説	
(4) 運搬具と車両	4 2 7
運搬具 人力運搬具 車両運搬具 乗合馬車・	
自動車 運送業	
(5) 舟 運	4 3 0
川船の名称 渡し場 河岸 船大工 舟運業	
2 交 易	
(1) 市と他地区との交流	4 4 8
市 野菜の出荷と市場 買物圏 遊興圏	
(2) 行 商	4 5 6
行商の呼称 行商の種類	
(3) 店 舗	4 5 7
店舗の呼称 万屋 荒縄商い	

### 第三節 衣・食・住

概 説	4 6 6
1 衣生活	
(1) ふだん着	4 7 1
ふだん着 下着 野良着	
(2) 晴 着	4 7 7
晴着 余所行き 子供の祝着 祝言 葬式	
(3) 被物と履物	4 8 2
被物 蓑 履物 雨具	
(4) 衣服の管理・調達	4 8 7
(5) 化 粧	4 9 0
髪型 お歯黒	
2 食生活	
(1) 食 料	4 9 1
農産物の種類 穀類 根菜と蔬菜類 魚肉類	
(2) 食 制	4 9 4
食事の呼称と回数	
(3) 食品と調達	4 9 9
主食品と間食品 副食 保存食 携帯食 調味	
料 調理 餅 醃酵	
(4) 共同飲食	5 2 8
儀礼と食物 年中行事と食物 人の一生と食物	
本膳	
(5) 施設と食具	5 4 1
調理施設と道具 食事用具	
(6) 食物禁忌と食い合せ	5 4 5
3 住生活	
(1) 屋 敷	5 4 6
家の分布 屋敷 付属屋	
(2) 母屋の利用	5 5 4
母屋の位置と向き 部屋の呼称と利用 土間の	
呼称と利用 大原の浮塚の室呼称 屋根裏部屋	
証明と換気	
(3) 母屋の構造	5 6 1
八潮の民家の概形 平面形式 構造 寸法と材	



質 間取りの変遷 浜野昭氏住宅 和井田重男 氏住宅 石井明氏住宅 大山昇氏住宅 栗原由 一氏住宅 古姓敏男氏住宅 篠木正義氏住宅 豊田穰平氏住宅 朝田泰一氏住宅	5 9 3
(4) 建築儀礼	5 9 3
新築の計画 (建替えの理由 棟梁の決定 旧母 家の解体 ドモリ)	
建前以前 (ジマツリ ジンギョウ 建築材の加 工 木組み タテメエ 棟梁送り)	
建前以後 (屋根葺き・オグシイワイ 造作 屋 移り 新築祝い 家見念仏)	
母屋の修理 (屋根の葺き替え 小屋の取り替え 家の補修)	
家に関わる俗信 (俗信 方角に関する俗信 間 取りに関する俗信 その他の俗信)	
第三章 信仰生活	
第一節 神と信仰	
概 説	6 1 4
1 神社と信仰	
(1) 神社の諸相	6 1 6
鎮守社と諸社 小名の氏神 神社の起立 神社 建築	
(2) 神社の氏子組織・祭り組	6 2 5
(3) さまざまな祭り	6 2 9
祭り 弓ぶち 初午 蛇振り 獅子舞い 天王 祭と川祭り 収穫祭	
2 民間の神信仰	
(1) 屋内神	6 5 6
屋内の神々 大神宮 歳神と歳棚 荒神 恵比 須神 便所神 マブリ札	
(2) 屋敷神と同族神	6 6 1
屋敷神 地先祖 井戸神・水神 稲荷神 三峰神	
(3) さまざまな講	6 6 4
遠隔地の神社 伊勢講 大山講 古峰講 戸隠 講 榛名講 富士講 三峰講 雷電講	
(4) 石 祠	6 7 3
諸神 鳥居 手水鉢 狛犬	
第二節 仏教と信仰	
概 説	6 7 7
1 寺院と信仰	
(1) 寺院の変遷と諸相	6 7 8
市域の寺院 宗派別寺院分布 寺院の開創 寺 院の本末 寺院の統廃合 組寺 寺院建築 境 内・境外仏堂	
(2) 寺院と檀家	7 1 1
結檀 寺の惣代と世話人 檀家圈 複檀家 ラ ントウバ	
(3) さまざまな寺行事	7 2 7
年始の行事 節分・涅槃・大般若 彼岸 お釈 迦様と薬師様 盆 修験	
2 民間の仏教信仰	
(1) 諸仏の信仰と野仏	7 3 6
諸野仏 観音 地藏 不動 念仏 庚申 廻国 ・六十六部 観音霊場巡り 弘法大師 遠忌 名号・題目・真言 宝篋印塔 普請 道標 灯籠	
(2) さまざまな講	7 4 6
念仏講 月並み念仏 寺の念仏 ニッキ念仏 家具念仏 仏の念仏 念仏講の組織 百万遍 その他の講 巡礼・巡業	
第三節 民俗知識	
概 説	7 6 8
1 天候と気象	
(1) 自然現象による予知	7 7 1
天候 雲による予知 風による予知 光象・時 制による予知 方角による予知	
(2) 動植物による予知	7 8 0
(3) その他の予知	7 8 4
2 民間療法	
(1) 疾患と治療法	7 8 6
風邪と内臓疾患 神経性疾患 成人性疾患 皮 膚の疾患 外傷 眼病疾患 歯痛	
(2) 呪術的療法	7 9 9
神仏の加護 呪い	

(3) 薬物的療法	8 0 4
動物 植物 その他	
(4) 医 療	8 1 2
買薬 灸師 医師	
3 前兆予知	
(1) 吉凶・事変の予知	8 1 5
動植物 天候・気象 分布の状態 予知の多様 性 悪と不幸 善と幸運 時刻 予知の正当性	
(2) 人格・命運の予知	8 3 2
身体の各部 施毛と黒子	
第四節 年中行事	
1 暦と休み	8 4 1
2 正月の行事	
(1) 正月準備	8 4 2
煤掃き 門松迎え 注連飾り 歳棚 神膳 餅 搗き 歳の市 大晦日	
(2) 一 月	8 4 7
元旦 三箇日 年始まわり 南川崎の葉出し 仕事始め 四日 七草 蔵開き 鋤入れ 臼起 し めーだま餅 削り花 小豆粥 藪入り 弓 ぶち 二十日焦し 恵比須講 初卯 初辰	
3 春と夏の行事	8 5 2
(1) 二 月	8 5 3
二月正月 節分 初午 初巳 八日節供 天満 宮の祭礼	
(2) 三 月	8 5 5
雛祭り 氷川神社の祭礼 春の彼岸 大般若経 火渡り	
(3) 四 月	8 5 6
灌仏会 太子講 三峰講 観音講 蛇振り 苗 間作り 千地藏	
(4) 五 月	8 5 7
三峰様 菖蒲湯 五月節供 田植え	
(5) 六 月	8 5 8
早苗振り 辻切り	
(6) 七 月	8 5 9
浅間様 大瀬の獅子舞い 虫追い 百万遍 天 王様 二丁目の獅子舞い 祈祷獅子	
4 盆の行事	8 6 3
釜の口 高灯籠 盆棚詣り 七夕 墓掃除 盆 棚作り 迎え火 仏の遊ばせ 棚経 高野の施 餓鬼 送り火 施餓鬼 盂蘭盆	
5 秋と冬の行事	
(1) 九 月	8 7 0
八朔 十五夜 秋の彼岸	
(2) 十 月	8 7 1
十三夜 日待講と秋祭り 荒神 鎌碓い	
(3) 十一月	
大師講 西の日 恵比須講 荒神	
(4) 十二月	8 7 4
八日 針供養 韃祭り 冬至 大晦日	
第四章 言語生活	
第一節 民俗芸能	
概 説	8 8 2
1 芸 能	
(1) 競 技	8 8 4
競技 相撲 弓ぶち 自転車競争 草競馬 ゲ ートボール	
(2) 門付芸と諸芸	8 8 9
門付芸 太神楽 田舎芝居 祭り囃子	
2 民謡と万作	
(1) 民 謡	8 9 9
民謡 市域の民謡 祝い唄 祭り唄 行事唄 作業唄	
(2) 万 作	9 2 7
万作 呼称 分布 伝承方法 踊り場と組織 道具・衣裳 曲目 小念仏 歌詞と旋律	
3 念 仏	
(1) 念 仏	9 5 3
講員 楽器と法具	
(2) 月次念仏	9 5 4
(3) 串い念仏	9 5 8
(4) 家見念仏	9 6 3

(5) その他の念仏	9 6 8
第二節 伝説と昔話	
概 説	9 7 4
1 伝 説	
(1) 自然伝説	9 7 6
狐 貉 狸 河童 蛇	
(2) 歴史伝説	9 8 4
鶴ヶ曾根 馬場 若柳 こうてんぼう 浮塚	
鶴塚 三角山 とうかん台 釜場 関屋 八反	
野 二塚耕地 四軒屋耕地 御成道 蛇橋 行	
屋敷 白山店 喜内 鶴塚 新地 猪圪 鷹狩	
り 山王様の獅子頭 花又の獅子頭 二丁目の	
獅子 八幡神社の御輿 大瀬の半五郎	
(3) 信仰伝説	9 9 1
稲荷様 山王様 水神様 白尊様 白山様 権	
現様 伊勢野の神明様 松之木の観音様 小作	
田の不動様 大曾根の満蔵寺 普門院の弁天様	
福蔵院の大師様 はなかけ地藏 提灯お化け	
人魂 大男と小男 婆池 念仏橋	
2 昔 話	
(1) 完形昔話	9 9 7
桃太郎 子育て幽霊 狐女房 女房 まま子話	
弘法風呂 食わず女房	
(2) 派生昔話	9 9 9
尾長鳥の鳴き声 猿蟹合戦 菖蒲湯の由来 八	
百比丘尼	
第三節 童戯と童唄	
概 説	1 0 0 3
1 童 戯	
(1) 子供と童戯	1 0 0 6
(2) 子供の成長と童戯の種類	1 0 0 7
童戯の分類 口遊び 軒遊び 外遊び 辻技	
児童演技	
(3) 石拳と玩具	1 0 1 4
童戯と玩具 玩具を使わない童戯 石拳の歴史	
石拳の掛け声 玩具を使う童戯 手作りの玩具	
(4) 季節の変化と童戯の内容	1 0 2 2
季節と童戯 春の童戯 夏の童戯 秋の童戯	
冬の童戯 草花童戯	
2 童 唄	
(1) 市域の童唄	1 0 4 0
(2) 遊戯唄	1 0 4 1
手毬唄 ナッコ唄 細螺唄 羽根突き唄 縄と	
び唄 輪遊び唄 鬼遊び唄 子取り遊び唄 関	
所遊び唄 物真似遊び唄 押合い唄 手合せ唄	
手・指遊び唄 顔遊び唄 呪い唄 絵かき唄	
(3) 子守唄	1 0 7 1
眠らせ唄 守っ子唄 遊ばせ唄	
(4) 天体・気象の唄	1 0 7 4
(5) 動植物の唄	1 0 7 6
第四節 方 言	
概 説	1 0 8 0
1 八潮市の方言調査小史	1 0 8 2
2 八潮市方言の特徴	1 0 8 4
(1) 音 韻 (母音・子音)	1 0 8 4
(2) 分 法	1 0 8 6
動詞 形容詞 助動詞 助詞	
(3) アクセント	1 0 9 3
二音節名詞 三音節名詞	
3 八潮市方言の分布	1 0 9 8
すりばち いなずま・いなびかり かまきり	
おてだま つらら まゆげ	
・生活年表	
・索引	
・『八潮市史 民俗編』執筆者	
・八潮の民俗調査協力者氏名	
・あとがき	
・八潮市史編さん関係者氏名	

昭和60年9月30日発行  
八潮市役所

050『吉田町史』  
昭和57年3月

目 次 (抜粋)	
三 文化財と行事	9 7 0
1 文化財	9 7 0
2 民俗と年中行事	
(1) 年中行事	9 8 0
(2) 祭りと信仰	1 0 6 4
吉田町史年表	1 1 0 5
町史編纂関係者名簿	1 1 4 3
あとがき	1 1 4 4
昭和57年3月31日発行 吉田町	
051『与野市史』民俗編	
昭和55年3月	
目 次	
一 総 観	1
二 社会生活	
(一) 町村合併	1 7
(二) 村内・町内の区分	1 9
(1) 字	
(2) 上と下	
(三) 近隣組織	2 1
(1) クミ	
(2) 近所	
(3) 隣組	
(四) 共同作業	2 4
(1) モヤイ仕事	
(2) 火の番	
(五) 地主小作関係	2 7
(六) 年齢集団	
(1) 青年会と青年団	
(2) ワカイン	2 9
(3) 子供の集まり	3 3
三 生産・盛業	
(一) 概 況	3 7
(二) 水田耕作	3 8
(1) 摘田の概要	4 0
(2) 栽培技術	4 1
(三) 畑 作	
(1) 麦栽培	5 2
(2) 甘藷栽培	6 0
(四) 養 蚕	
(1) 掃立て	6 5
(2) 育 成	6 6
(3) 上 簇	6 7
(五) 農耕儀礼	
(1) 予祝儀礼	6 9
(2) 田植え・田摘みの儀礼	7 1
(3) 収穫儀礼	7 2
四 交通・交易	
(一) 与野の市	
(1) 市の歴史と概要	7 3
(2) 穀 市	7 6
(3) 暮れの市	8 0
(4) その他の市	
(5) 市神様	8 4
(二) 消費生活	
(1) 自給の品	8 5
(2) 商店と職人	8 7
(3) 行 商	9 3
(三) 道路と道普請	9 5
(四) 運 搬	
(1) 運搬具	1 0 4
(2) 運送業者	1 0 7
(五) 商店と奉公人	1 1 0
五 衣・食・住	
(一) 服 飾	
(1) 衣 料	1 1 3
(2) 服 物	1 1 4
(3) 服 装	1 2 5
(4) 結 髪	1 2 9
(5) 洗 濯	1 3 0
(二) 食 事	

(1) 主食	1 3 2
(2) 粉食	1 3 4
(3) 副食	1 3 6
(4) 漬物と干物	1 3 8
(5) 間食品	
(6) 調味料	1 3 9
(7) 嗜好品	
(8) 弁当	1 4 2
(9) 毎日の食事	1 4 3
(10) 祝儀・不祝儀・物日の食事	1 4 5
(三) 住居	
(1) 屋敷構え	1 4 9
(2) 母屋の間取りと使い方	1 5 5
(3) 建築工程と儀礼	1 7 1
六 信仰	1 7 6
(一) 村の神	
(1) 大戸・氷川神社	1 7 8
(2) 八王子・浅間神社	1 8 1
(3) 上落合・神明社	1 8 3
(二) 屋敷内の神	
(1) 屋敷神	1 8 5
(2) 井戸神・便所神	1 8 9
(三) 家内の神	
(1) 神棚(大神宮様)	1 9 0
(2) 荒神	1 9 2
(四) 講集団	
(1) 村の講	1 9 5
(2) 代参講	2 0 1
(五) 信仰の諸相	2 0 6
(1) 大戸のオヒジリサマ	2 0 7
(2) 本町の市神	2 0 8
(3) 円阿弥の雷神信仰とフセギ	2 0 9
(4) サイモンヨミ	2 1 0
(5) 馬頭観音・薬師・カナヤマサマ	2 1 1
七 人生儀礼	
(一) 誕生まで	
(1) 帯祝い	2 1 3
(2) 妊娠中の禁忌	
(3) 産婆	
(4) 出産・214	
(5) 出産後の忌	2 1 5
(6) 産婦の食事	2 1 6
(二) 生児儀礼	
(1) お七夜	2 1 6
(2) 宮参り	2 1 7
(3) 孫抱き	
(4) お食い初め	2 1 8
(5) 初節供	
(6) 帯解き	2 1 9
(三) 婚姻と婚礼	
(1) 自由恋愛と見合い	2 2 0
(2) 通婚圏と縁組の良し悪し	2 2 0
(3) 仲人	2 2 1
(4) 結納	2 2 2
(5) 道具送り	
(6) 出祝儀	2 2 4
(7) 本祝儀	2 2 6
(8) 里帰り	
(9) 村回り	2 2 9
(10) 足入れ	2 3 0
(四) 厄年	2 3 0
(五) 葬送	2 3 0
(1) 死にづかい	
(2) トコトリ	
(3) 北枕	2 3 1
(4) 湯灌と納棺	2 3 2
(5) 祭壇	
(6) 通夜	2 3 3
(7) 出棺	2 3 4
(8) 葬列	2 3 5
(9) 埋葬	
(10) 墓地	2 3 8
(11) 忌中・忌明け	2 3 9

(12) 新盆	
(13) 年忌	2 4 1
(14) 川施餓鬼	
(15) 産褥の死	2 4 1
(16) その他の習俗	2 4 2
八 年中行事	
(一) 正月の準備	
(1) すす払い	
(2) 餅つき	2 4 4
(3) 松飾り・注連飾り	2 4 5
(4) 大晦日	2 4 6
(二) 正月の行事	
(1) 大正月	2 4 7
(2) 大盤振舞い	
(3) 仕事始め	2 5 2
(4) 七夕	
(5) 蔵開き	2 5 3
(6) 小正月	2 5 4
(三) 春から夏の行事	
(1) 恵比須講	2 5 7
(2) 節分	2 5 9
(3) 八日節供	2 6 2
(4) 妙行寺金比羅堂のダルマ市	2 6 2
(5) 上寺の観音様	
(6) 初午	2 6 4
(7) 春彼岸	
(8) 雛祭り	
(9) 灌仏会	2 6 5
(10) 男の節供	
(11) 天王様の祭り	2 6 6
(12) 与野の夏祭り	2 6 7
(四) 盆の行事	
(1) 七夕	2 7 1
(2) 盆	2 7 6
(五) 秋から冬の行事	
(1) 十五夜	2 8 5
(2) 十三夜と日待ち	2 8 6
(3) 十日夜	2 8 7
(4) 恵比須講	2 8 8
(5) 大師様とカビタリ	
(6) 冬至	2 8 8
九 芸能	
(一) 円阿弥の万作	2 9 1
(1) 由来・伝承	2 9 2
(2) 万作を上演する時期	2 9 6
(3) 役割・組織	2 9 8
(4) 場所・施設	3 0 4
(5) 万作道具	3 0 6
(6) 演目	3 1 6
(7) 万作の台本	3 2 0
(二) 大戸の神楽	
(1) 由来・伝承	3 4 7
(2) 奉納時期と場所	3 5 2
(3) 曲目	3 5 4
(4) 舞の基本型	3 5 8
(5) 神楽・面・採物・服装	3 5 9
(6) 神楽の筋書き	3 6 7
(7) 神楽と面芝居	3 8 6
(三) 祭りばやし	
(1) 大戸の祭りばやし	3 9 3
(2) 麗和会はやし連	3 9 5
十 伝説・昔話	
(1) 疫神にとりつかれて死んだ少女	3 9 8
(2) 二度栗山と弘法大師	4 0 0
(3) 源頼義の奥州征伐と笠守さま	4 0 2
(4) 与野の大カヤと金比羅天	4 0 5
(5) 黄金塚	
(6) 鷹狩りと弓の名人	4 0 7
(7) 長伝寺の水飲み竜	4 0 9
(8) おしどり寺	4 1 5
(9) お化け地藏	4 1 7
(10) 鮮血に染まった送り地藏	4 2 0
(11) 夜泣き直しのお稲荷さま	4 2 2

(12) 諏訪坂の一つ目大入道	4 2 4
(13) 傘松	4 2 7
(14) 災難を知らせた長伝寺の普光観智国師像	4 2
8	
(15) 普門院のいたずら禅師画像	4 3 2
(16) 天狗隠し	4 3 4
(17) あみだ様とへび	4 3 5
(18) ご神木のたたり	4 3 8
(19) 猫橋のいわれ	4 4 0
(20) 海中から出現した釈迦来像	4 4 3
十一 歌謡	4 4 5
十二 方言	4 5 5
あとがき	4 7 7
伝承者・調査先一覧	4 7 8
執筆分担	4 8 0
市史編さん関係者名簿	4 8 1
昭和55年3月31日発行	
与野市長 白鳥 三郎	

052『寄居町の民俗』町史編纂調査報告第八集

昭和57年3月

目次	
民俗調査にあたって	1
第一章 村の民俗	
一 衣食住	3
1 衣	
(1) 織	3
(2) 服装	
(3) 通過儀礼と衣装	4
2 食	
(1) 日常の食事	5
(2) 通過儀礼と食事	
(3) 年中行事と食事・7	
3 住	
(1) 屋根構え	9
(2) 母屋と生活	10
(3) 建築儀礼	15
(4) 屋根葺き	16
二 年中行事	(割愛) 17
三 人の人生	
1 出産	17
2 生児儀礼	19
3 葬送	21
四 生産・生業	
1 稲作	27
畑作	
(1) 麦作	29
(2) さまざまな畑作物	31
3 養蚕	33
4 山仕事	37
5 生産・生業用具	38
6 山居の紙漉き	
(1) 紙の種類	
(2) 紙屋の生活	54
(3) 原料と処理	55
(4) 紙漉きの工程	56
(5) 出荷	58
(6) 紙漉きと新井家	59
(7) カシキ屋	60
(8) 紙漉きの家と用具	62
五 社会生活	
1 村の内部構成	73
2 村の役職	
3 講	75
4 共有財産・共同労働等	76
5 互助慣行	
6 氏子組織・寺檀組織	77
7 家族	78
8 親族	80
六 信仰	
1 神社	81
2 その他の神や仏たち	82
3 祭り	83

4 講	84
5 釜山神社	
(1) 釜伏峠への道	86
(2) いにしへの釜伏峠	87
(3) 釜山神社の成立まで	88
(4) 釜山神社の祭りと行事	90
(5) 釜伏の神楽	92
第二章 町場の民俗	94
一 町並と商家	
1 町並とその変遷	
(1) 明治のころの町並	94
(2) 町の地割り	95
(3) 明治35年の町並と現在との比較	96
(4) 町の通り	100
(5) 明治時代の絵図にみる商店今昔	101
2 商家	
(1) 商家の間取り	102
(2) 「幡知屋」と「十一屋」	104
3 町のうつり変わり	108
二 商人のくらし	
1 店と行商	109
2 商家の民具と暮らし	113
3 商人の信仰	115
三 職人のくらし	116
1 大工	117
2 石屋	118
3 鍛冶屋	119
4 籠屋	120
四 祭りと信仰	
1 祭り	121
2 市と市神	126
3 祠堂と石仏	127
4 屋敷神	133
5 講	135
(1) 遠隔地信仰	135
(2) 職人の講	137
(3) 地縁的講	
(4) 現代の講	138
6 俗信	138
第三章 川と生活	
一 荒川の筏流し	140
1 折原村の筏継宿黒瀬家	141
2 黒瀬平八郎氏よりの聞き書き	141
二 荒川の渡し場	146
三 川の習俗	
1 荒川の水車	148
2 沢と井戸	152
3 水と信仰	154
四 漁撈	
1 荒川の漁撈	
(1) 前期における状況	155
(2) 中期の状況	
(3) 後期の状況	160
(4) 特記事項	161
2 鵜飼	
3 沼と沢の漁法	163
編集後記	165
昭和57年3月30日発行	
寄居町教育委員会	
053『年中行事』 りょうがみ双書 1	
昭和61年3月	
目次	
正月の準備	1
正月	8
七草	14
カダテ(鍛立て)・蔵開き	16
小正月	22
山の神	42
恵比須講	44
天神様・天神待	46
節分	54
初午	58

針 供 養	5 9
彼 岸	6 2
雛 祭 り	6 6
八十八夜	7 6
端午の節供	7 9
花 祭 り	8 6
六月一日の行事	8 9
初寅の日	9 2
土用丑の日	9 4
天 王 様	9 6
農 休 み	1 0 5
釜の口あき	1 0 8
七 夕	1 1 0
盆 行 事	1 1 2
八朔の節供	1 2 6
十 五 夜	1 2 8
十 三 夜	1 3 1
おくち(長陽節)	1 3 2
とうかんや(十日夜)	1 3 7
川っ浸り餅	1 4 6
冬 至	1 4 8

昭和61年3月30日発行  
両神村役場

『祭りと芸能』 りょうかみ双書2

63年2月

目 次	
法養寺薬師尊の縁日	1
下大胡桃の虚空蔵様	5
山田大久保の道陸神焼き	8
常木の念仏	1 6
沼里の馬頭観音様	1 8
川塩の馬頭観音様	2 2
出原の天気占い	2 6
常木駒形神明の祭礼	3 4
浦島の念仏	3 8
下和田の春祭りと天王様	4 3
小沢口のお天狗様	4 6
柏沢太々神楽	5 0
加明地の金比羅様	6 0
乳不動尊の縁日	6 3
煤川の獅子舞	6 6
両神山の開山式(山開き)	7 2
両神神社の大祭	8 0
二夜様(廿二夜様)・産泰様	8 6
塩沢の稲荷様(宇賀神社)の祭り	9 1
金剛院のお祭り	9 6
加明地の天王焼き	1 0 0
間庭の甘酒祭り	1 0 4
雨ごい	1 1 0
大塩野の天王様	1 1 7
西平の天王様(ネジ作り)	1 2 1
柏沢のちんじんめえり	1 2 5
竹平の獅子舞	1 3 6
御霊神社の奉納歌舞伎	1 4 9
御霊神社大祭	1 5 6
小森のお諏訪様	1 6 1
ふるさとまつり	1 6 5
ぜんき様(前鬼様)	1 7 1

昭和63年2月22日発行  
両神村役場

『両神山』 りょうかみ双書3

平成2年1月

目 次	
はじめに	7
第一章 自 然	
一 位置と範囲	1 0
二 地 質	1 2
三 地 形(山系/水系)	1 5
四 気 候(気候/降水量/積雪)	1 8
五 生 物(動物/植物)	2 1
第二章 登山道と地名	

一 登山道	2 8
表口・日向大谷コース・浦島コース・七滝沢コース 北口・尾の内沢コース・八丁峠コース/南口 ・白井差コース・石舟沢コース・梵天尾根コース /西口・落合橋コース/その他のコース	
二 地 名	4 8
『新編武蔵風土記稿』の地名/尾根・ピーク/岩 ・穴/峠・鞍部/平・坂/窪・堀/湧水/滝/他	
第三章 山岳信仰	5 8
原始・古代/修験のおこり/龍頭神社の縁起/中 世/近世・観蔵院・金剛院・三峰山観音院の影響 ・龍頭神社/近代・現代	
一 両神神社(観蔵院)	7 5
当山派の修験寺院・観蔵院/本山との関係/観蔵 院(鈴木家)文書/御眷属信仰/観蔵院の修験僧 /講の活動/最後の修験者/八日見神社の眷属貸 出/両神神社の奉納額	
二 御嶽神社(金剛院)	9 4
金剛院と本山派修験/聖護院御教書および金剛院 過去帳/御岳山開關記/金剛院・観蔵院議定書/ 登山道/神仏分離/講中/修験者の行と祈祷/年 中行事・その他	
三 龍頭神社	1 0 8
八日見山の由来/神社縁起/祭り/山開き/氏子 ・講中/信仰/神職・高野家/奉納物/禁忌	
四 石神・石仏・石碑	1 2 0
第四章 伝説と登山史	
一 伝 説	1 4 6
弘法様/ジンペンサマ(神変様)/景行天皇と日 本武尊/ヤマイヌ(山犬)/一位ケタワの由来/ 天狗の話/腰越の滝の主/地藏様のたたり/武田 氏の金山開発/甲源一刀流	
二 登山史	1 5 8
平賀源内/牧野富太郎/鮫島重男/徳川義親/岡 松生/原全教/皇太子殿下/第2回埼玉国体	
第五章 民間知識	
一 民間医療	1 7 0
二 予 兆	
三 禁 忌	1 7 1
第六章 御巢鷹山と秩父日記	
一 両神山の御巢鷹山	1 7 4
山中家文書と御巢鷹山/御巢鷹山「出北・丸山」 /日向大谷の鷹見衆/鷹の巣懸けと巣卸し/御鷹 上納/境目争論/御巢鷹山の場所替え	
二 秩父日記と両神山	1 8 1
旅程/両神山の図/文中の両神山と薄村	

平成2年1月8日発行  
両神村役場

『昔がたり』 りょうかみ双書4

平成3年3月

目 次	
[寺・神社と信仰の話]	
1 小沢口の念仏橋	1
2 田んばかきをした虚空蔵様	3
3 御霊神社と鍛冶屋	7
4 長又傘松地藏	9
5 丹生様と犬	1 2
6 竹内いしの話	1 4
7 おいし地藏	1 8
8 大円寺と赤いフクジュソウ	2 1
9 大円寺は秩父三円寺の一つ	2 4
10 善光寺と悪人	2 6
11 串脇の山王様	2 9
12 魚を取り返した山の神	3 1
13 宝泉寺に奉納された木鉢	3 3
14 熱田神社の大杉	3 5
15 秋葉神社の獅子舞	3 7
16 六葉の六地藏	3 9
17 大堤のお諏訪様と四阿屋山の天狗様	4 1
18 中尾の薬師様と目薬	4 3
19 病気とまじない	4 6
[四阿屋山の話]	

20	弘法の井戸	4 8
21	弘法様と山居の娘	5 2
22	弘法様とキンタマイモ	5 6
23	弘法様が山居で彫った仏像	5 9
24	山居を逃げた薬師様と地名	6 1
25	四阿屋山のヤマンバ	6 3
26	市蔵と四阿屋山のまもの	6 6
27	柏沢の秋祭りとお天狗様	6 9
28	四阿屋山の大力ワウソ	7 2
[キツネとオオカミの話]		
29	黒海土の獵師とキツネ	7 4
30	キツネにつかれた黒海土の男	7 6
31	延命寺のオオカミ	7 8
32	音明山のキツネ	8 0
33	四阿屋山の白キツネ	8 3
34	樫の木峠のキツネ火	8 7
35	キツネったかりとオオサキったかり	8 9
36	キツネつきとまんじゅう売り	9 2
[武将と落人の話]		
37	小沢口の小沢左近	9 6
38	信玄のかくし湯	9 9
39	五合峠(権五郎峠)で死んだ馬	1 0 1
40	穴部と將軍地藏	1 0 3
41	多比良將監とイノシシ	1 0 5
42	藤指の楠氏	1 0 8
43	道明塚	1 1 0
44	川塩に土着した猪俣氏	1 1 3
[オバケと不思議な話]		
45	子供たちがつかまえた人魂	1 1 6
46	場違戸のオバケ	1 1 8
47	出原のこうせんまんじゅうと大蛇	1 2 3
48	食わず女房	1 2 5
49	薬師堂の白へび	1 2 7
50	神出の巳の宮様	1 3 0
51	西沢の小豆よなげと薬罐ころがし	1 3 2
52	川塩のオバタケ	1 3 4
54	度胸のいい男	1 3 8
55	親不孝な娘と赤い鳥	1 4 1
56	カアキツ	1 4 3
[人にまつわる話]		
57	栄太郎さんと岩楚里道	1 4 5
58	塩沢の力士・山砲山	1 4 8
59	加明寺の孝子・豊五郎	1 5 0
60	正禅という旅の僧	1 5 2
61	桜本のえみや(延命屋)	1 5 5
[地名等の話]		
62	小沢口の米高石	1 5 7
63	黒海土河原のババァ淵	1 5 9
64	美女ヶ平の由来	1 6 1
65	浦島太郎の話	1 6 4
66	若森座と一二間の舞台	1 6 7
[騒動の話]		
67	出原のケヤキ騒動	1 6 8
68	野沢騒動	1 7 0
[自然現象に関する話]		
69	煤川の山津波	1 7 2
70	飢きんと白井指のカヤの木	1 7 4
[昔話]		
71	コブ取りじじいの話	1 7 6
72	花咲かじじい	1 7 9
73	サルの嫁	1 8 2
74	猿蟹合戦	1 8 4
75	カチカチ山	1 8 6
76	舌切りスズメ	1 8 8

平成3年3月1日発行  
両神村役場

**054 『和光市史』 民俗編**  
昭和58年3月  
目次  
第一編 生活と地域  
第一章 家  
第一節 屋敷と家

1	家の姿	1
2	屋敷構えと付属屋	1 0
3	間取り	2 1
4	商家と旅籠	3 5
5	建築儀礼	3 7
第二節 家と家族		
1	家族構成	4 1
2	家族の展開	4 8
3	相続と継承	5 5
4	養子と婿養子	6 5
第三節 家族生活と居住空間		
1	家族の役割	6 8
2	農作業と住生活	7 5
3	食事・だんらん・就寝と住生活	8 1
4	日常と非日常の住生活	8 8
第四節 親族と交際		
1	親族の範囲と名称	9 3
2	本家と分家	1 0 0
3	親類と交際の諸相	1 1 7
4	親族名称と呼称	1 3 7
第二章 村		
第一節 村の姿		
1	集落と村	1 4 1
2	村の領域	1 4 6
第二節 村の組織と運営		
1	村と村人	1 5 2
2	村の仕組み	1 6 1
3	村の共有と共同	1 6 9
4	子供と青年	1 7 7
第三節 近隣組織と生活互助		
1	村組	1 8 6
2	近隣組	1 9 2
3	両隣と近所	1 9 7
第四節 水田と水		
1	水田と稲作	2 0 2
2	水田の灌漑	2 1 0
第五節 畑と林		
1	畑と畑作	2 2 9
2	山の利用	2 3 7
3	川と生活	2 3 9
第三章 町と世間		
第一節 道と街道		
1	生活の中の道路	2 4 3
2	道と世間	2 4 8
第二節 村を訪れる人々		
1	旅芸人と旅の宗教者	2 5 9
2	行商人と職人の活動	2 6 2
第三節 白子宿と新倉河岸		
1	白子宿	2 6 5
2	新倉河岸	2 7 4
第四節 江戸・東京との交流		
1	野菜の出荷	2 8 0
2	肥料の入手	2 8 6
3	白子囃子	2 8 9
4	白子丸瀧講	2 9 2
5	近隣町村との交流	2 9 4
第五節 旅の世界		
1	代参の旅	2 9 6
2	遠隔地の寺社めぐり	3 0 2
3	入湯道中	3 1 3
第二編 生活と時間		
第一章 一日の生活		
第一節 農家の朝		
1	一日のはじまり	3 1 5
2	主食と副食	3 1 5
3	家族たちの朝	3 2 1
4	食事とその後	3 2 1
第二節 のら仕事と茶受け		
1	仕事用の着物	3 2 4
2	畑での作業	3 2 7
3	茶うけ	3 3 2
第三節 昼食と午後の生活		
1	昼の食事	3 3 6

2	午後の仕事	3 3 7
3	仕事の上がり	3 3 8
第四節	夕食と夜の仕事・夜の時間	
1	夕 食	3 4 1
2	夜なべ仕事	3 4 8
3	夜の時間	3 4 9
第五節	機織り・染め物・裁縫	
1	機織り	3 5 3
2	染め物	3 5 4
3	裁 縫	3 5 5
第六節	商人の一日	3 5 6
第二章	一年の生活	
第一節	年中行事と暦	
1	ハレとケ	3 6 8
2	暦	3 6 9
第二節	正月の生活	
1	正月の準備	3 7 2
2	大正月の行事	3 8 1
3	小正月の行事	3 8 6
第三節	春から夏の生活	
1	節分から彼岸まで	3 8 9
2	種子まきまでの農作業	3 9 6
3	花祭りから五月節供まで	3 9 7
4	田植と麦刈り	3 9 9
第四節	盆の生活	
1	盆供と七夕	4 0 2
2	盆の行事	4 0 3
第五節	秋から冬の生活	
1	八朔から亥の子まで	4 0 8
2	麦まきと稲刈り	4 1 0
3	荒神様から冬至まで	4 1 3
第三章	人の一生	
第一節	婚 姻	
1	見合いと結納	4 1 8
2	嫁迎えと御祝儀	4 2 8
3	後座敷と里帰り	4 4 0
第二節	出 産	
1	妊娠と帯祝い	4 4 4
2	産褥と里からの見舞い	4 5 5
第三節	子供の成長	
1	育児と成長	4 6 6
2	遊びとしつけ	4 8 7
第四節	年祝い	
1	厄年と長寿の祝い	5 0 2
第五節	葬 送	
1	臨終と野辺送り	5 0 5
2	忌明けと年回忌	5 2 5
第三編	生活と心意	
第一章	家と神仏	
第一節	家の神々	
1	屋内の神々	5 3 3
2	屋敷の神々	5 4 9
第二節	先祖と仏	
1	仏壇と墓地	5 6 4
2	家と家例	5 7 7
第二小	村と神仏	
第一節	村の小祠	
1	小祠の特色	5 8 1
2	水の信仰と小祠	5 8 3
3	地藏の信仰と小祠	5 8 8
4	稲荷の信仰と小祠	5 9 0
5	代参と小祠	5 9 3
第二節	講と代参	
1	講の特色	5 9 6
2	念仏講	5 9 7
3	題目講	6 0 1
4	連経講(観音経)	6 0 2
5	庚申講	6 0 5
6	代参講	6 1 1
7	富士講	6 1 2
8	武州御嶽講	6 1 9
9	大山講と榛名講	6 2 2
10	木曾御嶽講	6 2 5

第三節	吹上観音	
1	縁 起	6 2 6
2	開張と市・嫁市	6 3 1
3	吹上観音の霊験と信仰	6 3 5
4	ささら獅子舞	6 3 7
第四節	神社とその祭祀	
1	市内の神社	6 4 8
2	氏神祭祀と人々の信仰生活	6 6 0
第五節	寺院とその機能	
1	新倉の寺院	6 6 7
2	下新倉の寺院	6 7 1
3	白子の寺院	6 7 9
4	寺とその種類	6 8 8
5	寺とその縁起	6 9 2
第六節	俗 信	
1	俗信とは	7 0 0
2	予 兆	7 0 2
3	ト 占	7 0 3
4	禁 忌	7 0 4
5	呪 術	7 0 8
6	民間療法	7 0 9
第三章	伝説と昔話	
第一節	伝 説	7 1 1
第二節	川越地方昔話集の世界	
1	『川越地方昔話集』	7 3 0
2	市域の昔話	7 3 2
付録	石塔・石仏	
	和光の石塔・石仏	7 4 1
一	庚申塔	7 5 3
二	地藏菩薩	7 7 9
三	馬頭観世音	7 9 2
四	念仏・日待・月待供養塔	8 0 3
五	各種供養塔	8 0 7
六	富士講碑	8 2 1

あとがき  
執筆分担一覧・調査参加者氏名  
市史編さん関係者氏名  
和光市全図  
昭和58年3月30日発行  
和光市

### 055『蕨市史』 民俗編

平成6年2月

#### 目 次

#### 第一章 社会構成

第一節	蕨市の生活環境	
1	歴史的概況	3
	旧蕨宿と塚越村 生業と人口の変遷	
2	地理的概況	9
	地形と集落の立地 近・現代における生業の変遷 災害史 字名と地域名	
第二節	ムラのつきあい・マチのつきあい	2 1
1	近隣集団	2 2
	いわゆる村入り 共同体の運営 共同作業・労力交換・休み日 クミアイのつきあい	
2	諸集団	3 0
	若衆の組織 青年団・処女会 消防団 無尽講 ムラとマチの交流	
第三節	ムラからマチへ	
1	新しいマチの形成	4 0
	新しいマチの形成と都市化による地域生活の再編 伝統的地域の変化	
2	町内会の結成	4 4
3	マチづくりと行政	4 9
	町内会の活動 市民葬	
第四節	家族と親族	
1	家族の生活	5 4
	家族構成 家の経済的基盤 家族員の名称・呼称 家族員の地位 家族員の役割分担 奉公人 イエ観念	
2	家の継承と分出	6 2
	相続 両養子 分家 隠居 奉公人の分出 廃絶家再興 徴兵逃れの分家・婿入り	

3	親族慣行……………	6 7
	イッケ ミウチとシムルイ 地所親類	
4	仮親慣行……………	7 2
第二章 人生儀礼		
第一節 産 育		
1	妊 娠……………	7 7
	妊娠 帯祝い 妊娠中の禁忌・俗信 安産祈願	
2	出 産……………	8 2
	出産の場所・方法 胎盤と産湯の始末 夫の役割 産婦の死 出産後の生活の俗信 産婆	
3	誕生儀礼……………	8 9
	産立て飯 ミツメ お七夜 命名 お宮参り 食い初め 初正月・初節供 誕生祝い 誕生と俗信	
4	成長祝いと民間療法……………	9 8
	七五三(帯解き) 三歳・五歳・七歳の祝い 引き摺り餅 成人の祝い 子育ての俗信・民間療法	
5	社会事情と産育……………	1 0 5
	伝染病の流行 乳幼児保護 母子衛生 妊産婦保護	
第二節 婚姻習俗		
1	配偶者の選択……………	1 1 4
	夜遊びと男女交際 配偶者の選択 結婚年齢 通婚圏 仲人 見合い 結納	
2	ご祝儀……………	1 1 9
	祝儀の時期と日取り 嫁入り道具の送り 新客立ち振る舞い 嫁入り行列 中宿 入家式 盃事 披露宴 高盛り 近所披露	
3	婚姻後の嫁の生活……………	1 2 4
	元服 ミツメ 髪洗い 新客 里帰り 嫁の生活	
4	婚姻の諸相……………	1 2 5
	入り婿 足入れ 近親婚ほか 離婚・再婚	
第三節 葬送儀礼		
1	死から通夜の前まで……………	1 2 7
	総称 死の前兆 助命・延命の祈願 臨終 理想的な死 死の忌み 枕返し 死の知らせ 団子と枕飯 葬儀の準備と手伝い 悔やみと帳場 弔いの日取り 死に使い 早桶 七本仏ほか 野道具 掛け無垢ほか 床番 穴掘り	
2	湯灌から埋葬まで……………	1 3 5
	湯灌 死に装束 納棺 通夜 弔い 出棺 庭 弔い 野辺の送り 喪服 埋葬 清め 本膳 念仏	
3	供養・年忌ほか……………	1 3 9
	四十九日までの供養 四十九日 位牌 形見分け 百か日 年忌 新盆 彼岸 墓地 特殊な死 弔いの変化	
第三章 生 業		
第一節 農 業		
1	市域の農業とその推移……………	1 4 7
	史料にみる蕨の農業 市域の農業の現状	
2	耕地と土地利用……………	1 5 2
	耕地と土質 ノガタとサト	
3	稲作と畑作……………	
	(1) 用水(水争い)…………… 1 5 6	
	(2) 稲 作…………… 1 5 9	
	田の耕作 播種 田植え 田の管理 雨乞い 収穫・脱穀・調整など	
	(3) ハス・クワイ…………… 1 6 7	
	(4) 畑 作…………… 1 6 9	
	市域の畑作 畑作物の変遷 麦作 畑の農具	
4	その他の仕事……………	
	(1) 養 蚕など(養蚕 木綿)…………… 1 7 2	
	(2) パイスケ作り…………… 1 7 4	
	パイスケの伝来 材料 製品 制作 職人・経営 信仰と年中行事	
第二節 機物業		
1	機物業の変遷……………	1 8 2
2	織物の生産流通組織……………	1 8 5
3	蕨の機物業と他地域との関係……………	1 8 7
4	機織りの用具・糸など……………	1 8 9
	(1) 用 具……………	

	フワリ(符割) ザクリ(座繰り) コワク(小杵) ヘダイ(経台) メハジキ(溜眼) 整経機 マキボウ(巻き棒) アラオサ(粗箒・荒箒) ハタクサ マキダイ アヤ アヤトウシ(綾通し) オサ(箒) オサトオシ(箒通し) チマキ(千巻き) クダ(管) クダマキキ(管巻き器) 高機 ナゲビ(投げ杼) バッタン マキイタ(巻き板)	
(2)	糸……………	1 9 2
5	機織り……………	1 9 3
6	機屋のくらし……………	
	(1) 機家の一日(朝 昼 おやつ 夜)…………… 1 9 9	
	(2) 機屋の人々の仕事と暮らし…………… 2 0 1	
	だんなの仕事 おかみさんの仕事 子供の仕事 女工の仕事とくらし おさんどんの仕事 男工の仕事 作男の仕事	
	(3) 機屋の休日…………… 2 0 9	
	(4) 機屋の衣・食・住…………… 2 1 1	
	(5) 機屋の信仰…………… 2 1 4	
7	蕨町で生産された織物…………… 2 1 5	
	双子織 綿縮 綿紹 黒八 帯地	
8	織物の流通……………	
	(1) 買継の仕事…………… 2 1 8	
	市日の仕事 市間の仕事	
	(2) 買継屋の人々の仕事とくらし…………… 2 2 2	
	だんなの仕事 おかみさんの仕事 跡継ぎの仕事 小僧・番頭の仕事 女中の仕事 買継の服装	
第三節 染色業…………… 2 2 5		
1	藍染めの用具・原料など…………… 2 2 6	
	用具 アイダマ(藍玉) 石灰と洗いソーダ インジコ・ピーア スマ スクモ 藁縄	
2	藍による糸染め……………	
	(1) 日本藍だけの藍建て…………… 2 2 7	
	(2) 日本藍とインジコ・ピーアヲを使う藍建て…………… 2 2 9	
	(3) 藍の液の管理…………… 2 2 9	
	(4) 糸染め…………… 2 3 0	
3	紺屋の人々の仕事とくらし…………… 2 3 2	
	主人の仕事 おかみさんの仕事 子供の仕事 小僧の仕事 紺屋の職人 渡り職人 紺屋の信仰	
4	染工場の仕事…………… 2 3 3	
	用具 染料 染め方	
第四節 織物関連業…………… 2 3 7		
1	機道具屋……………	
	高機 足踏み織機 バッタン 矢羽根の道具 ヨロケの箒 座繰り 箒屋 ツムカジャ 綾糸屋 撚り糸屋 管屋 紋切り屋	
2	糸 屋…………… 2 4 2	
	市日の土ごと 市間の土ごと 毎日の仕事 初市の日の仕事 取り扱った糸の種類 取引のあった機屋	
3	そのほかの関連業…………… 2 4 4	
	整理屋 クケヤ 染料屋 運送屋 お針さん 桂庵	
第五節 交通・交易…………… 2 4 8		
1	道 路…………… 2 4 8	
	鎌倉街道 もとの中山道 中山道 文蔵道 早瀬道 美女木道 新曾道 主要地 方道朝霞蕨線 停車場道 鳩ヶ谷道 善光寺道 下青木道	
2	橋…………… 2 5 4	
	松葉橋 一六橋 境橋	
3	行 商…………… 2 5 5	
	ヨカヨカ鮎屋 煮豆売り ギル屋 カンピョウ売り 座敷ボウキ売り 富山の葉売り ドッケン売り 本屋 八百屋 アイスクリン売り	
4	市……………	
	(1) 蕨の市…………… 2 5 7	
	六斎市 反物市 おかめ市	
	(2) 近傍の市…………… 2 5 8	
	引又(志木)の市 鳩ヶ谷(鳩ヶ井)の市 吹上観音様の市	
5	旅…………… 2 6 0	
	大山参り 幕末の初山 戦前の初山	



第四章 衣・食・住

第一節 衣

- 1 仕事着……………2 6 9  
農家の仕事着 仕事をする人たちの服装 一年間の衣生活 下着
- 2 晴れ着……………2 8 0  
結婚式の着物 葬式の着物 髪型・化粧
- 3 子供の服装、機織り・その他……………2 8 7  
子供の服装 機織り 裁縫 寝具 履物

第二節 食

- 1 食制……………3 0 1  
職業による食制の違い 食事をさす言葉 農家の食制 機屋の食制 職人・勤め人の食制
- 2 食事の内容……………3 1 2  
主食 副食・味噌汁 漬物 味噌・醤油・塩 酢・油・砂糖 酒・茶 間食
- 3 料理の食事の仕方……………3 3 1  
料理の仕方 食事の仕方 食器
- 4 晴れの日の食……………3 3 2  
モノビの食・ヒトヨセの食 祝いや寄りの食 結婚式の食 葬式・法事の食

第三節 住

- 1 民家と建築儀礼……………3 4 2  
蕨の民家 カマド 地鎮祭 棟上げ式 植木の忌み
- 2 大石 崇家(中央四丁目)……………3 4 3
- 3 奥田總次郎家(錦町六丁目)……………3 4 4
- 4 安田辰馬家(南町二丁目)……………3 4 4
- 5 渡辺弘之家(錦町三丁目)……………3 4 5
- 6 中島康之家(北町二丁目)……………3 4 6
- 7 金子榮一家(中央五丁目)……………3 5 0

第五章 年中行事

第一節 年中行事と暦……………3 7 5

暦法の変遷 行事の行われる日

第二節 正月準備の行事……………3 7 8

クネユイ 奉公人の宿入り・出替わり ススハキ いかめ市 火の用心 餅つき 餅のいろいろ 質餅 オソナイ カマジメ 歳神棚 正月飾り 神の膳・神の椀 門松 御歳暮 大晦日 除夜の鐘・改旦 ミソカッパライ

第三節 正月の行事……………3 9 5

若水・年男 元旦 雑煮・オセチ料理 三が日 初正月 正月の子供の遊び 正月の門付け 初詣で 旗立て 年始回り・大番 初荷 鍬入れ・仕事始め 出初め式 寺の年始・墓参 タナサガシ 寒の水・寒の粉 卯の日 初寄り 七草 蔵開き 小正月・マユダマ 小豆粥・粥かき棒 稲の花・アーボヘーボ 筒粥・粥占い ヤブイリ

第四節 春・夏の行事……………4 0 7

成年式 檀家の寄り合い 上岡の観音様 エビス講 オンタケサン 三学院の初地蔵 題目講 機屋の休日 念仏講 オサンニチ 市日 毎月 寺の行事 御嶽講のオヒマチ 春日社の春祭り 初午・ピシャ講 村寄り合い・若衆入り 神社の初午祭り 節分 八日節供 涅槃会 雛市 三月節供・雛祭り チヂモチ 彼岸 フセギ 社日参り 田うない正月・野焼き 花祭り・お釈迦様 花見 坂東まいり 大師送り 講・参詣 川ざらえ・共同作業 種まき正月 五月節供 オロクショウ・サナブリ 平方の獅子 木綿坊主 麦打ちボタモチ 朝マンジュウに昼ウドン 土用の丑の日 虫追い・虫祭り 榛名の水もらい

第五節 盆の行事……………4 3 0

盆餅 釜の口 新盆の高燈籠 盆提燈 新盆の配り 七夕 仏具磨き・井戸替え 墓掃除 機まいり 盆棚 盆棚への給仕 迎え盆 仏様参り 盆中 送り盆 盆のヤブイリ 施餓鬼 龍體院のお施餓鬼 ウラ盆

第六節 秋・冬の行事……………4 5 1

八朔・二百十日 十五夜・十三夜 音嶽講 観音堂の縁日 太子堂・薬師堂の縁日 妙顕寺の虫干し・首つきボタモチ オヒマチ・神社の秋祭り 荒神の出雲発ち 十日夜 お会式・お天道様 カ

リアゲ 秋の参詣講 大師粥 フイゴ祭り 七五三・オビトキ 冬至 星祭り カビタリ

第六章 信 仰

第一節 神社と寺堂……………4 6 3

神社の概観 和楽備神社 塚越稲荷社と機神社 春日社・丁張稲荷社など 寺堂の概観 真言宗の寺堂 臨濟宗・日蓮宗の寺院

第二節 家の神……………4 8 7

神札と幣神 家の中の神 屋敷神

第三節 講そのほか

- 1 講の変遷……………5 0 0
- 2 稲荷講……………5 0 1
- 3 観音経の講中……………5 0 2
- 4 念仏講と題目講……………5 0 3
- 5 太子講……………5 0 6
- 6 そのほかの講……………5 0 7  
榛名講と雨乞い 木曾御嶽講 大山講 成田講 智栄講 三峯講 第六天講 光生講 古峯ヶ原講 富士講 柴又講 岡のお不動さんの講中 戸隠講 猪狩講 伊勢講 文殊様の蕨講中
- 7 平方のお獅子様……………5 3 0
- 8 蕨八幡講……………5 4 0
- 9 観音参り・大師送り……………5 4 1
- 10 そのほか……………5 4 2

第四節 俗 信

- 1 予 兆……………5 4 4
- 2 ト 占……………5 5 1
- 3 禁 忌……………5 5 1
- 4 呪 術……………5 6 1
- 5 民間医療……………5 7 0

第七章 芸 能

第一節 概 説……………5 7 7

第二節 奉納芸

- 1 祭り囃子……………5 7 8  
丁張・塚越の囃子 塚越おはやし連 法華田・水深の囃子 春日町の囃子 郷の囃子 仲上の囃子 御殿町の囃子 須賀町の囃子
- 2 里神楽……………5 8 5  
八幡山(神功皇后) 紅葉狩
- 3 人形芝居……………5 8 7

第三節 蕨八幡講……………5 9 0

蕨八幡講の名称 講組織の在り方 稽古 岩城山と蕨八幡講 オシャミ相撲大会 八幡講の活躍 地方巡業 地鎮祭の奉納相撲 歴代の力士たち 興亜連盟発足 檀原神宮相撲大会出場 相撲甚句

第四節 木遣りと梯子乗り……………6 0 7

第五節 外来芸……………6 1 2

万歳 飴屋歌 瞽女 太神楽獅子舞 角兵衛獅子

第六節 その他の芸能……………6 1 5

八木節踊り 茶番劇

第七節 謡 曲……………6 1 7

第八節 下蕨観音経……………6 2 1

第九節 念仏講……………6 2 4

蜜巖流三学院遍照講塚越支部 蜜巖流三学院遍照講 太子堂念仏講 空海東寺流 太子講下蕨支部

第十節 民 謡……………6 3 0

概況 伝承者 歌詞の記述・譜例作成について

- 1 祝い歌……………6 3 1  
はつうせ 餅つき唄 トノサ節 相撲甚句
- 2 祭り踊り歌……………6 3 6  
戸田の盆唄
- 3 行事歌……………6 4 0  
ミソカッパライ 七草の唄 エビス講の唄 節分の唄 初午の唄 盆迎えの唄 十日夜の唄
- 4 仕事歌……………6 4 0  
麦打ち唄(ボー様) 機織り唄 馬方節
- 5 子供歌……………6 4 8  
ジャンケン唄 指遊びの唄 手合わせ唄 腕遊びの唄 きしゃご(おはじき)唄 お手玉唄 まりつき唄 羽根つき唄 縄とび唄 下駄隠しの唄 凧揚げ唄 トンボとりの唄 列遊びの唄 ぐり遊びの唄 人当て輪遊びの唄 鬼ごっこ

の唄 天体気象や動植物の唄 数取り唄 数え唄 絵かき唄 囃し唄 遊ばせ唄 眠らせ唄  
6 物売り歌・流行歌など…………… 6 6 7  
飴売り唄 投げ節 心中節

第十一節 童 戯…………… 6 7 3  
子供の年齢区分 地域と仲間 遊びの場所 遊びの種類

1 室内の遊び…………… 6 8 0  
あやとり 絵文字かき お手玉(ナッコ) 軍艦遊戯 きしゃご(おはじき) 手合わせ 指遊び かけごと カルタ すごろく 幻灯会

2 屋外の遊び…………… 6 8 1  
石けり 運動会ごっこ 鬼ごっこ かくれんぼ くぐり遊び 下駄かくなし 氷滑り こままわし 陣取り 戦争ごっこ 団子釣り 手ぬぐい落とし 度胸だめし 十日夜 縄とび ネットンボウ 羽根つき ひっぱりっこ 人当て輪遊び 兵隊ごっこ まりつき 水泳ぎ メンチ面遊び 列遊び

3 捕獲採集および製作の遊び…………… 6 8 6  
エビガニとり カエル カッタケとり タニシとり ドジョウとり ざっこつり ざるかぶせとりもち ホタルがり クワガタ・カブト虫とり セミとり トンボとり イナゴとり バッタとり コオロギとり ノビロつみ セリつみ モチ草つみ レンゲつみ 草イチゴ 桑の実とり イチジク・カキ・ザクロとり 竹馬 竹トンボ 弓

第八章 口承文芸

第一節 昔 話…………… 6 9 3

1 動物昔話…………… 6 9 7  
十二支の由来 かちかち山 ムリどののどを刺した話 雀と燕 猿蟹合戦 兎と亀 蟻とキリギリス

2 本格昔話…………… 7 0 3  
菖蒲湯由来 一寸法師 桃太郎 花咲じい 舌切り雀 こぶ取りじいさん 継子の話 浦島太郎 鳥も鳴かずに撃たれまい

3 笑 話…………… 7 1 1  
どっこいしょ へやのいわれ 鼠の嫁入り 肉付きの面 おば棄て山 親棄て山 和尚と小僧 子供を作る時期

第二節 伝 説…………… 7 2 7

一本杉 要害の物見の松 蛇田(比丘尼田) 蛇田王子稲荷と装束稲荷 牛に引かれて善光寺 庚申様 つるつるてんさん 第六天 荒神様 渋川公夫人と雨乞い 渋川公と雨乞い 渋川公の戦死と奥方の身投げ 渋川公龍神になる 渋川公とソバ畑 渋川公と夫人の入水 渋川公の戦死と夫人の入水 藤の地名 塚越の地名 丁張の地名 法華田の地名 姥棄て場 元日に餅をつく 節分 お雛様 菖蒲湯 七夕 エビス様 釜が鳴く

第三節 世間話…………… 7 5 4

狐の嫁入り 不思議な火 「大深い」 ソバ畑を踏みつぶす 田んぼの周りを歩く 肥溜めに入る ドジョウを取られる ウナギを取られる 魚を取られる 中山道の狐をだます 車を止めた狐 空き地にお月様 狐に教える お稲荷さんの狐 狸が尻尾で戸をたたく 烙が尾っぽで戸をたたく 蛇は主 蛇の抜け殻 猫は魔物 化け猫 猫の名前 山繭の着物 アズキトギと火 緑川のアズキババア 青い人魂 白と赤の火 火の玉 家の人には見えない 家の上に出る お墓のふたを開けた夢 枕元へ立った人 人の気配 雨戸をたたいた 夢知らせ 「まだ早い」と言われて戻る お地藏様とお不動様に手を引っ張られる 死体 部屋に入らず戻る お花畑と呼ばれて戻る 北向稲荷 お稲荷さんの祟り 子育て地藏 火伏せの地藏様 火事を教えた地藏様 火事の寸前に家人を起こす 人形の話(人形に取つかれる) 青坊主 三学院の仁王様 平方のお獅子様 米俵三俵 ずつ運ぶ 柿泥棒で浴衣をなくす 若い衆の夜遊び 瓜泥棒を謝らせる 若い衆を懲らしめる 人

糞を土産と間違える ケバさん 「ドアのうち」と呼ぶ 志村坂の後押し 笹目稲荷 梅の木稲荷 女相撲 子供を助ける 安政の地震と関東大震災 道普請 戸田の馬鹿っぱやし 泣き虫田んぼ べえべえ言葉 思案の戸田の橋

協力者一覧

あとがき

藤市史編さん関係者氏名一覧

平成6年2月4日発行

藤市

056『上福岡市史』資料編第五巻 民俗

平成9年7月

目 次

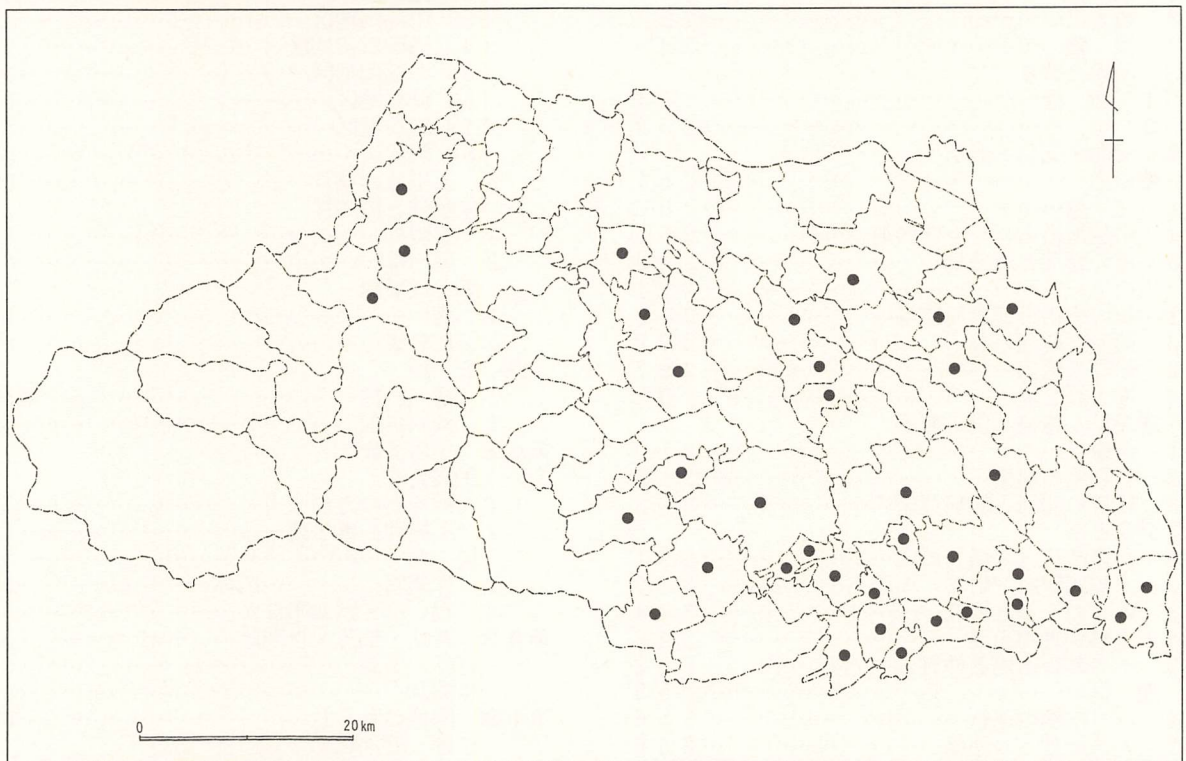
第一章 上福岡の地域概観…………… 1  
一 上福岡の地理と歴史…………… 1  
1 上福岡の地理…………… 1  
2 上福岡の歴史…………… 4  
二 上福岡の都市化と民俗の変化…………… 1 2  
1 都市化における民俗変化…………… 1 2  
2 団地・新興住宅地の習俗…………… 1 7  
第二章 ムラと家…………… 1 7  
一 ムラの社会生活…………… 1 9  
1 ムラ…………… 1 9  
2 ムラの組織と運営…………… 2 6  
3 ムラの活動…………… 3 7  
4 近隣集団…………… 4 0  
二 年齢集団…………… 4 6  
1 青年集団…………… 4 6  
2 消防集団…………… 5 3  
3 子供集団…………… 5 9  
4 婦人集団…………… 6 3  
5 老人集団…………… 6 8  
三 家と親族…………… 7 1  
1 ウチ(家)…………… 7 1  
2 家の内部一家に生活する人々…………… 7 3  
3 家の内部一家の継承…………… 7 7  
4 家の日常生活…………… 8 4  
5 親族…………… 8 9  
四 交 際…………… 9 8  
1 家の交際…………… 9 8  
2 結婚をめぐる交際…………… 9 9  
3 人の誕生と交際…………… 1 0 5  
4 人の死と交際…………… 1 0 8  
5 近年の変化…………… 1 1 7  
第三章 生産と生業…………… 1 2 1  
一 稲作と畑作…………… 1 2 1  
1 稲 作…………… 1 2 6  
(1) 耕地の所有と土質・耕地整理…………… 1 2 6  
(2) 稲作の過程…………… 1 2 8  
2 畑 作…………… 1 4 7  
(1) 作物の変遷・耕地の所有と土質…………… 1 4 7  
(2) 一日の労働…………… 1 5 2  
(3) 麦作り(大麦・小麦・ビール麦)…………… 1 5 2  
(4) 甘 藷…………… 1 5 8  
(5) ニンジン…………… 1 6 3  
(6) ゴボウ…………… 1 6 5  
(7) 陸 稲…………… 1 6 8  
(8) ホウキモロコシ…………… 1 6 9  
(9) 養 蚕…………… 1 7 1  
(10) 茶…………… 1 7 4  
(11) その他の作物・家畜…………… 1 7 4  
(12) 畑作物と出荷…………… 1 7 7  
3 肥 料…………… 1 7 8  
4 農家で働く人・農耕儀礼・禁忌・農休日…………… 1 7 9  
二 さまざまな仕事と諸職…………… 1 8 2  
1 職人の仕事と諸相…………… 1 8 3  
(1) 市域における職人の歴史…………… 1 8 3  
(2) 職人の系譜…………… 1 8 5  
(3) さまざまな仕事…………… 1 8 7  
2 箒 屋…………… 1 8 8  
3 井戸掘り職人…………… 1 9 8  
4 屋根屋…………… 2 0 3

5	桶屋	209
6	カゴ屋	214
7	足袋屋	219
8	紙漉き	221
9	船大工	227
10	機織	246
11	漁撈と狩り	
	(1) 漁撈	251
	(2) 狩り	259
第四章 交通・交易・通信		
一	陸の道	261
1	河岸道	262
2	川越街道とムラムラの道	266
3	道の管理と道普請	268
二	川の道	271
1	新河岸川舟運と河岸場	272
2	荷船と船頭の暮らし	279
3	船頭の信仰	297
4	橋と渡し場	303
三	運搬具と運輸手段の変遷	
1	運搬具	310
2	車利用の運搬	313
3	鉄道の開通と駅前運送店	323
四	交易と市	
1	舟運時代(町場)の店	331
2	上福岡駅前(町場)の店	335
3	ムラのミセと行商	344
4	上福岡青物市場	349
5	その外の市場と仲買人	352
五	通信	355
1	ムラ内部の連絡	356
2	ムラの外への連絡	356
第五章 衣・食・住		
一	衣生活	
1	衣生活の変化	359
2	仕事着	361
3	子供着と晴れ着	364
4	衣服の整理・管理	366
5	裁縫・編み物・ウチオリ	369
6	かぶりもの・履物・雨具	372
7	髪型と化粧	375
二	食生活	
1	変化した食生活	378
2	食制と飲食器	380
3	毎日の食事	382
4	ハレの日の食事	388
5	調味料・保存食・調理用具	398
三	住生活	
1	屋敷と母屋	402
2	カマド・イロリ・暖房	414
3	屋根葺き	416
4	風呂	417
5	井戸	418
6	照明	420
7	建築儀礼	423
第六章 儀礼		
一	年中行事	
1	暦と年中行事	427
2	正月行事	429
3	春から夏にかけての行事	437
4	盆行事	440
5	秋から冬にかけての行事	447
6	現在の年中行事	449
二	人の人生	
1	産育	459
2	婚姻	463
3	葬送	471
4	現在の人の一生の儀礼	478
第七章 信仰		
一	神社と寺院	
1	市域の神社と寺院の概観	483
	(1) 神社	484
	(2) 寺院	488

2	市域の神社・寺院	
	(1) 滝地区	490
	はげ	
	(2) □地区	495
	(3) 中福岡地区	497
	(4) 福岡新田地区	503
	(5) 下福岡地区	505
	(6) 駒林地区	513
	(7) 川崎地区	520
	(8) 駅周辺	526
3	天王様の祭り	529
二	屋敷神と屋内神	
1	屋敷神	535
2	屋内神	539
三	講と代参講	
1	講	550
2	代参講	557
四	祈願	
1	個人祈願	566
2	共同祈願	570
第八章 民俗芸能		
一	民俗芸能	
1	福寿連の万作	575
2	下福岡の囃子連	583
二	民謡	584
1	作業唄	585
2	祝い唄・娯楽唄ほか	589
第九章 昔話・伝説・世間話		
一	昔話・伝説	594
二	世間話	604
第十章 団地の暮らし		
一	伝統と近代化	
1	伝統的社会と「団地の暮らし」	616
2	「団地の暮らし」の読み取り方	617
3	変化する「団地の暮らし」	619
二	「文化住宅」の誕生	
1	「団地」の登場	621
2	あこがれの「文化住宅」	625
3	ダイニング・キッチンのある生活	628
三	団地の「生活共同体」	
1	生活共同体の芽生え	634
2	「団地族」の力学	637
3	「団地族」の共同体機構	640
四	「団地族」の交際	
1	団地集会所の空間	644
2	グラウンドの空間	647
五	「ムラ」から「まち」へ	651
第十一章 吉野とめさん(102歳)の思い出ばなし		
一	子どものころ	655
二	婚姻	657
三	産育	659
四	葬送	660
五	衣生活	662
六	食生活	664
七	住生活	665
八	家業について	667
九	思い出	668
	参考・引用文献一覧	671
	民俗調査話者一覧	673
	資料提供者・協力者一覧	675
	執筆分担一覧	676
	上福岡市史編纂関係者名簿一覧	677
	あとがき	678
	索引	巻末

平成9年7月31日発行  
上福岡市

## 県内『民俗編』刊行状況図



## おわりに

前回でも今回でも、当該市町村の『民俗編』刊行前のテスト・ラン的な民俗調査報告書の章立て資料の提示は多く行っていない。とりわけ、すでに『民俗編』刊行された事例では、『民俗編』そのものの章立ては紹介したが、それ以前の報告書は行っていない。ただ、『民俗編』が刊行されていない、つまりテスト・ラン最中の報告書は紹介しようと努めてきたのである。

次回では、もう少し市町村で刊行された民俗資料報告書を捜しだして、章立て資料を提示し、経時的に民俗調査報告書の章立ての変遷をたどってみたいと思う。章立てという窓口は明らかに、民俗調査というもののイデオロギーが内包されていると考えている。つぎなる段階での資料提示の後に、『民俗編』の問題点について、自分自身の大いなる反省を含めながら述べてみたいと考えている。